

岡山県学校図書館研究集録

第 54 号

平成 29 年

— 2 0 1 7 —

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会

会長 福田 邦 男

皆様方におかれましては、各学校の図書館の魅力増進や生徒の読書指導の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会の取組についても御支援・御協力を賜り心より感謝申し上げます。皆様の積極的な御協力に支えられて、本年度も数々の事業を展開し、このたびその活動記録として、「岡山県学校図書館研究集録」を作成いたしました。平成26年度までは、印刷製本してまとめていましたが、経費削減のため平成27年度からはホームページに掲載して公開させていただいています。

さて、学校図書館をめぐる全国の動きとして、平成28年11月に文部科学省から「学校図書館ガイドライン」が示されました。それによると、次期学習指導要領を踏まえて、学校図書館には、これまでの「読書センター」としての役割に加えて、アクティブ・ラーニングや探究学習などに対応した「学習センター」と、子どもたちの情報活用能力を育成する「情報センター」としての役割が求められています。学習センターとしての役割としては、グループ学習などでの討論の場としての機能なども求められています。次期学習指導要領においては、「何を学ぶか」といった「知識の質や量の充実」はもちろんですが、「どのように学ぶか」といった「学びの質や深まり」や「何ができるようになるか」といった「育成すべき資質・能力」の視点からの教育活動が求められており、その学びの場として、学校図書館をどのように充実させていくかが今後の課題であると思います。

また、平成29年度から5年間を期間とする「学校図書館図書整備等5か年計画」が策定されました。この中では、学校図書館図書の整備、学校図書館への新聞配備、学校司書の配置が盛り込まれ、それに伴う財政措置がとられることになっています。この計画によって、読書好きな子どもを増やし、授業で新聞・図書を使って思考力や判断力や表現力を育み、探究的な学習活動を通じて子どもの情報活用能力を養うことが求められており、図書館機能の充実が喫緊の課題となっています。皆様におかれましては、この計画の趣旨に沿って、学校同士で連携をとりながら各学校の図書館の魅力化に積極的に取り組んでいただくことをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、この研究集録を作成するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係者に厚く感謝申し上げます、巻頭のあいさつといたします。

目 次

発刊によせて

平成29年度岡山県学校司書研修会(倉敷大会)	1
第52回岡山県学校図書館研究大会津山大会	3
第63回青少年読書感想文岡山県コンクール	39
第29回読書感想画岡山県コンクール	52
絵本研究部会	56
優良図書研究部会	61
指定図書選定委員会	70

その他

1 平成29年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告	71
2 平成29年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告	72
3 岡山県学校図書館協議会組織図	80
4 岡山県学校図書館協議会規約	81
5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則	83
6 岡山県学校図書館協議会67年の歩み(略年表)	85

平成29年度岡山県学校司書研修会(倉敷大会) 要項

主催 岡山県学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会司書部会
共催 倉敷市学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会備中支部
後援 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会

1 日時 平成29年7月26日(水) 13:00~16:00

2 会場 水島愛あいサロン
岡山県倉敷市水島東千鳥町1-50
TEL 086-440-5511

3 日程

11:30	12:30	13:00	14:00	14:10	16:00
交流会	受付	開会行事 総会	全体講座		

4 開会行事

5 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2016(H28)年度活動報告(理事会活動報告)
- (3) 2016(H28)年度決算報告
- (4) 2016(H28)年度監査報告
- (5) 質疑・応答・承認
- (6) 2017(H29)年度役員補充(案)
- (7) 2017(H29)年度活動方針・事業計画(案)
- (8) 2017(H29)年度予算(案)
- (9) 質疑・応答・承認
- (10) 情勢報告(地区活動報告・実態調査報告)
- (11) 議長解任

6 全体講座・研修

「自ら考える」力を引き出すための探究的な学習支援

～学校図書館が生徒の「読む」「考える」「表現する」をサポートするには～

講師 高橋和加氏(鳥取県立鳥取西高等学校 司書)

■ 高橋和加氏 プロフィール ■

2000年 図書館情報大学卒

2002年 鳥取県立図書館 司書(収書、児童、ビジネス支援担当)

2005年 鳥取県立青谷高等学校 司書

2013年 鳥取県立鳥取西高等学校 司書

共著に『困ったときには図書館へ 2 学校図書館の挑戦と可能性』悠光堂 2015

7 交流会 (11:30~12:30)

自由参加で行います。地域・校種を越えた交流ができる機会ですので、多数ご参加ください。

第52回岡山県学校図書館研究大会津山大会開催要項

- 1 主催 岡山県学校図書館協議会
- 2 共催 岡山県小学校教育研究会 岡山県中学校教育研究会
岡山県高等学校教育研究会 岡山県国公立幼稚園・子ども園教育研究会
津山市教育委員会 津山教育事務所管内学校図書館協議会
美作地区高等学校図書館協議会
- 3 後援 岡山県教育委員会 岡山県市町村教育委員会連絡協議会
岡山県読書推進運動協議会 (公社) 全国学校図書館協議会

4 期日 平成29年8月22日(火)

5 大会テーマ 『豊かな心を育み、言語活動を充実させる学校図書館』

6 大会趣旨

PISA調査の結果から、我が国の子ども達には、思考力・判断力・表現力に課題があるのではないかとわれはじめて10年になる。学習指導要領でも、言語活動の充実を図るよう求められてきた。「読む」「書く」などの言語活動を、学習の中に意図的・計画的に位置づけることで、思考力・判断力・表現力を育成していこうとするものである。これからの学校教育において、こうした言語活動の結晶ともいえる書物や資料を扱う学校図書館の役割は、益々重要な位置を占めていくものであろう。

また一方で、教育の情報化も進められ、児童・生徒は学習に際して、電子媒体からも広く情報を得られるようになってきている。さらに、ここ数年のスマートフォンやタブレット型パソコン等の情報機器の普及により、日常生活場面での情報収集の形も変わってきて、これまで以上に書物等から離れる傾向も見られ始めており、学校図書館の在り方も問われる時代になっている。

しかし、子ども達に有益な図書や学校図書館の存在が、幼児・児童・生徒の心を育むこと、課題となっている学力の向上を支えることに大きな力を発揮すること、すなわち子ども達が生きる力を身に付けていく上で重要な役割と位置を占めていることは、今までもこれからも変わることはない。本大会では、こうした学校図書館がもつ役割や使命を再確認し、幼児・児童・生徒の豊かな感性や情操を育む学校図書館の在り方、思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実を支える学校図書館の在り方等について、4つの分科会で発表される研究発表を通して研修を深め、学校図書館のさらなる充実を目指していきたい。

7 日程

9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	15:40
受付	開会行事	講演	昼食・移動	分科会	

8 講演 演題 「 広場としての図書館 」

講師 劇作家・演出家 大阪大学特任教授 平田 オリザ 氏

分科会一覽

<分科会 A : 勝北支所> 学校図書館の運営・連携

発 表 者				助 言 者	司 会 者	記 録 者	運 営 責 任 者
和気町立 本荘小学校 赤枝 朋子 (司書教諭) 吉房ゆかり (司書) p8	和気町立 和気中学校 川上万理子 (教諭) p10	岡山県立 倉敷南高校 大西 結美 (司書) p12	/	岡山県立 和気閑谷高校 香山 真一 (校長)	岡山県立 津山高校 住友加奈子 (司書)	岡山県立 津山工業高校 矢吹 仁志 (教諭) 岡山県立 津山商業高校 福島 史子 (教諭)	真庭市立 久世中学校 田中 裕恵 (教諭)

<分科会 B : 小ホール> 豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館

発 表 者				助 言 者	司 会 者	記 録 者	運 営 責 任 者
浅口市立 寄島小学校 藤原 恭子 (司書教諭) 小野田ひかる (司書) p14	津山市立 新野小学校 田口ひとみ (司書教諭) p16	新見市立 新見第一中学校 山本由里子 (講師) p18	岡山県立 倉敷商業高校 山磨 孝子 (司書教諭) p20	岡山県立 高梁高校 蟻正 教子 (校長)	津山市立 中道中学校 高橋 寿子 (教諭)	津山市立 一宮小学校 須田めぐみ (教諭) 津山市立 誠道小学校 森里 衡子 (講師)	真庭市立 蒜山中学校 槇野さとみ (教諭)

<分科会 C : 大ホール> 言語活動の充実を支える学校図書館

発 表 者				助 言 者	司 会 者	記 録 者	運 営 責 任 者
岡山市立 幡多小学校 中島 早苗 (教諭) 伴 涼子 (司書) p22	岡山市立 旭東中学校 安東 美香 (司書教諭) 長瀬 幸子 (司書) p24	美作市立 英田中学校 井上 博文 (教諭) p26	岡山県立 西大寺高校 遠藤 撰夫 (教諭) p28	岡山県立 津山商業高校 槇野 滋子 (校長)	美咲町立 中央中学校 長尾 路子 (教諭)	真庭市立 落合小学校 白石 直子 (教諭) 真庭市立 月田小学校 安田 京幸 (講師)	真庭市立 落合小学校 山本 信子 (教頭)

<分科会 D : 勝北公民館> 心をつなぐ絵本

発 表 者				助 言 者	司 会 者	記 録 者	運 営 責 任 者
岡山市立 鹿田幼稚園 篠 崇敏 (教諭) p30	岡山県立 倉敷商業高校 岡部 香 (教諭) p32	/	/	津山市立 図書館 大河原 信子 (副館長)	倉敷市立 南中学校 難波 真 (教諭)	久米南町立 神目小学校 野呂 直子 (教諭) 美咲町立 加美小学校 日野 麻美 (教諭)	真庭市立 草加部小学校 唐木 美穂 (教頭)

親しみやすい学校図書館づくり ～学校図書館の活性化のためのしなやかな連携を目指して～

和気町立本荘小学校 司書教諭 赤枝 朋子
学校司書 吉房 ゆかり

1 はじめに

(1) 地域の概要

和気町は、岡山県の南東部に位置し、人口約15,000人の町。小学校が7校、中学校が2校あったが、平成29年度から、統廃合により小学校は3校になった。

(2) 本校の概要

- ① 児童数 平成29年度・・・266名
- ② 学級数 各学年2学級
特別支援学級3学級
計15学級と通級指導教室

(3) 本校の図書館

- ① 学校司書 1名（常勤）
- ② 蔵書数 10591冊
（平成29年3月31日現在）
- ③ 本の貸し出し・返却のための開館
木曜日朝の時間と休み時間
- ④ 貸出冊数 1人1冊まで
（長期休業中は1人3冊まで）
- ⑤ 現状と課題

昨年度、読書に関するアンケートを行ったところ、「読書が好きですか」という質問に対し、全体の約9割の児童が「好き」と答えた。一方で、1割の児童は読書に興味をもてていないことが分かった。また、貸出数は多くても、借りる本の分類に偏りが見られがちである。このような点から、児童がより意欲的に本に親しむことができる環境づくりを行う必要があると考えた。

2 具体的な取り組み

(1) 図書館の環境整備

① 居心地のよい雰囲気づくり

図書館の外や教室に、季節に合った壁面や掲示板を装飾することで、児童が親しみやすい雰囲気づくりを行った。

② 個人カードの利用

バーコードでの貸出・返却に加え、個人カード（手書きで本の題名を書いていくカード。1枚に10冊書ける。）での管理をしたことで、10冊借りるごとに「プラス1冊券」や「しおり」がもらえ、沢山の本を借りようと児童の意欲を高めることにつながった。

③ 「何でしょうコーナー」の設置

全児童が必ず通る1階の職員室前に、「何でしょうコーナー」を設置した。そこには、季節の植物や珍しい物を資料と一緒に展示した。それが何か分かった児童は答えをカードに書いて図書室に持って行き、正解すればしおりか2冊借りられる券のプレゼントがもらえるというお楽しみ活動である。学年を問わず多くの児童が取り組み、図書室に足を運ぶ機会が増えた。



(2) 校内の連携

① 学校司書と司書教諭の連携

学校司書が1日の業務内容を記したファイルを司書教諭と毎日やりとりすることで、図書館の様子を把握したり、今後の方向性を考えたりすることができた。また、本校の学校司書は勤務形態が常勤のため、放課後の時間に細かな打ち合わせをしたり、情報提供をし合ったりすることができた。

② 学級担任との連携

1～4年生では、週に1時間授業として図書の時間を設け、本の返却や貸出、学校司書によ

る絵本の読み聞かせを行っている。担任も、学級の児童がどのような図書に興味をもっているのかを把握することができたので、読書指導に役立った。

また、国語科での並行読書に使用する本や、社会科や総合的な学習の時間での関連本を学級担任と相談して用意し、教室や廊下に「ブックコーナー」として児童が手にとりやすい環境を設定した。

また、国語科の教科書に掲載されている「この本よもう」からワークシートを作成し、その中から何冊か選んで読み、一言感想を書く時間を設けた。

③ 図書委員会の児童の取組

図書委員会の主な仕事内容としては、朝読書を知らせる音楽を鳴らすこと、カウンター当番として本の返却・貸出の補助や書架の整理をすることである。年度の初めには、図書館キャラクターを募集、選定もした。読書月間には、委員会の児童を中心に「多くの人が本に親しめる活動」を考え、実践した。昨年度は、読書月間の取組を絵本にして児童朝会で紹介、読書川柳の募集、カウンター当番体験の3つを企画、実施した。また、各学期に1度ずつ、朝読書の時間に読み聞かせに行き、発達段階や季節にあった絵本を紹介することができた。

④ 学校独自の取組との連携

- ア 家庭学習がんばり週間
- イ 外国語週間

(3) 家庭・地域との連携

① 家庭との連携

長期休業中には、児童が読んだ本の感想を3冊分書く欄と、保護者から1冊おすすめの本を書いていただく欄を設けたカードを各学年に配布した。多くの児童、保護者が意欲的に取り組んでいる。

③ 町立図書館との連携

毎学期、学級文庫として各学級に30冊ずつ借りている。本は、町立図書館司書の方が各学年に応じたものを選別してくださる。また、学期に1度ずつ、各学級への朝の読み聞かせや、昼休みの時間にお話の部屋を実施してくださる。

③ お話ボランティアの方の協力

「いっぷく do」というお話ボランティアの方々が、学期に1度、昼休みの時間にお話をしに来

てくださる。ペープサートや歌、手遊びをして楽しくお話を紹介して下さっている。



(4) 他校との連携

昨年度は、町内の小学校が統廃合するために該当する学校では年間を通して備品整理を行った。まず、学校司書が中心となり、各校の図書をリストアップし、廃棄する図書と合併した学校に持って行く図書に色分けをしてシールを貼って分類する作業を行った。廃棄する図書は、「ブックリユース」を開き、保護者や児童が持って帰れるようにした。再利用できないような廃棄図書の扱いも共通理解した。

統廃合する学校から書架を移動したり、除籍資料の受け入れをしたりするなど、円滑な連携ができた。また、購入の段階でも統廃合する学校が購入リストを公開することで、予算を有効に使うことができた。

3 おわりに

お楽しみイベントなどをきっかけに、どの児童にとっても気軽に図書館に足を運ぼうとする機会や環境を設定することができた。また、昨年度は、高学年も自習の時間などに図書館を利用することが度々あり、その都度読み聞かせをする機会を設けることができた。

「この本よもう」の取組により、教科書の内容に沿った本が必然的に読んでいる。しかし、コミック形式の本を好んで読む児童が多いことから、貸出する本の偏りは未だに多い。読書の幅を広げるためには、本の紹介をしたり、読む機会をより多く保証したりする工夫が必要であると感じた。

今後も引き続き、図書館司書と司書教諭とが連携をしながら、親しみやすい学校図書館づくりを行っていきたい。

地域・学校間の連携を基にした学校図書館の取り組み

和気町立和気中学校 教諭 川上 万理子

1 はじめに

研究を進めるに当たって、和気・瀬戸内支部の5校で集まり、「学校図書館」「連携」「運営」をキーワードとして考えた。その中で「学校司書との連携」「地域との連携」という点で各校で取り組んだことを話し合い、現状を確認し合った。

学校司書との連携は、各校で授業や、委員会活動を中心に行われている。

地域との連携においては、5校共通の取り組みの他、各校独自の取り組みがあった。

そこで、共通の取り組みと各校独自の取り組みとを情報交換し、その具体的な方法を共有することで、読書への興味や関心を高めるきっかけにしたいと考えた。

2 研究の概要

(1) 主な取り組み

〈5校共通の取り組み〉

- ・ 地域図書館との連携による資料活用
- ・ 朝読書の時間を利用した地域の「読み聞かせボランティア」による読み聞かせ

〈各校独自の取り組み〉

- ・ 地域の公共施設での読書啓発活動
「ポップ作り」(長船中学校)
「オススメの本の紹介」
(牛窓中学校・佐伯中学校・和気中学校)
- ・ 小学校・保育園・幼稚園訪問での中学生による読み聞かせ

(邑久中学校・長船中学校・和気中学校・牛窓中学校)

- ・ ビブリオバトル(邑久中学校・長船中学校)

(2) 具体的な取り組みの例

- ① 朝読書の時間を利用した、地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせ
(邑久中学校の例)

地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせは毎月第1金曜日に行われており、地域の方とのつながりを強く意識する場となっている。ボランティアの方々からも肯定的な感想を毎回いただき、生徒たちの感想も前向きなものが多い。

- ② 小学校・保育園・幼稚園訪問での読み聞かせボランティア
(牛窓中学校の例)

牛窓中学校では、平成25年度から継続して年1回夏休みに、図書委員会で学校近くの保育園を訪問して、読み聞かせを行っている。年齢別のクラスに分かれて、「絵本」「大型絵本」「紙芝居」などの読み聞かせや「手遊び」「パネルシアター」などを行い、園児に喜ばれている。

活動の立ち上げに当たっては、司書が保育園長・中学校長の承諾のもと、各校園の職員会議で共通理解を図っている。

③ 学校図書館と委員会活動・地域が連携したポップ作り〈長船中学校の例〉

牛窓中学校が長年取り組んでいる「オススメの本 紹介カード」の実践を、学校司書の研修会で長船中学校の司書が知り、紹介カードをポップとして作成しようと考えた。そこで、3年前の夏休みに書店員に来校してもらい、希望者対象で「ポップ作り講座」を開催した。2016年秋、県内の中学校のポップ作りの記事が新聞に掲載されたこともあり、ポップ作りを読書週間の文化委員会の取り組みとして計画した。

ポップは、作品の素晴らしさ、内容を伝えたいという思いを刺激し、自由な発想で作る楽しさも味わえる魅力的な素材である。そこで、ポップ作りの解説書や、イラストやデコレーションに関する本を展示し、色画用紙やマスキングテープ、パンチなどの小物を豊富に準備することで、創作を手助けした。

150点を超える作品が集まり、校内掲示も行った。同じ中学生が作ったポップを、生徒は興味をもって見ていた。さらに、地域の長船図書館にスペースを設け、20点のポップを展示し好評を得た。

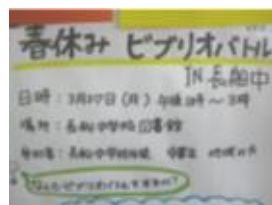
④ ビブリオバトル〈長船中学校の例〉

「ビブリオバトル」を知らない生徒も多いため、文化委員会で有志を募り、邑久中学校の実践の様子を見学した。その体験で新鮮な感銘を受けた生徒が「ぜひ長船中学校でもやってみたい」と意欲を燃やし、春休みに行う委員会のイベントとして計画を立てた。

まず、文化委員がクラスでビブリオバトルの内容を説明し、参加者を募った。「バトル」というと「競争」や「勝ち負け」というイメージが強くなり、参加に尻込みをする生徒もいたため、自分の好きな本をグループの中で互いに紹介する会だと説明した。

初代のビブリオ経験者（高校生）や、地域の読

み聞かせボランティアの方も招いて、6人グループを6組で実施した。中学生の感想としては「緊張したけど、きちんと聞いてくれてうれしかった。」「他の人の本もおもしろそうで、参加して良かった。」などがあった。和やかな雰囲気です、読書の意欲をさらに喚起する良い機会となった。



3 成果と課題

〈 成果 〉

これまで学校図書館の運営や活動の企画などは、学校司書の役割に負うところが多かったが、今回の研究により学校司書と担当教員の「連携」が進んだ。そして行事を企画・運営するためのノウハウを5校で共有することによって読書への意欲を高めることができた。

また、情報交換が頻繁に行われることにより、新しい取り組みに対する立ち上げの動きが生まれ、未実施の学校でも地域との連携を生かした取り組みが実践された。

〈 課題 〉

現在、生徒の読書活動の企画・運営のコーディネートの中心を学校司書が担っているが、担当教員と学校司書の協力・連携を深めていくことがさらなる課題だと考えている。

学校の規模や人員体制などの違いはあるものの、各校の優れた取り組みやノウハウを継承し、共有できるシステムを作っていくことが必要である。

学び続ける人を育てる ～学校図書館からその先へ～

岡山県立倉敷南高等学校 司書 大西 結美

1 はじめに

(1) 倉敷南高校

本校は生徒 950 名教職員 91 名の大規模校。倉敷市街地に立地し、周辺には各種公共施設や商業施設が整っている。ほぼ 100% の生徒が大学に進学する進学重視型単位制普通科高校である。「自分の言葉で自分の夢を語る生徒を育成する学校」をビジョンとして、「倉敷町衆プロジェクトによる学びの志の育成」「21 世紀型学力推進プロジェクトによる真の学ぶ力の育成」「楽しく充実した南高生活のサポート」を掲げている。また、キャリア教育の 4 本柱 ①自ら学ぶことのできる力 ②論理的な思考力 ③表現力・プレゼン能力 ④大学入試を突破できる学力 の習得を目標に、学校図書館も授業内外の様々な取り組みを支援している。

(2) これからの教育と学校図書館

学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議 (2016) 「これからの学校図書館の整備充実について (報告)」において、学校図書館が育てる力は生涯にわたる学習の基盤となるものであり、校内での学びのサポートだけでなく、公共図書館等との連携協力を努め、児童生徒が図書館を始めとする地域社会で学ぶことのできる力を育ていくことも求められている。

2 ライフステージと図書館利用

(1) 大学図書館 (高大接続)

新しい時代に向けて高等学校教育と大学教育、大学入学者選抜の一体的改革が進んでいる。大学における主体的な学修の基盤は義務教育から高等学校教育で習得する知識や能力であり、生涯学習者を育てることが高等学校及び大学教育の使命とされている。

お茶の水女子大学では、平成 29 年度入試から「新フンボルト入試」という附属図書館

を舞台にした新しい AO 入試がスタートした。高校までの図書館利用経験、情報活用能力が問われる。

そこで、県内大学図書館に入学者に望むことをたずねてみると、「本を読むことへ抵抗感がないこと」「図書館へ通う習慣」「図書館へのよいイメージ」「図書館利用の基本的なルールやマナーの理解」といった答えが返ってきた。「図書館の使い方やレポート作成など学びをサポートする講習会等を開いているので大丈夫です。」と言われ、高校までの情報活用能力定着状況が不安になった。

また、大学図書館の役割は調査研究 (発表) が完成するための支援が中心で、大学図書館を使いこなせるようになれば、公共図書館の利用も上手にできるという認識で、公共図書館の利用指導は特に行われていないようである。

(2) 公共図書館

倉敷市立図書館の平成 28 年度貸出のべ人数の内、16 歳から 29 歳までの割合は 5.61% (この層の人口の割合 14.7%)。高校、大学卒業後の若年層の図書館利用は非常に少ない。「若者へのサービスに苦慮している。」「高校生の現状や読書傾向などの把握が難しい。」「情報リテラシー支援への取り組みはこれからである。」とうかがった。

現在倉敷市立の小学校では、距離の近い一部の学校だけが市立図書館の見学を実施している。高校入学後たずねてみると、子どもの時周りの大人に連れられて図書館へ行ったことはあるが、今は行っていないという生徒が大多数である。自身の利用者カードを持っているかどうかも定かでない。

長谷川幸代 (2015) は高校時代の学校図書館、公共図書館の利用経験がその後の人生における公共図書館利用と相関関係があること

を示し、「学校や家庭での読書活動や公共図書館と関わりをもつ教育を、より多く取り入れることも効果的かもしれない。」と述べている。

高校卒業後社会に出る生徒にとっては最後の指導機会となる可能性もある。多くの高校生は自身で図書館へ足を運ぶことができる。在学中積極的に公共図書館の存在意義を知らせ、利用方法を教えることが必要ではないか。

(3) 指針・基準

複数館種を含むものは、全国学校図書館協議会「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」と日本図書館協会利用教育委員会「図書館利用教育ガイドライン」があるが、小学校から大学まで繋がってはいない。現在、日本図書館協会利用教育委員会が学校図書館と大学図書館、公共図書館を包含・俯瞰した「枠組み（仮称）」を検討中である。

3 倉敷南高校の取り組み

(1) 情報活用能力の育成

主体的に学び、知識情報を獲得し活用するための基本は「読む力」である。図書委員会や司書が「押し本」コメント展示や多方面からの特集展示を行い、読書推進を図っている。

教科学習に対する支援は、課題対応と発展学習のための資料展示が中心。本校では「倉敷町衆プロジェクト」が学校図書館を使った情報活用能力育成の核になっている。

生徒を指導する教員に対しても、司書がミニ研修「学校図書館ができること」を行った。

(2) 公共図書館・大学図書館利用促進

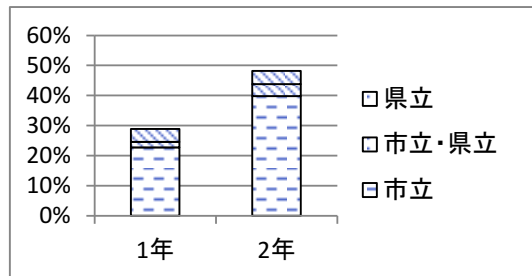
入学後の図書館オリエンテーションで倉敷市立図書館の登録申請用紙を配り、カードを作りに行くよう話している。学校図書館未所蔵の資料が必要になった時、司書と一緒に公共図書館の蔵書検索を行う。県立図書館からの搬送は週1便なので、急ぐ場合は市立図書館に予約をすれば学校帰りに受け取りに行けることを説明し、利用を促している。

公共図書館の新刊案内やイベント等を紹介する掲示版を常設するとともに、広報紙でも公共図書館の役割やサービスについて随時知らせている。市立図書館司書の出前講座の実施や、図書委員のPOPを市立図書館に掲示してもらおうなどの連携事業も実施した。

4 成果と課題

(1) 成果

昨年11月、高校に入学後公共図書館の資料を借りたことがあるかどうかをたずねた。



2年次秋までに半数近くの生徒が市立図書館へ足を運び資料を借りている。入学時の利用登録のすすめに始まり、学習のいろいろなタイミングで公共図書館の利用を促してきた効果が出ていると思われる。

本校「21世紀型能力ルーブリック評価」の中の情報活用能力関係項目においても、自己評価数値の上昇がみられた。

(2) 課題

中学校、大学との接続を意識した自校の「情報活用能力指導体系」を作成実行すること。その際カリキュラムマネジメントの視点と、教員と司書の協働が必要である。

小学校、中学校、高等学校、大学図書館へ各ステージで適切な利用指導・支援を行い、次のステージへ繋いでいきたい。またそれぞれのステージで、公共図書館との相互協力・相互補完が必要であろう。全国的な動きに注目しながら、まずは市内、県内の各学校、大学、公共図書館間で情報共有や意見交換を行い、図書館関係者、教育関係者皆で学び続ける人を育てていきたい。

参考文献

・森いづみ (2016) 「館種を超えた情報リテラシー教育の可能性 大学図書館の実践から：お茶大の高大接続を中心に」日本図書館協会第20回図書館利用教育実践セミナー発表資料

<http://hdl.handle.net/10083/58307>

(参照 2017.8.22)

・長谷川幸代 (2015) 「公共図書館の利用・非利用に関わる要因の分析と考察」博士論文 中央大学
<https://ir.c.chuo-u.ac.jp/repository/search/binary/p/7369/s/5260/> (参照 2017.8.22)

分科会A 「学校図書館の運営・連携」研究協議の概略

発表者	赤枝 朋子	(和気町立本荘小学校 司書教諭)
	吉房ゆかり	(和気町立本荘小学校 学校司書)
	川上万理子	(和気町立和気中学校 教諭)
	大西 結美	(岡山県立倉敷南高校 司書)
指導助言者	香山 真一	(岡山県和気閑谷高校 校長)
運営責任者	田中 裕恵	(真庭市立久世中学校 教諭)
司会者	住友加奈子	(岡山県立津山高校 司書)
記録者	矢吹 仁志	(岡山県立津山工業高校 教諭)
	福島 史子	(岡山県立津山商業高校 教諭)

発表1の質疑応答

質問1：図書貸出業務は朝や休み時間で行うと説明があったが、放課後は図書館を開けないのか。

回答：集団下校のため、放課後は開館しない。

質問2：図書カードを廊下に置いていると説明があったが、先生がいないとき、勝手に誰かが持っていくということはないか。

回答：現在までのところ勝手に持っていくということはない。事前にマナー指導をしている。

発表2の質疑応答

質問1：5校共通の取り組みで、場の設定、頻度、人数などを詳しく教えてほしい。

回答：昨年度は学期ごとに行い、全体で4回程度、文化委員は不参加で、担当教員のみで情報交換と確認を行った。

質問2：ビブリオバトルの事前指導は行っているか。また、参加した地域、高校生、大学生にどのように声かけをしたのか。

回答：春休みに計画、司書と教員のペアで指導、各クラス朝読の時間で3分程度のミニバトルを実施した。邑久高校で体験済みの生徒が大学生になっているので、声をかけた。また、地域の読み聞かせボランティアの方々にも協力してもらった。

質問3：小学校への訪問について、日程等ほどのよう決めているか。

回答：毎年夏休み前に小中の司書間で相談・調整して、日程を決めている。夏休みを利用して、午前10：00～11：00に訪問し、5、6つのお話を数名のグループで実施している。

発表3の確認意見：全校数950名に対して年間貸出数が6270冊余り。一人約7冊で合っているか。もっと継続した読者が育てば良いと思う。

回答：それで数字は合っている。

グループ(G1～G12)の協議による発表

G1：先進校である大安寺中等教育校の取り組みが素晴らしいと伺って、学び続ける姿勢が大事であると思った。G2：本の活用の仕方や、自分に合った本を選ぶことも大事である。場の設定、どんな本に出合わせるかという工夫が、本荘小学校の発表を聞いて参考になった。高校生は読む冊数は減るものの、自分に合った本を選んでいく。必要な本だったら、借りるより書店で買い、自分で時間を見つけて読むのなら、手元にあった方がいいから。G3：小・中を卒業するたびにリセットされ、そのたびに利用教育を1からしなければならぬのは残念な状況であるので何とかしなければならぬ。卒業後、公共図書館にどのようにつなげていくのが課題である。G4：学校によっては8月は司書の勤務がなく、勤務条件によってやりたいことができない。どうにかしてほしい。G5：地元の本屋が消えていくことから、図書館の重要性の話になった。中学でも高校でも1冊も本を借りないまま卒業してしまう残念な生徒がいる。中高の連携も是非考えてみたい。G6：本荘小学校では司書と教諭の役割分担についての話だった。G7：小学生の時は9割が本好きでも、中学生になると貸出数が減る。居心地の良い空間をつくって、じっと待ち続け、次につなげられたら良い。G8：図書館担当の先生、図書館を利用する先生、利用しない先生などによって児童生徒の利用数が変わってくる。勤務条件などに関係するが、先生が変わると児童生徒が利用しなくなることがある。G9：司書がいる、いないで活用の量がずいぶん変わる。小・中では必ず本に触れないといけぬ時間が設定されている。高校ではそういう時間が設定されていないので、図書館に通う仕掛けを多くしている。

G10:マンガに偏る。歴史などは仕方がない。本を読むのは孤独ではなく、誰と読むかという時代になってくる。2人3人で本を囲むことがある。図書館が3階はきつい。県立図書館でも話題になったが、本に汚れやシミはあるが、学校図書館では本の切り抜きはない。G11:中学校では図書室は居心地がいいので、話しや、遊びには来るが、本は借りない生徒がいるので何とかしたい。小学生は、休み時間は外に遊びに行きたい。どうやって図書館に引き込むかという工夫に、本荘小学校の「何でしょうコーナー」が参考になった。G12:本荘小学校では9割が本を好きだが、高校になるとなぜ減少するかという話が出た。小学校では、「好き」が「習慣」にできなかったのではないか。また、「力」にまでできていないのではということを感じた。人が本を薦める力が効果的である。〇〇先生がお薦めの本は読むとか。人から影響されたり、人の生き方に触れたりして、吸収されることが多いのではないかと思った。個人的にインスタやツイッターなどで新しい本を紹介しても良いのではと思った。

指導助言

本日の講演や発表に関連付けながら、これからの学校図書館に求められることが述べられた。子どもたちの背景を探ると、ある調査結果から、15歳から19歳の子どもたちが頼りにしているメディアは、テレビやラジオ、新聞などではなく、ネット動画やSNS、ブログなどのネットの世界であり、本を読まない。我々はこの状況を踏まえて読書指導や学校図書館の運営をしていかなければならない。近い将来、成人年齢が18歳に引き下げられる可能性が高いので、15年間ぐらいで社会の形成者として必要な資質を身に付けた大人にしていかなければならない。大きな教育改革として主体的な学び、対

話的な学び、深い学びの3つの学びが幼・小から大学・院まで求められており、注目されている。学校図書館でもこの3つの学びを深めていくような支援、働きかけが求められている。学校図書館で子どもたちを評価する場面はないが、授業や特別活動とうまくリンクさせて、評価をうまく使いながら、自己肯定感や自己効力感、目的意識をもってやる気にさせることが大事であり、3つの力を鍛えるためには大事な観点である。世界的な潮流である「構成主義」の考え方では、子どもたちは家庭や地域で付けられた既知をもっているが、図書館や授業で得る新たな知識によって葛藤や調節が行われなければ既知が組み替わらない。学習だけでなく本を読むことも同様である。一番良い方法は他者への読み聞かせやビブリオバトルのようにアウトプットの場面を用意することである。

最後に、小学校は本に親しみ、楽しむような土台づくり、中学校では本の良さが分かり、それを自分の言葉で語る。本を自分のものにする。高校では大学入試や卒業後に向けて、自分の力で調べることができるようになる。大事なことは、子どもたちが本を読む前と後でどのように変わっていくかを自ら見取らせることである。そして、発達段階や校種に応じて対話や言葉化する。「何を読むか」から「誰と読むか」を意識し、本当に本が好きな子の活動全般をモデル化して、一人でも多く本好きを増やしていくことである。小中高校の連携として、読んだ本の履歴をつないでいく、「ポートフォリオのバトン」の提案をされたのが印象的だった。



子どもと本をつなぐ学校図書館をめざして

浅口市立寄島小学校 司書教諭 藤原 恭子
学校司書 小野田 ひかる

1 はじめに

知識偏重の学習形態を見直し、児童が主体的に学習をつくっていく、そのような姿が大切にされる今日、言語活動の充実や確かな学力の定着、そして豊かな心を育むために、学校図書館には、子どもと本をつなぐ魅力ある活動が求められている。

本校は、瀬戸内海に面した自然豊かな地域に位置する全校児童196名の小さな学校である。図書館は利用しやすい1階中央に配置され、蔵書数も11871冊と充実している。

仲良く伸び伸びと学校生活を送る児童の多くは、朝読書の時間や合間の時間に自分の好きな本を広げ、読書を楽しんでいる。しかし、読書量の個人差が大きいこと、本選びに偏りがあること、家庭での読書が十分でないことなどが課題として挙げられ、読書習慣が身に付いているとは言い難い。

このような実態から、児童が図書館を通じて様々な本と出会う手立てを講じることによって、児童の読書量が増え、作品の世界に浸る面白さや新たな知識を得る喜びを味わい、読書を生活の一部として楽しむことができるようになるのではないかと考えた。

2 具体的な取組

(1) 読書習慣の定着を図る取組

日頃から読書に親しんでいる児童も、読書に苦手意識をもっている児童も、無理なく読書に取り組めるように以下の取組を行った。

① 目標をもった読書

個人の目標と各学年の目標の両面を設

定することで、読書への意欲付けを行い、読書量の充実を図った。

ア 個人の目標づくりのために

- ・学級ごとに図書館オリエンテーションと年間目標冊数の設定を行った。
- ・各学期末に貸出記録を基に振り返りを行い、前学期の読書生活を見直すと共に、新たな目標を立てた。
- ・年度末に目標冊数と貸出記録、個人の振り返りをまとめた「読書の足跡」を作成した。

イ 各学年の目標づくりのために

- ・各学年の貸出冊数を掲示する「ヨムヨムの木」を作成し、50冊で1枚ずつ葉を増やしていった。
- ・児童朝会や校内放送で途中経過を報告した。
- ・年度末に貸出総数を記載した「記録証」を各学年に発行した。

② 読書週間の設定

各学期に1回読書週間を設定し、自分の読書習慣を見つめ直したり、興味関心を広げたりすることができるようにした。

- こども読書週間 (4/23～5/12)
- 秋の読書週間 (10/27～11/9)
- 校内読書週間 (1/30～2/10)

- ・期間中はプラス1冊貸出しを行い、読書量の増加を図った。
- ・読書週間に合わせて、年3回、図書委員のアイデアを生かした読書集会を様々な形態や内容で行い、興味関心を高めることができるようにした。

・読書週間中の具体的な取組として、

<読書宝くじ>

1回の貸出しにつき1枚の宝くじを配布し、後日抽選会を行った。

<しおりコンテスト>

好きな登場人物を描き、投票によって人気の作品を選んだ。作品はしおりにして読書宝くじの景品とした。

<多読者の表彰>

上位5名に賞状を渡した。

<おすすめの本の紹介>

図書委員と教員のお薦めの本を、お薦めポイントを添えて掲示した。

<本の人気ランキング>

学年ごとに貸出回数が多い5冊を紹介した。

<ビブリオバトル>

児童、担任、学校図書館司書、担任外の教員が参加し、お薦めの本を紹介し合った。

などを行った。

(2) 読書の幅を広げるための取組

自分の好みだけでは手に取ることのない本にも意図的かつ計画的に出会わせることによって、読書の幅を広げることができるように以下の取組を行った。

① 各教科との関連

年間計画を基に、確実に関連付けがなされるよう職員間の共通理解を行った。

特に国語科では、重点教材を設定し、関連する本をブックトークやアニメーションによって興味関心を広げることができるようにした。

<2学期重点教材一覧>

1年	じどう車くらべ	「ちっちゃなトラックレッドくん」を使ったアニメーション
2年	お手紙	シリーズ本や登場人物に焦点を当てたブックトーク
3年	すがたをかえる大豆	「ヘルシーせんたいダイズレンジャー」を使ったアニメーション
4年	ごんぎつね	登場人物に焦点を当てたブックトーク
5年	天気を予想する	気象・天体に焦点を当てたブックトーク

6年	やまなし	作者に焦点を当てたブックトーク
----	------	-----------------

② 家庭・地域とつながる読書生活の推進

ア 外部人材の活用

- ・寄島町はこども園、小学校、中学校が隣接しており、「寄島学園」として課題を共有し、連携を深めている。その強みを生かし、寄島中学校生徒による読み聞かせを行った。
- ・寄島図書館の司書と連携し、地域ボランティアによる読み聞かせを行った。

イ 家庭との連携

- ・家庭での親子読書を推奨する「家読(うちどく)日記」を年3回実施し、図書日より各家庭の取組内容を紹介した。

(3) 魅力ある図書館にするための取組

学校司書と連携し、環境の整備や定期的なイベントを実施することで、常に図書館に対して新鮮さを感じることができるようにした。

① 図書館の整備

- ・季節、行事に応じた配架、壁面の工夫

② 図書館イベント

- ・夏休み折紙教室 ・多読者プレゼント
- ・クリスマスプレゼント抽選会

3 おわりに

これらの取組によって、個人貸出冊数の年間平均が増加した。また、これまであまり動きのなかった本が貸し出されたり、シリーズ本のみやマンガ本のみといった偏った読み方をしてきた児童が減ったりするなど、読書の幅も広がってきた。児童と図書館がつながり、新たな本との出会いが生み出されていったことは、本実践の成果である。

今後は、出会った本を読み味わい、読書の楽しさをさらに感じることができるよう、短い時間でも毎日読み続けていける時間を学校と家庭との連携を深めながらつくっていききたい。そして生涯を通して、読書を楽しむことのできる児童を育てていきたい。

本に親しむ子どもたち
～本好きな子どもをめざす学校図書館～

津山市立新野小学校 司書教諭 田口 ひとみ

1 はじめに

本校は、平成28年度は全校児童116名で、これから年々減少の傾向にある。津山市の北東部に位置し、以前は勝田郡であったが、平成の合併で津山市となり、既に12年がたつ。合併してよかったことの1つに、図書館の充実があげられる。以前から津山市は、囑託ではあるが、学校司書が配置され図書館教育の推進に力を入れ実績をあげてきたところである。児童数の減少にともなう年々、学校司書が削減されてきているが、学校司書がいない学校には図書整理員が配置されている。時間は限られているものの図書館専任の職員がいることは、子どもたちの読書活動に大きな成果がある。本校も、この図書整理員の果たす役割は大きく、本発表もこの図書整理員と連携し、実践をまとめたものを中心である。

2 研究概要

(1) 児童の実態

週1回の図書の時間を設定している低学年児童は、図書の利用が多い。高学年でも本好きな児童は休み時間を利用して、本を借りている。しかし、借りている本を見ると、偏りがあり読書の幅を広げることが課題である。また、高学年には、本を読む児童と読まない児童の差が大きい。家庭での読書習慣も影響していると考えられるが、家庭での読書の実態はつかめていない。

(2) 目標

「本に親しむ子どもたち ～本の好きな子どもをめざす学校図書館～」

とにかく本の好きな子、本に親しむ子、読書の幅を広げてほしい、よい本に出会ってほしい、思い出に残る本を見つけてほしい、生活に役立ててほしい、読書の習慣をつけてほ

しいなど、教職員(大人)としては、本離れが言われる昨今子どもたちに願うことは多い。

既に本に十分親しんでいる児童を大切にしながら利用の習慣の少ない児童をどう巻きこんで本好きにするかが課題である。そこで、まずは、年間一人50冊の貸し出しを目標としている。さらに、読書の幅を広げることができればよいと考える。

(3) 実践

① 読書に親しむことで、習慣につなげるために

ア 学年での図書の時間

1年生から4年生までは、国語の時間を週に1時間読書の時間として設定している。この時間は、図書整理員が中心になって、図書の貸し出し、読み聞かせ、折り紙工作などを行っている。楽しみにしている児童が多く、読み聞かせや工作は季節感のあるものや学年に応じたものを行っている。この時間設定をすることで、読書へのきっかけが作れ、図書の貸し出し数は増えている。

イ 朝読書

火曜日の朝学習の時間(10分)を全校読書としている。学級文庫や自分が借りている本を静かに読んでいる姿が見られる。

ウ 全校読み聞かせ

毎月第1火曜日を低学年、第2火曜日を中学年、第3火曜日を高学年として、朝の15分間を地域の『勝北ブックくらぶ』の方にボランティアで読み聞かせをしていただいている。大型紙芝居をした



り行事にあった本を選んだりして児童が興味関心を持てるように工夫していただいている。

②読書の幅を広げるために

ア 図書委員会

5・6年生の児童9名が図書委員として委員会活動をしている。常時活動として、本の貸し出しを当番制でしている。また、校内読書週間を学期に1回設定している。月1回の委員会の時間だけでは、自主的な活動が難しいが、図書整理員の方で予め、イベントのねらいや内容等について考えておき、子どもたちに決定をさせたり選択をさせたりして自主的な活動につながるようにしている。内容的には、動物やお菓子などテーマを絞って、児童の興味関心が広がるような取組になっている。

イ 読書案内

図書室前で、季節や行事に合わせた本の紹介をしている。児童が手に取りたくなるようなレイアウトやポップに工夫がされている。

ウ 教室での読書指導

国語を中心に、担任による学習に関連する書籍の紹介や読み聞かせをしている。逆に書籍から学習へ発展していく場合もある。

③公共図書館の活用が①、②につながる

ア 図書館の活用

社会や総合的な学習の時間での調べ学習に必要な本や、国語の文学教材の発展学習に使う本を市立図書館から借りてきて学習に役立てている。事前の図書整理員との連携が大切である。このほか、図書整理員が学年ごとに30冊の本を選定して長期貸し出しで学級文庫として置いている。

イ 自動車文庫「ぶっくまる」

津山市立図書館の巡回図書が月に1度来校する。個人でたくさんの本を借りる子も多く、楽しみにしている子も多い。学年で20冊ずつ選んで学級文庫として利用している。この選定は、学級から児童の希望者がしているので、児童の好みに合ったものを選ぶことができる。

④家庭との連携

ア 図書日より

本の紹介や読書週間の様子などを紹介し、

家庭に知らせている。

イ 読書手帳

本年度は、個人的な取組になっているが、興味をもって挑戦している児童もいる。手帳を見ながら、個別の声かけができています。

ウ PTA図書

PTAの学習教養部の事業として、子どもたちの読書環境を整えるために、予算を組み書籍を購入して、貸し出しもしている。子育てに関したのや流行のもの、特に親子で読めるものなどを部員さんが直接買ってきて図書案内を配布している。常時利用できるが、特に参観日などに展示して多くの利用を呼びかけている。

(4) 成果と課題

【成果】以上のように、様々な方向からの取り組みにより、図書室の利用は増えている。貸し出し数も、平均では、一人50冊が達成できている。図書委員会などのイベントを喜んで楽しみにしている児童や本に親しむ子どもの姿が、多く見られる。

【課題】個別に見ると、貸し出し数0の児童もかなりいる。そうした児童も、学校で読む時間は、楽しく読んでいる。読書の習慣が付くためには、親子読書の呼びかけや家庭への啓発が必要である。中学校区で行っているノーメディアの取り組みを利用することも考えたい。

3 終わりに

いろいろな本を夢中になって読むことができている児童は、心豊かな大人に育っていくのではないかと思う。そのためには、私たち教職員(大人)が、読書の時間の確保や読む本の充実に努めるとともに、読書の楽しみを伝えていくことが大切であると思う。学校図書館の役割は大きい。



読書の楽しさ再発見 ～読書の幅を広げるために～

新見市立大佐中学校 講師 山本 由里子
(現 新見市立第一中学校)

1 はじめに

本校は、岡山県北西部に位置し、旧大佐町全域を学区とする中学校である。かつては生徒数500名を越えていたが、少子化の流れの中、今年度は、各学年1クラス、特別支援学級1クラスの78名となった。自然に溢れたこの大佐の地で、生徒はのびのびと学校生活を送っている。

図書館は教室と同じ階にあり、距離も近く、利用しやすい場所にある。また、生徒が学校にいる時間はいつでも利用できるように開放されている。図書館担当教員は1名、司書教諭はいないが、図書事務の先生が定期的に来られ、選書や図書整理をはじめとする図書館の運営に関わっている。図書委員の生徒は、毎日、朝と昼休みに本の貸し出しと返却の手続きをする仕事を行っている。このとき、利用者数を図書日記に記入し、利用状況を把握し、委員会活動に活用している。

学校では始業前の10分間「朝読書」の時間を設定し、時間を確保し、本を読む習慣づけを図っている。生徒は、1日を自分の好きな本を読む活動で始めている。「朝読書」を行うことによって、本を身近に置き、余暇に読書を楽しむ習慣を身に付けることができている。多くの生徒が読書好きである。

しかし、朝読書の本や図書館の本の貸し出し状況から、生徒が読書する本のジャンルに偏りがあることがわかる。そこで本年度は、生徒の読書の幅を広げるための工夫を取り入れ、より充実した読書活動を実践していきたいと考えた。生徒が様々なジャンルの本を知り、親しめば、読書の楽しさを再発見できると考えた。そのために、図書委員会と教科(担当)と連携をとり、さまざまな本を紹介する活動を計画し、実行していった。

2 本校の取り組み

(1) 図書委員会の取り組み

① おすすめの本の紹介

「図書委員のおすすめの本」を紹介する活動を、前年度に引き続き行った。

各学年で担当する月を決め、図書室にある本の紹介ポスターを作成し、図書室前の廊下に掲示した。



また、本年度は、図書委員がタブレットPCを用い「新着図書案内」を紹介するという取り組みも行った。

生徒は休み時間などに自由にタブレットPCで本の紹介文を読み、本を読む参考にしていった。





② ブックツリーの作成

12月の学校読書月間に合わせて、図書委員が中心となり、ブックツリーを作製した。

「おすすめの本」と「一言コメント」が書かれた付箋紙を貼り、教室に掲示した。

付箋紙には、限られたことしか書かれていないため、本の情報についてより詳しく情報交換する姿も見られた。



③ 絵本の読み聞かせ

生徒集会の中で、図書委員による絵本の読み聞かせを行った。昨年に続き、2回目となる。図書委員の生徒が話し合い、『100万回生きたねこ』（佐野洋子／講談社）に決定した。

図書館にも絵本が20冊ほどあるが、手に取る生徒は少ない。

さまざまな本との出会いの場として計画したが、生徒は絵を目で追いながら、静かに耳を傾けていた。

④ 図書館の環境整備

図書館内に、行事やテーマに合わせたおすすめの本の紹介コーナーを設置した。職場体

験学習に合わせて、「仕事に関わる本」を紹介したり、「ファンタジー特集」として、図書委員の生徒の手作りポップを添えたコーナーを作ったりした。

(2) 教科での取り組み

2年生の国語科の授業で、本の紹介ポスターを作成した。

他の学年の生徒にも紹介できるように、教室前の廊下に掲示した。



3 おわりに

これらの取り組みを行ったことによって、さまざまな分類の本に興味をもたせることができた。

しかし、実際に本を手に取り、今までの読書の幅を拓けられた生徒は少数である。

今後、これまでの活動を継続していき、さらに選書や授業との連携を強化していくことが大切であると感じている。

「図書館へ行って本を読もう」～倉商での取り組み～

岡山県立倉敷商業高等学校 司書教諭 山磨 孝子

1 はじめに

本校は、創立106年目の商業高校で、1学年8クラス、全24クラス、約960名が在籍している。部活動には9割以上の生徒が所属し活発に活動している。運動部・文化部ともに全国大会・中国大会出場を果たしている。生徒は素直で礼儀正しく、授業中も大変落ち着いているが、学習についての意識・態度は受動的で、基礎学力を定着させるための家庭学習時間も少ない。自ら読書を楽しみ、読書から知識を吸収しようという姿勢も個人差が激しい。卒業後の進路は、進学約6割・就職約4割である。進学には国公立や難関私立大学も含まれ、それなりの学力が要求される。また、就職者にとっては、「生涯を通じて学び続ける人」作りの最終段階である。これらのことから、高校時代に読書習慣を培うと同時に、情報センターとしての図書館の機能についても知らせておくことが重要だと思われる。そこで、まずは図書館へ足を運ばせる仕掛けとして、図書館利用の授業を増やすことを試みた。結果、昨年度は161時間の利用があった。中でも今回は国語科との連携を中心に紹介したい。加えて、図書委員会活動の一端も紹介する。

2 具体的な取り組みの概要

(1) 国語科との連携

① ブックレポート

◇1～3年生、年5冊（定期考査毎に提出）

以前は各学年裁量で行っていた読書課題を、ブックレポートとして全学年の共通課題として統一した。レポートする本は図書館にあるものとし、レポート用紙も図書館に常設してあるので、提出日まで完成させて担当者に提出する。学年によっては、「新書に限る」などの条件を設ける場合もある。アンケートでは「ブックレポートのために図書館を

利用する」は77%、「ブックレポートで読書意欲が高まった」は43%の生徒が肯定的に答えた。この活動の実施によって、それまで不十分だった読書感想文の構成などに、ある程度の改善がみられた。

② ディベート

◇1年生〈図書部主管〉（11月）

【全4時間】LHR2時間＋総合学習2時間

- ・1時間目＝ディベートの概要とテーマ決定
- ・2時間目＝『国語表現』選択者(3年生)によるモデルディベート
- ・3時間目＝テーマに関する調べ学習（於：図書館）
- ・4時間目＝ディベートマッチ

テーマは、「成人年齢を18歳に引き下げるべきである、是か非か」など、主権者教育を意識して設定している。運営は図書委員が中心に行うが、3年生の『国語表現』選択者によるモデルディベートは刺激的で、1年生は集中して学んでいる。アンケートで「ディベートは楽しかった」に肯定的に答えた生徒は55%であった。

◇3年生『国語表現』選択者（10～11月）

あえて1年生と同じテーマ設定にしている。1年生へ向けてのモデルディベートのディベーターは、「オーディション」と称してディベートマッチを行って決定する。モデルディベート自体は台本を用意する。

◇2年生『現代文B』（随時）

1年生でディベートを経験しているので、教材に合わせて論題を設定して実施できる。

③ ビブリオバトル

◇1年生『国語総合（現代文）』（3学期）

【全3時間】

- ・1時間目＝ビブリオバトルの概要説明と映像視聴及び選書（於：図書館）

- ・ 2時間目＝クラス予選（6班に分かれそれぞれのチャンプ本を決める）（於：各 HR）
- ・ 3時間目＝クラス決勝（於：各 HR）
一昨年は概要説明の際、YouTubeの映像を見せたが、昨年度は「全国高等学校ビブリオバトル2016決勝大会」（読売新聞社主催）へ進んだ本校生徒（現3年生）の中国大会の様態を視聴させた。先輩がバトラーとして話している様子に刺激を受けていた。アンケートで「ビブリオバトルは楽しかった」に肯定的に答えた生徒は59%であった。

◇ 2年生〈図書部主管〉（3学期）

【全2時間】

- ・ 1時間目＝クラス予選（6班に分かれそれぞれのチャンプ本を決める）（於：各 HR）
- ・ 2時間目＝クラス決勝（於：各 HR）
読書会の位置づけで行っているが、1年生でビブリオバトルを経験しているので、概要説明を省き、図書委員が中心となることが出来る。

◇ 3年生『国語表現』選択者（4～5月）

【全3時間】

- ・ 1時間目＝選書（於：図書館）
- ・ 2時間目＝クラス予選（6班に分かれそれぞれのチャンプ本を決める）（於：各 HR）
- ・ 3時間目＝クラス決勝（於：各 HR）

(2) 図書館における各教科の授業

① 理科

- 『科学と人間生活』（2年生）
- ・ 免疫，食，生物多様性等に関する調べ学習

② 芸術科

- 『美術』（2・3年生）
- ・ 作品比較や作品制作のための調べ学習

③ 英語科

- 『コミュニケーション英語』（2・3年生）
- ・ 留学生交流会の事前学習
 - ・ 日本を英語で紹介するための調べ学習

④ 商業科

- 『課題研究』（3年生）
- ・ 絵本の読み聞かせ講座，昔話の語りの実演
 - ・ 各種調査

(3) 授業とのコラボ企画コーナー

専任司書が、授業で扱っている教材について、本校の図書館のみならず、岡山県立図書

館等からも資料を取り寄せてコーナーを設置（昨年度24回）している。教室とはまた違った生徒の素直な感想が聞かれ、司書はこまめに教員に伝えてくれる。

(4) 図書委員会の活動

① 広報誌「KURASHO LIBRARY」発行（毎月）

図書委員おすすめ本のポップ作成（年2回）アンケートでは46%の生徒が「図書委員の作成したポップは、本を選ぶときに役立つ」と答えている。

③ 文化祭展示

昨年度は「図書館くつろぎカフェ」をテーマに動物占いおみくじ，手作りブックカバーの展示&型紙配布，サイ，ンスコーナー，古本市を実施した。

④ 読書週間行事

商業に関する本の帯づくり

3 おわりに

図書館利用の授業を増やし、行かざるを得ない物理的な仕掛けをしたところ、図書館は楽しいと気付き、足を運ぶ生徒が増えたように思われる。しかし、図書館利用の授業には教科の偏りがある。教科の特性もあるが、本年度は教員アンケートをとり、授業で利用するためには何が必要かなど、具体的に動くための声を拾いたい。さらに、生徒たちにとって教員は、身近なお手本となる大人である。そこで、「教員の無読者（年間貸出0冊）が0に近づく」を目標に掲げてみた。教員自身が本について語ることは生徒にとって大いなる刺激となるだろう。また、これらの取組をまとめてあらためて思うことは、専任司書の存在の大きさである。生徒への働きかけはもちろんのこと、教員に向けても「教員版図書館利用案内」を作成し、様々な情報を提供してくれる。

生徒の周囲には、「楽をして（一見）楽しそう」なものが溢れているが、読書から得られる情報や感動は、豊かに生きるために不可欠だと考える。「主体的・対話的で深い学び」がクローズアップされる今、「図書館へ行って本を読もう！」という生徒を増やすべく、今後も精進していきたい。※文中の「アンケート」は、昨年度末全校生徒に実施した「倉商図書館利用に関するアンケート」のことで、「肯定的な答え」とは「よくあてはまる・ややあてはまる」をいう。

「分科会B 豊かな心を育み、読書の楽しさを味わわせる学校図書館」研究協議の概略

発表者	藤原 恭子	(浅口市立寄島小学校 司書教諭)
	小野田 ひかる	(浅口市立寄島小学校 司書)
	田口 ひとみ	(津山市立新野小学校 司書教諭)
	大澤 聖子	(津山市立新野小学校 図書整理員)
	山本 由里子	(新見市立新見第一中学校 講師)
	山磨 孝子	(岡山県立倉敷商業高等学校 司書教諭)
	稲葉 三千代	(岡山県立倉敷商業高等学校 司書)
指導助言者	蟻正 教子	(岡山県立高梁高校 校長)
運営責任者	横野 さとみ	(真庭市立蒜山中学校 教諭)
司会者	高橋 寿子	(津山市立中道中学校 教諭)
記録者	須田 めぐみ	(津山市立一宮小学校 教諭)
	森里 衡子	(津山市立誠道小学校 講師)

研究協議

事例発表①

Q: どういった基準でどのような方法で各学期の目標を立てたり、振り返りをしたりしているのか。

A: 低学年は、司書の先生から、目標を聞いて自分のシートに自分で数字を記入している。中学年・高学年は、昨年度の読書冊数をみて、減らしたり増やしたりなどして、目標を決めている。学年始めに図書のオリエンテーションが行われ、司書の先生からワークシートが配られる。そこに、各学期の目標や借りた冊数を記入する。それをみて、学期の終わりに振り返りを書く。その他にも、いろいろな項目で自己評価をさせている。

Q: ビブリオバトルは、クラスごとか、全校のどちらで取り組んだのか。

A: 学年ごとに取り組んだ。やり方は、各学年の図書の時間に、担任と司書プラス校長・教頭・教務のどなたかに来ていただき、3人のビブリオバトルを子ども達に聞いてもらい、チャンプ本を決める。それを、図書室に掲示する。図書委員の取り組みとして、放送でビブリオバトルを聞いてもらったり、各学年の朝活動の時間に各教室に出向いて行ったりということもした。

Q: アニメーションや作者に焦点をあてたブック

トークは、どのようにして行ったのか。

A: 図書館司書が、図書の時間に行った。例えば、「やまなし」の学習をしている時に、宮沢賢治が書いた他の作品を子ども達に、読み聞かせたり、話をしたりしながら進め、他にも、エプロンシアターなども行った。

Q: 目標を持った読書や「よむよむの木」や記録賞を渡すなどのみえる化でどのような効果があったのか。

A: 「よむよむの木」の効果が大きかった。他学年と比べて負けていたりすると、「負けとるが。昼休み図書室行って本を借りよう。」など読書意欲の向上につながった。

Q: 個人の目標、学年の目標の、どちらも設けているのか。

A: 個人の目標は、4月の始めにたてている。学年の目標は決めてはいないが、年間読書冊数で、賞状を渡している。個人の平均は、昨年度が、49冊で、今年度は、57.5冊に増えた。

事例発表②

Q: 地域の図書館との連携でいいこと・公共の図書館から本を借りる際の本を選ぶ視点はなにか。

A: 長期貸し出しがしてもらえる。本を選ぶ視点は、教科の学習に関係するもの・クラブで使

えるもの・クラスの子ども達を思い浮かべて好きそうなものである。

Q:公共の図書館の本の管理で工夫していること

A:四ヶ月間を2学年でローテーションしている。

基本的に学級担任が管理している。読んだらすぐに、もとあった場所に返す。机の中に取り込まない。持ち帰りはなし。

Q:朝読書に読む本は、指定しているのか。読む内容は、決めているのか。

A:図書整理員が選んだ50冊の中から自分の読みたいものを自由に読ませている。

Q:地域のボランティアの方は、何人ぐらいで、どんな感想を持っているのか。

A:10人の方で、4校をまわられている。静かに聞いてくれてうれしいという感想を持たれている。子ども達の声を担当が書き留めてファイルに綴っておき、それをボランティアの方に読んでもらっている。それも楽しみにしてくださっている。

事例発表③

Q:タブレットPCの活用法について。

A:新着図書の案内、新着図書を読ませる、タブレットPCでおすすめの本の紹介カードを作成させる。

事例発表④

Q:授業で図書館を積極的に活用されているが、英語科ではどんなときに使われているか。

A:異文化理解、多文化共生、政治などのテーマで、図書館内または教室に向いて授業を行う。また、リーディングの授業で、英語絵本を活用している。

Q:ビブリオバトルの取り組み方について、学校全体の取組なのか

A:国語科ではもちろん足並みを揃えている。また、学校のシラバスに位置づけ、全校の取組として認知されている。

O:ビブリオバトルは、現在、ロングホームルーム、国語科、図書委員会、校内イベントなどで取り組まれることが増えている。11月に

は、県立図書館にて高校ビブリオバトルの県大会がある。生徒の意欲を高める活動になっている。

指導助言

事例①について

取組はアイデアあふれる仕掛けにあふれている。図書館に足を運ぶしかけがすばらしい。寄島中学校生徒による読み聞かせや親子読書など、効果が高い。

事例②について

1～4年生の週1回の読書タイムや朝読書、読み聞かせ、PTA図書など、学校として本好きな子を育てるシステムができています。事例①②ともに、子供だけでなく家庭地域を取り込む仕掛けの効果が高い。

事例③について

たった一人の担当者が工夫して、中学生に読書の楽しさを伝えるために努力している。おすすめ本の紹介に生徒一人1台のタブレットPCを使うなど、これからの可能性の広がりがある。アナログな活動も大切にしているところもよい。

事例④について

「図書館に行って本を読もう」のめあてで社会に出る前の生徒が本に触れる機会をいかに増やすか、学校全体を巻き込んだの共通認識、連携が成功している。情報センターとしての図書館の役割を最大限に生かし、生徒の読書意欲を高めることで、主体性を育てる事へつなげている。

全体として

取組によって、児童生徒がどのように変容したのか、成果を検証して取組の継続・発展を検討すべきである。

思考し、表現する力を育てる授業づくり ～学校図書館の活用を通して～

岡山市立幡多小学校 教諭 中島 早苗
岡山市立幡多小学校 学校司書 伴 涼子

1 研究の概要

本校は、平成26年度から研究主題を「思考し、表現する力を育てる授業づくり」とし、「思考力・判断力・表現力」の育成やそれらの基盤となる「基礎学力」の定着に重点を置いた取り組みを進めてきた。その中で、文章から必要な情報を取り出したり、まとめたりすることが課題として残った。そこで平成27年度は、学校図書館と連携した学習を進めることで情報活用力を育成できると考え、副主題「学校図書館の活用を通して」を設定し、取組を重ねていった。

2 具体的な取組

学校図書館の役割は、資料提供を通して児童の主体的な学習を支援することである。また図書館は情報活用力も育む。本取組では次の3点を中心に行った。

- (1) 主体的な学びを支える図書館との連携
- (2) 「情報活用力」の系統的な育成
- (3) 授業の内容を深めるための図書館の日常活動

(1) 主体的な学びを支える図書館との連携

4年生の社会科の岡山県についての学習では、まず主体的な学びになるように、導入部分で「岡山県をPRするためには」と投げかけ、岡山県の特徴を調べる意欲をもてるようにした。「自然」「観光地」「特産」「人」の4視点に絞り、調べる対象を明確にした。学年団の教諭が現地で得た博物資料を児童に見せたり、現地の声に触れたりできるようにした。

担任と学校司書が連携をして、図書の時間を活用し、図書資料だけでなくパンフレットや統計資料などから情報収集ができることを児童に指導した。これらを通して児童は、さまざまな資料やメディアを知り、それを活用して情報を得られることを経験することができた。

図書館では図書資料や各地のパンフレット、地域情報誌を図書館に展示し、常に学校司書が資料案内や相談の声かけをしたことで児童はさらに調べる意欲をもち、自分から情報を手に入れようとする姿が見られた。副読本以外にも図書資料やパンフレット等から得た情報をもとに、岡山県の各地域を比較しながら地域の特色について考察するようになった。

(2) 「情報活用力」の系統的な育成

情報の収集の仕方や参考図書などの活用の仕方、資料の読み取り方などの情報活用力を身につけられるよう、各学年の到達目標を定めて年間計画を作成した。教科・領域の学習のタイミングに合わせて、学年に応じた情報活用力を授業で段階的に積みあげていくことで、生涯に渡って使えるスキルや、リテラシーの基礎を身につけられるようにした。そしてそれを必要に応じて反復を重ねながら指導をしてきた。

3年生理科の「こん虫を調べよう」の単元では、まず図書の時間に学校司書が虫の本の紹介をした。

図鑑などでも調べられるように、参考図書の使い方のガイダンスも行った。教室ではいろいろな虫を実際に飼育しながら調べられるよう、飼育している虫かごの傍らに関連の本を置き、児童は、発見があると本で確認しながら情報カードに書き込んでいった。最後に粘土で、調べた虫を作成した。

27年度に研究授業を行った4年生も、5年生になると新聞などの図書資料以外の資料の活用法やグラフなどを用いて数値で根拠を示すことや著作権などを図書の時間に学び、現在6年生の総合学習での探究的な学習へと学び進んでいる。

【年間計画の中で「探究的な学びにつながる力」の系統例】

1年生…「本の中に調べたい情報があることを知る」

2年生…「本を使って調べる経験を重ねていく」

3年生…「参考図書などを使い、授業や日常で分からないことを本で調べる」

4年生…「各自で問いを立てて、そのことについて調べたことをまとめる」

5年生…「必要に応じて情報や資料を選択したり比較したりして、引用や要約する活動をする」

6年生…「課題を見つけ、問いを立てる。自分の意見の根拠になる資料を探す」

(3) 授業の内容を深めるための図書館の日常活動

学校図書館は求められた資料を提供すると同時に、子どもたちの「読みたい」「知りたい」を触発するところである。児童が学校にいる間は図書館はいつも開館していて、常駐する学校司書が本の相談にのっている。学校司書は児童の学習を知り、来館した児童に資料や調べ方の説明もしている。自館にない本は、他の図書館から取り寄せて提供している。児童はそこで、興味のある本をどんどん読み進めている。

話題の本の展示や図書館行事を楽しんだりして、図書館で「楽しい」体験を重ね、「読みたい」気持ちが増していく。

授業をおこなう教員と図書館を運営する学校司書が情報を共有し連携することで、図書館の日常的な活動が、教室の学びにもつながっていく。授業のねらいに沿った本の展示などで、発展した内容や異なった視点の本も紹介してもらったり、他学年の調べ学習の成果の掲示を見たりして、図書館で「役に立つ」体験を重ね、「知りたい」気持ちが増えていく。

例えば高学年の環境や平和学習に関連した、調べ学習のときにはなかなか読むことができなかったノン・フィクション本や小説などの読み物を、コーナー展示をした。調べ学習に関連した読み物のブックトークや読みきかせと合わせて、テーマへの理解や読書の幅が広がるようにした。授業を通して現在の紛争を調べた児童が、ユダヤ人差別をテーマにした小説を読むなど興味関心を広げている姿も見られた。

3 成果と今後の課題

岡山市教育研究研修センターの学習アンケートでも、「資料活用」に関する項目において、全ての学年で伸びが見られた。分からないことは進んで図書館の本で調べ、資料から得た情報を説明し意見交換ができるなど、自分の学習に活かそうとする姿が見られている。教諭と学校司書が連携をして、どんな指導や支援をしたら主体的な学びの中で資料を活用する力がつくのか、今後も追求していきたい。

自ら課題をもち、主体的に解決しようとする生徒の育成を目指して

～ 図書館の機能を活かして ～

岡山市立旭東中学校 司書教諭 安東 美香
学校司書 長瀬 幸子

1 はじめに

標題は、岡山市東地区の図書館協議会の研究テーマとして設定しているものである。「主体的・対話的で深い学び」が求められる今、図書館の機能はどの教科においても有効な手段となりうるのではないだろうか。このテーマをもとに、「どうすれば自ら課題がもてるのか」「どのような姿が主体的に解決しようとしている姿なのか」「活かしたい図書館の機能とは何なのか」ということについて、課題発見能力・課題解決能力の育成を目指した授業実践の一例として提案したい。

本実践では、自ら課題をもつために、情報を得て分析することを求めた。小さな問い立てや他との比較などを通じて、自分の興味関心に沿ったテーマの設定を導けるよう試みた。主体的に学ぶ姿にはさまざまな要素があるが、今回は、自らの課題に応じたレポート作成に取り組んだ。段階的な単元構想を心がけ、学習者に複数の情報を探索する機会をもたせ、探究的な学習に必要な力が育成できるようにした。図書館の機能をより効果的に活かすために、単元のなかで、図書館を活用したさまざまな「選ぶ場面」を設定した。このような取組を通し、社会の変化に対応した学習者の生涯学習の基礎を育成することにつながっていくのではないかと考えている。

2 単元について

卒業単元「今を見つめて、未来を語る」

— 自ら問いを立て、複数の情報を集めて、
自分の考えを深める —

本単元は、昨年度に本校3年生国語の卒業単元として行ったものである。新聞記事のスクラップを導入にして、複数の情報を結びつけて各自が意見文を書くことに取り組んだ。個々に課題を設定し、情報の収集や活用の方法を学び、

根拠を明確にして自分の考えを書く、という点を

重視した。

学習者の実態として、情報の調査や活用に課題があった。そこで、探究的な学習につながる理解や認識の過程に重点を置いた。既習事項を生かした段階的な課題設定を行い、活動を導く手立てを工夫するよう努めた。また単元の間と終わりに振り返りを行わせ、自分の考えの変容と身につけた力について言語化させた。これは「学びに向かう力」を育み、学習者の実態を把握するために有効だった。

(1) 単元目標

- ① 新聞記事を用いて社会生活のなかから自ら課題を設定し、複数の情報手段を適切に選択して取材を繰り返しながら自分の考えを深める。
- ② 課題解決までの見通しをもち、資料を適切に引用することなどを通して、説得力のある文章で書くことができる。

(2) 使用した学習材

- ① 新聞五社〔計28部×1ヶ月〕
(H28年12月中旬～H29年1月中旬分。教職員から提供)
- ② 参考図書(百科事典・年鑑・統計・便覧等)
- ③ 参考文献として用いた図書295冊

3 授業の実際〔全7時間〕

〔冬休み〕新聞記事のスクラップ

(1) 一次 課題の把握〔四時間〕(図書館)

手立て：ワークシートの使用(考えの形成・思考の推移を確認するため)。毎時間、学習課題に応じた活動の手引きの作成。

① 第1時話題の選定と分析(問いを立てる)

スクラップをもとに話題を選定。事実と意見を区別し、小さな問いを立て情報を分析。自分の視点で記事を読み取ることで、注目し

たい点を明確にさせた。また、記者の主観を読みとり、自分の意見を書く。単元を貫く課題とする問い（以下、「テーマ」）は、記事の具体性から一歩抽象度を上げて設定するよう助言した。

② 第2時 課題の深化（情報の比較・分析）

選定した話題を基準に、他社や他日の新聞記事と比較する。既習の比べ読みの学習を想起させ、観点を立てて比較させた。また、各自のテーマを吟味させ、論の方向性を定めさせた。

③ 第3時 語句の検索と関連事項の収集

図書館の参考図書を用いて、調べ学習を行う。学習者は年鑑や統計等の資料を活用した経験が乏しい。加えて、非連続型テキストの読みとりに課題がある。そのため既習の新聞記事を用いて、全体で練習を行った。（共通の記事から、キーワードとして何を取り上げるべきか考え、さらにそれを調べるためには何を用いれば良いか考えさせる。意見交換。司書による調査のアドバイスや図書紹介。）練習後に、個人の調べ学習に取り組ませた。

④ 第4時 参考文献の検索（PC室）

各自で主張に必要な参考文献を探す。公共図書館（県立・市立中央の二館）のWebにアクセスし、蔵書検索を行う。学習者は、蔵書検索をキーワードで行う経験も乏しい。そこで各自のテーマや調べ学習から抽出した語句をもとに、キーワード検索をするよう試みさせる。学習者は検索を繰り返して一人一冊ずつ選び、予約カードを提出した。二次開始までに二週間ほど設ける。その間、学習者は各家庭で情報収集の補足を行い、授業者は公共図書館からの借入作業を行った。

選書の手立てとして行ったのは、借入時に資料を追加することだ。また学習者のワークシートを把握し、検索図書との整合を判断し、補充も行った。テーマに応じて学習者が複数の参考文献にあたるよう準備した。（スクラップ期間を区切っていたため、学習者間で共通の話題も多い。選択した図書を比べ参考に使っていた。）主体的な資料活用ができる環境を整えるため、学校司書と協働して行った。

(2) 二次 課題の追究〔三時間〕（図書館）

二次は、自分で選んだ本との出会いから始

まる。学習者はメモをとったり、他の図書と読み比べたりしつつ読み込んでいた。二次ではワークシートは用いない。一次で学習したことを生かし、情報を分析・比較・抽出・関連させて自分で論を形成していく。手引きとしては、記述の段階で授業者の文章を例示した。手引きは第6時に構成・記述として用い、第7時にさらにそれを推敲したものを示した。推敲の手引きでは、推敲後の伝わり方の違いに注目させ、自己の文章に生かすよう促した。

例えばある学習者は、「高齢者を七十五歳以上とする」という新聞記事に着目し地域社会のあり方について提言した。二社の新聞記事を用いて、内閣府の意識調査や高齢者の社会参加の現状・意義を述べ、今後目指すべき社会の姿と自身の参加を考察した。また年鑑や統計を用いて、人口推移や高齢化の現状を分析した。さらに、介護福祉士の母の話や神経内科医の著作（『高齢者うつ病』）を根拠に加えていた。完成作品は文集にまとめ共有した。

4 おわりに

本単元では、主体的な学習を展開するために、問いをもつことを重視し、実生活に即した「選ぶ場」の設定を行った。単元の成果は、学習者が自分の見方・考え方の広がりや自覚し、複数のメディアを目的や用途によって活用する方法を学んだ点である。表現では、目的を明確にして情報を結びつけ、適切な引用を試みて、文章の展開を工夫していた。さらに、多くの学習者が振り返りで、この単元で身につけた力を用いて、今後現代社会のさまざまな問題とどのように向き合っていくか考えていた点も評価したい。単元への意欲も学習前より学習後の方が高い。

これらの学びは、学校図書館の活用無くしては得られなかったものである。また、授業者と学校司書との連携が、学習者の学びを広げたことも強調したい。学校図書館を活用した授業実践は、学習者の生涯学習につながる大切な学びを含んでいると、改めて実感した。

今後の課題は、学習の系統性をもたせることである。今、中学校区内で幼・小・中の連携のもとに図書館部会を開き、実践報告や系統表の作成を行っている。図書館のつながりが学習者の学びを深める基盤となるよう、今後も努力を続けたい。

言語活動を豊かに展開するための図書館教育

美作支部 8 中学校の取組から

美作市英田中学校 教諭 井上 博文

1 はじめに

美作支部教育研修会中学校国語部会は、美作支部 8 中学校の国語科教員で構成されており、国語科の授業研究や図書館教育、書写教育等の研修・交流を行っている。

いずれの中学校も、学校図書館司書の常勤配置はない。国語科を中心にした図書館教育担当者として市町村の職員である司書担当者とが連携し、図書館利用の促進や図書館教育の充実を目指して、取組を工夫している。

2 研究のねらい

本支部では、平成 27 年度から 3 年間、図書館教育の研究テーマを「言語活動を豊かに展開するための図書館教育」と設定し、各校で実践に取り組んできた。そして、この研究の主たるねらいは次の 2 点に絞った。

- (1) 図書館を利用した生徒の主体的な表現活動を工夫すること
- (2) 国語科やその他の教科・領域で、図書館を活用した教育活動を促進すること

3 研究経過

〈平成 27 年度〉

- 第 1 回 (H27.5.19)
 - ・「3 年間の研究の流れ」の確認
～各校での実践～
 - ・各校の図書館教育の現状を分析
 - ・成果と課題をまとめておく。

- 第 2 回 (H28.1.21)
 - ・発表の役割分担原案検討

〈平成 28 年度〉

- 第 3 回 (H28.5.17)
 - ・研究テーマの設定
- 第 4 回 (H28.7.1)
 - ・「研究のねらい」の確認
 - ・「平成 27 年度図書館教育の実践」交流

・「今後の研究の進め方」の確認

- 第 5 回 (H28.8.26)
 - ・本年度の取組計画の交流、意見交換
- 第 6 回 (H28.11.29)
 - ・実践例の発表
 - ・発表原稿の構成を決定

〈平成 29 年度〉

- 第 7 回 (H29.5.16)
 - ・発表原稿の原案検討
- 第 8 回 (H29.6.28)
 - ・プレ発表及び修正等
- 第 9 回 (H29.8.22)
 - ・学校図書館研究大会津山大会への参加と研修
- 第 10 回 (H29.8.25)
 - ・津山大会反省と原稿修正等について検討

4 具体的な実践例

- (1) 国語科で実践する“豊かなことば”

→図書館に親しむ素地づくり

各校の国語科授業実践では、生徒の言語表現力を高めるため次のような内容に取り組んだ。

① 奈義中学校…短歌や俳句の鑑賞

言葉に対する感性を磨くことを目的に、図書や辞書を活用して鑑賞文を作成した。また、感想の交流を行うことで言葉のもつ広がりや深さを感じることができた。

② 勝央中学校…読書郵便

グループでアドバイスし合いながら読書郵便を作成した。また感想の交流を行う中で個人活動にとどまりやすい読書活動に広がりを持たせることができた。

③ 英田中学校…古典の調べ学習

故事成語の意味と背景をグループごとに調べ、まとめた内容と事例の寸劇を発表し合った。この学習は言葉の正しい意味と使い方を意識するきっかけになった。

④ 作東中学校…POP作成

心をつかむキャッチコピーや構成を大切に
したPOPを作成し、投票を行った。他の人
の作品を鑑賞することで着眼点や表現方法の
幅を広げることができた。

⑤ 美作中学校…ビブリオバトル

読書環境が整備されていない中で多くの生
徒が本を手にする機会を作ることを目的とし
てビブリオバトルを行い、読書の楽しさを共
有することができた

(2) 生徒会活動で工夫する“読書のススメ”

→読書に親しむ暮らしへの発展

① 中学生に向けて

勝田中学校では、生徒会文化委員会の取組
として次のような活動を行った。

ア ブックトーク

外部講師による模範ブックトークを行い、
その学習を生かして文化委員によるブックト
ークを行った。この活動を通して読書や書籍
に対する興味を引き出すことができた。

イ ビブリオバトル

ビブリオバトルを行い、発表後投票をして
「チャンプ本」を選んだ。読書という個人行
為を、相手を意識した双方向のコミュニケー
ションへとつなぐことができた。

② 小学生に向けて

西栗倉中学校や勝田中学校では、小学校と
の交流事業で次のような活動を行った。

ア POPを作ろう（西栗倉中学校）

おすすめの本のPOPを作り、小学生に読
んでもらう活動を行った。対象を異年齢にす
ることで、相手に応じた本の選択やPOPの
紹介文に工夫を凝らした。

イ 巨大絵本の読み聞かせ（勝田中学校）

文化委員が選定した絵本を使用し、勝田中
学校区の小学生に向けて読み聞かせを行った。
この活動は聞き手を意識するきっかけになっ
た。

5 成果と課題

今回の研究成果として、次のようなことが挙
げられる。

(1) 国語科での学習を生かして、生徒の表現
活動に図書館を活用した発展的な工夫がで
きた。

(2) 発表する生徒が意欲的に取り組み、自

己表現の幅を広げることができた。

(3) 生徒の発表を聞く生徒も、関心を持って
最後まで真剣に聞くことができた。

(4) 生徒自身の創意工夫を生かした「読書の
ススメ」ができた。

課題としては、次の点が明確になった。

(1) 学校図書館利用率アップや読書活動の活
性化には至っていない。

(2) 国語科での図書館活用はできているが、
他教科やさまざまな教育活動の場面での図
書館活用が不十分である。

6 今後の方向性について

今回の研究の成果と課題を受け、言語活動を
豊かに展開するための図書館教育をさらに充
実・発展させる取組を行う必要がある。

(1) 表現活動の深化に学校図書館の利用が効
果的であり、今後も継続して学習の中で学
校図書館の活用を促進する。

(2) 異年齢など異なる集団に向けて発表する
ことで表現に深み(工夫)が生まれるので、
小中連携や地域連携の中で積極的に取り組
む。

(3) 読書活動の幅を広げるため、さまざまな
ジャンルの本を紹介する場面を、生徒会活
動と連携して行う。

(4) 学校図書館利用率の向上につなげるため、
国語科の学習(教材)と学校図書館の接点
を生徒に知らせ、興味関心を高める。

(5) 学校図書館利用に興味をもてる環境作り
のため、図書館司書と連携して、生徒の実
態や学習内容に合わせた本の選定を行う。

(6) 合科の授業を活かして表現力を高める学
習の工夫として、教科・学級・学年などさま
ざまな教育活動で学校図書館を利用する場
を設ける。

(7) 他教科の学習における学校図書館の積極
的な利用を進める。そのため、図書館司書
と協力して計画的な利用を呼びかけたり、
活用の幅を広げる事例を紹介したり、図書
館利用状況表を作成して計画的利用を促し
たりする。

こうした取組は学校の実態や地域性などによ
って実践が難しい部分もあるが、支部8中
学校で協力し、よりよい実践に高めていき
たい。

主体的で深い学びを目指す図書委員会の活動 —文化祭展示での取組を中心に—

岡山県立西大寺高等学校 教諭 遠藤 撰夫
教諭 石井 日菜子

1 はじめに

(遠藤)

(1) 「言語活動の充実」とは

生徒たちが主体的に学習に取り組み、深い学びへと至る姿は実に尊い。教科の如何を問わず、生徒を「主体的」で「深い」学びに誘うこと。これこそ多くの教師に共通する願いである。学習指導要領に言う「言語活動の充実」も単に表面的な言語活動が活発であればよいという意味ではなく、「主体的」かつ「深い」学びという意味を込めての「充実」であると考えられる。

(2) 文化祭展示へ向けての図書委員会の取組

本校の図書委員会は実に多彩な活動を行っている。独自の推薦図書活動(西高 30 選)を始め、小学生への読書感想文指導、読書リレー、ビブリオバトル、百人一首、弁論大会……と枚挙に暇がないくらいだ。その中で、本稿では、昨年度と今年度の文化祭展示の部へ向けた本校図書委員会の取組を取り上げたい。なぜなら、生徒を「主体的」で「深い」学びへ誘うための熱意や工夫がたくさん含まれている実践だからである。以下、昨年度の実践の概要と今年度のこれまで(5月末)を概説したい。

2 具体的な取組

(石井)

(1) 文化祭展示のテーマ設定とその経緯

毎年9月に行われる本校文化祭では、例年生徒が主体的に取り組み大変な盛り上がりを見せている。そのような中で行われる図書委員による展示発表は、印象に残りにくいものになりがちであった。この現状を打破り、単なる調べ学習や作品展示に終始しない、生徒の「やりたい」という気持ちを引き出すようなテーマ設定が必要だという考えから、生徒にとって身近な問題を取り上げることとなった。そこで注目したのが、昨今ブームとなっている「発酵」の研究である。主に食品を中心として関心を集めているが、その人間に対する有用な働きについて、生徒とともに研究していくこととなった。

(2) 活動の記録

活動は主にグループに分けて行った。

まず、調べものをする班については、本校図書館の書籍を利用して、「発酵とはどのような働きか」「発酵食品の健康効果とは」「いつ頃から人間の生活に発酵食品が取り入れられたのか」などについて調べていった。当初、発酵に関する書籍数は不十分な状況であったが、必要な書籍を随時購入しながら、夏頃には専門書、雑誌、漫画にいたるまで、「発酵」に関する幅広い種類の書籍を揃えることができた。結果として生徒にとっては大変受け入れやすくさまざまな書籍を手取るようになり、活動にも積極的に参加している姿が見られた。また家庭科などの教員にも喜ばれ、授業や部活動での図書館利用も増加することとなった。

次に、生徒が学校外に出て取材を行うという取り組みを行った。発酵食品を取り扱う店として、地域の伝統的な味噌屋と、話題を集めている天然酵母のパン屋に依頼し、取材を行わせていただく機会を得た。そこでは、実際の味噌づくりの現場を見学し、店主の方にインタビューを行い、また普段目にすることができないパンの元となる酵母を味見するなど、貴重な体験ができた。生徒は自分の足で出向いて、実に豊かな体験をしたことで、大変な感動とともに多くのことを学ぶことができたようである。

また校内では「かもし実習」と名付けた昼休みの活動も取り入れた。これは、ぬか漬け・天然酵母(パン作り用)・ヨーグルトなど、毎日手入れが必要な発酵食品について、輪番で図書室に来て世話をする、というものである。毎日混ぜながら変化していく様子を記録し、書籍で調べたことを実際に自分で体験できる形とした。できる限り多くの生徒に取り組みさせるために、この活動は図書委員全員で行うこととしたが、生徒達は高い関心を持って取り組んでいるよう

であり、時には委員以外の生徒も参加した。

特に生徒から人気があったのは、天然酵母を使用したパン作り実習であった。班員以外の有志も募り、自分たちでおこした酵母を使ったパンを作る実習を行った。天然酵母パンを初めて食べる生徒もおり、砂糖も油脂も使わずに味わい深いパンが作り出せる酵母の魅力に引き込まれている様子であった。

以上のような活動を積み重ね、その成果を報告するものとして、文化祭での展示発表を行った。展示において留意したのは、活動内容を生き生きと伝えることである。従来の模造紙を使った調べ学習のみではなく、店への取材やパン作り実習の様子などが生徒の表情とともに伝わるよう DVD を流すことや、生徒たちが作り上げた酵母やぬか漬け、焼き上げたパンなどの現物を展示することなど、そのものを実際に目で見て理解できる形に仕上げるようにした。もちろんその傍らには「発酵」にまつわる書籍を展示し、本と実物の結果として文化祭展示の部最優秀賞を獲得できたことは、生徒にも教員にも励みとなる出来事であった。

(3) 本年度の取り組みの方向性

以上のような取り組みにより、「発酵」というテーマ一つで、主体的に生徒が図書館を利用しながら学ぼうとする姿勢を醸成することができたことは、予想以上の成果であった。翌年度のテーマは生徒自身から発せられるアイデアを大切にしたいと考えていたところ、口々に「絵本に出てくるお菓子を再現したい」という意見が聞かれるようになり、翌年は「絵本」をテーマにしようという流れが自然とできてきた。

ただ、ここで「絵本」をテーマとするならば、高校生にしかできない「深い」学びへ到達させたい、というねらいも実現できるよう、内容は多岐にわたる形となった。具体的には「絵本で哲学をしよう」「絵本から自然と人間について学ぼう」「絵本の世界観を美術作品に仕上げよう」などである。また、倉敷にできた絵本屋に訪問することも計画している。生徒はこれらのテーマに大変関心を抱き、新入生も含めて希望する分野を尋ねてみたところ、どのテーマにもバランス良く希望者が集まった。また、事前に「自分にとって絵本とはどのような存在か」という質問を行った際にも、生徒達は昔を振り返りな

がらそれぞれの思いを丁寧に答えてくれた。

このように、一見子どもの読み物と思われがちな「絵本」の世界を生徒とともに深めていく活動がすでに始まっている。昨年度に引き続き、生徒たちの普段とは異なる新たな表情に出会えることが今から期待される。

3 おわりに

(遠藤)

(1) テーマ設定の重要性

「発酵」の取組に見られるように、「身近ではあるが、意外に奥が深く、様々な活動が組織できる」ようなテーマの設定が重要である。

身近なところから出発し、理論的にも深めつつ、多彩な活動が組織できるテーマ。こうしたテーマ設定こそが「主体的」で「深い」学び実現の第一の要諦である。今年度の「絵本」もそうした条件に該当するテーマと思われる。

(2) 教員ネットワークの組織化

昨年度も今年も教員のネットワークの中心は石井教諭である。その熱意と工夫は大いに参考になるが、一方でそれを図書課として組織化できれば「学校」としての財産となる。こうした組織化はえてして「形骸化」を招きかねないが、今後の課題として検討していきたい。



【写真】 かもし実習をする生徒たち

「分科会 C 言語活動の充実を支える学校図書館」研究協議の概略

発表者	中島 早苗	(岡山市立幡多小学校	教諭)	
	池田 早織	(〃	教諭)
	伴 涼子	(〃	学校司書)
	安東 美香	(岡山市立旭東中学校	司書教諭)	
	長瀬 幸子	(〃	学校司書)
	井上 博文	(美作市立英田中学校	教諭)	
	市村 舞子	(〃	教諭)
	遠藤 摂夫	(岡山県立西大寺高校	教諭)	
	石井 日菜子	(〃	教諭)
指導助言者	榎野 滋子	(岡山県立津山商業高校	校長)	
運営責任者	山本 信子	(真庭市立落合小学校	教頭)	
司会者	長尾 路子	(美咲町立中央中学校	教諭)	
記録者	白石 直子	(真庭市立落合小学校	教諭)	
	須江 美智代	(真庭市立米来小学校	教諭)	

質疑応答

Q 岡山の魅力をどのような形でまとめたのか。

A 自然や観光、特産物などについての冊子を作製した。

Q 「調べる楽しさ」や「探求する姿勢」に関しての他の事例があれば教えてほしい。

A 蒜山のことを調べていく中で「大根」に注目し、それについてさらに詳しく調べるなど、次の学びへとつながっていった。

Q 「学びをつなぐ」ことに関して、それをどのように生かしていったのか。

A 特に「情報の取り組みの方法」に着目してつないだ。様々な情報を結びつける、比較する、そのための観点を国語科で学び、活動に生かしていった。

A 参考図書の比較の際、「統計を使うと説得力がある」ことをアドバイスしたり、資料の一覧表を作成したりするなどして支援した。また、各メディアによって、同じ事柄でも書きぶりが違うこと、取り上げ方や内容が変わっていることや記事の大きさや書きぶり、著者の意図や思いの違いも分かることなどを理解させた。キーワード検索や著作権についての指導も行った。

Q 読書郵便をあえてグループで取り組ん

アイデアを出し合ったりすることでより良いものにしていくために、グループでの活動を取り入れた。個人で作成した後は図書館や廊下に掲示し、広く交流した。

Q 生徒会とはどのように連携しているのか。

A (勝田中) 司書が勤務する日(週1日)にあわせて、文化委員の活動に助言や協力を行っている。(ビブリオバトルや読み聞かせ等)委員会担当教員も参加している。

(西粟倉中)文化委員が中学生に向けての活動を行っていたが、偏りがちだった読書活動をより広げることも考えて、小学生に対しての活動も行っている。西粟倉は本を幼・小・中で同じ仕組みで管理しているので、利用しやすい。

指導助言

「言語活動の充実」は現行の学習指導要領のキーワードである。そして新学習指導要領で言われている「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現のためには、「言語活動の充実」はとても重要なことである。

これから目の前の児童生徒に問題解決の力をどのようにつけていくかが大切である。

そのためには、学校図書館の役割は大きい。今回の発表の取り組みには、これからの教育の方向性が示されている。

最初の発表では、児童の基礎学力の中で、情報活用能力の活用に課題があることから、学校図書館と連携して情報活用能力の育成の取り組みを行っていた。各学年の到達目標が立ててあり、その学年で何を身につけさせたいかが明確になっている。子どもたちは計画的・主体的に力を伸ばしている。また、担任が目標達成のためのフィールドワークを行い、学校司書が最適なタイミングでの関連資料の展示を行うなど、立場を生かした連携ができていた。チームとして連携して取り組んでいた。さらに授業の中で対話的な学びや深い学びができており、児童が図書館ともつながっている。児童の情報活用能力は伸びているので、今後は自分の考えを関係づける力、他と比べる力を伸ばしていけるようにカリキュラムマネジメントをしていったらよいのではないかと思われる。

次の発表では、地区のテーマに基づいて、生徒につけたい力を明確にして学習に取り組んでいた。担任と学校司書との連携ができており、図書館機能を効果的に生かしていた。それぞれの生徒が自分の興味関心で集めてきた異なる5社の新聞のスクラップを元に話題を選定し意見文を書くという活動は、実態にそった計画的で深い学びになっていた。書き上げた意見文も素晴らしいものになっていた。文集という形に仕上げたことで、交流のきっかけとなるだけでなく伝統や資産にもなる。この意見文は記録だけでなく記憶にも残る物になる。そしてこのような取り組みを社会科や総合的な学習といった他の教科でも進めてほしい。

3つめの発表は、地区や学校をこえた広がりのある取り組みだった。国語科の指導要領の言語活動に具体的に示されている内容を、生徒にことばの力をつけるために3年にわたって図書館とつながって指導でき

ている。生徒会と連携した取り組みや地域の小学校との人的物的交流ができていのもすばらしい。まさにカリキュラムマネジメントである。PDCAサイクルの確立もなされているので、今後もよりよいものになるように3年間をかけて計画的に取り組んでほしい。

最後の発表は委員会での取り組みである。委員会での取り組みはよくあるが、この取り組みには熱意と工夫がたくさん含まれている。教師の熱意や仕掛けが生徒のやりたいという気持ちを引き出している。また、フィールドワークや体験学習、展示と取り組み内容が多彩で深い学びにつながっている。見学した人にもわかる工夫もされていた。今後は生徒にどのような資質・能力がついたのかを分析・検証してもらいたい。このような取り組みが家庭科や理科、マーケティングといった教科指導の学びと連携できたらよいのではないかと思われる。



絵本ってたのしいな！ 昔話にふれて

岡山市立鹿田幼稚園 教諭 篠 崇敏

1 はじめに

「いっすんぼうし」「きんたろう」「はなさかじいさん」誰もが知っている昔話。ところが、自分の教員人生を振り返ると、誰もが知っているはずのこれらの絵本を、今まで担任した子どもたちに読み聞かせてきたかどうかと、ふと不安に思った。きっと子どもたちも保護者も、『いっすんぼうし』は小さな男の子がお椀に乗っている、『きんたろう』はクマと相撲をとっている、『はなさかじいさん』は枯れ木に花を咲かせる」ということはわかる。では『いっすんぼうし』はなぜ大きくなったのか？『きんたろう』は最後どうなったのか？『はなさかじいさん』のおじいさんと犬はどこで出会ったのか？ということなどを知っているのだろうか？と疑問に思った。何より、自分自身も、実は知っているつもりで知らないことがたくさんあるのではないかと考え、昔話絵本の読み聞かせを実践してきた。

2 幼稚園では

幼稚園では、親子ふれあいの一貫として、園の絵本を貸し出し、保護者に子どもへの読み聞かせをしてもらい取り組みを行っている。子どもたちも週に1度の絵本借りを喜び、大好きなお家の方から読んでもらうことを楽しんでいる。子どもたちが絵本を選ぶ理由は「面白そうだから」「絵がかわいいから」「お母さんが借りてきてって言ったから」と様々である。「わんぱくだん」や「10びきのかえる」など気に入ったシリーズを何週にもわたって借りる幼児もいる。

「先生が読んでくれて面白かったから」という声もよく聞く。幼児の興味や伝えたい内容、季節や行事などを考えて絵本を選んでいる立場からするとうれしい言葉である。保護者の方の中から自分の子どもに昔話を読み聞かせること

が少ないという声も聞き、幼稚園でしっかりと昔話にふれる機会をつくってほしいと考えた。

3 絵本の実践

【2・3年保育5歳児】

『ももたろう』 出版社：福音館書店

文・松居直 画・赤羽末吉

絵本を出すと多くの幼児が「知っとる～」と声を上げる。「どんなお話？」と尋ねると、「こ～んな大きな桃が流れてくる」「桃を割ったら赤ちゃんが出てくる」「猿と犬とキジが出てくる」「鬼をやっつける」「鬼を倒して宝物を持って帰る」など口々に自分の知っていることを話し出す。読み始めると、自分が思っていたことと違うことが出てくる度に「あれ、桃が小さい…」「桃食べた…」「包丁で切っていない…」とつぶやきが聞こえてくる。最後の場面では「え？宝物持って帰らないの？」と少し驚いたようにつぶやく。

『さんまいのおふだ』 出版社：福音館書店

水沢謙一・再話 梶山俊夫・画

本を開く前から「知っとる」「見たことある」の声が数名から上がる。「ばばあが出てくるんよな？」という声が聞かれ、他の幼児が「やまんばじゃろ」と教えていた。読み始めると「あれ？」「知っとる話と違う」「栗拾いに行くんじゃないの？」と自分が知っているストーリーとの違いを口にする。絵本の中には少し難しい言葉が出てくる場面もあったが、集中して聞いていた。便所の場面でのやりとり、特に「はやはや」が繰り返されると笑いが起こる。他にも、3枚のお札が白色ではないことに「あれ？違う」。その後も「山の次は、川よな」「水飲むんよな」など自分たちが知っている話を小声でつぶやきながら見る姿が見られる。

『かちかちやま』 出版社：福音館書店
おざわとしお・再話 赤羽末吉・画
表紙を見て、「この話知っとる」と声が聞かれたが、読み始めると静まり返って見ている。おばあさんがたぬきに殺される場面では「え？死んだん？」「たぬき悪い」とつぶやいていた。「ここはかちかちやま〜」という、うさぎとたぬきのやりとりの場面では笑いが起こる。最後のだぬきが沈んでいくページでは「先生（絵本を）ひっくり返してみて」と言うのでひっくり返すと「何か泳いで溺れとるみたいじゃな」とこやかに絵を見ている。

『かえるをのんだととさん』
出版社：福音館書店
日野十成・著 斎藤隆雄・画
この話を知っている幼児が、「これ面白いんよな」とつぶやく。カエルを飲む場面では「え〜」「おえ〜、気持ち悪い」と声が聞こえる。話が進むにつれて、次は何を飲むかを想像して口々に言ったり、笑いながら見る様子が見られる。かかさんとととさんの同じやりとり「かかさんや」「おしょうさまにききなはれ」の間を少しずつ短く読むと幼児から笑いが起こる。最後鬼がどこから出ていくのか想像し、「お尻から出るんじゃね？」とつぶやき、予想が当たり、大笑いをする。

『だいくとおにろく』 出版社・福音館書店
松居直・再話 赤羽末吉・画
年中時に読んでもらったことがあることから、「知ってる」「この本持ってる」という声上がるが、読み始めると集中して聞く様子が見られる。「めだま」という言葉に反応し、「え、めだまあげるん？」と驚いたようにつぶやきが聞こえる。鬼の名前を当てるというところで一人の子どもが「知っとる、鬼じゃ」というと「違う、おにろくじゃ」と他の幼児が答えていた。大工が別の名前を呼ぶと幼児から大爆笑が起きる。なかなか本当の名前を言わないことに不安になったのか、一人の子どもが「本気で言うてるん？」と声を出すと、「違う、わざとじゃ」と他の幼児の疑問に答える姿がある。読み終わると、表と裏の表紙が繋がっていることに気付き、「つながってる」と嬉しそうに言っている。

4 おわりに

有名な昔話の中には、いくつもの出版社からでているものもたくさんある。その中で、長く読み継がれているもの、内容や絵、文が子どもにとって心を揺さぶるものなどを読み手が選び、与えることの大切さと難しさを改めて感じた。昔話の中には、他人に優しくする大切さ、約束を守る大切さ、悪いことをすれば罰が当たるという教訓、日本の伝統行事の由来や慣わしなど様々なことが詰まっている。昔話の面白さを伝えていくことも教師の大切な役割であると改めて考えた。

昔話における語りの重要性

岡山県立倉敷商業高等学校 教諭 岡部 香

1 はじめに

昔話は、代々口で語り、耳で聞かれてきた口承文芸である。何千何万とあり、ストーリーもさまざまだが、語り継がれてきた昔話には、独特の"語法"がある。各地で語られ、採集されたなまの昔話を、昔話の語りの法則に厳密に沿う形に手直しし、再編集して文章化する作業を再話と呼ぶ。私はご縁をいただき、昔話の再話作業をすることになった。この経験を通して、語りの持つ重要性を知ることになったので、昔話を若い世代に送り届ける生徒たちに語りを体験してもらいたいと考えようになった。

本校は、創立106年目の商業高校で、1学年8クラス、全24クラスの、約960名が在籍している。3年次になると、教科「商業」の「課題研究」の中で、進路に応じた研究をすることになる。幼児教育・保育系への進学を希望する選択講座の中で、昔話絵本について授業担当者、司書と私の三人で実践した授業について報告したい。

2 具体的な取り組みの概要

教科「課題研究」の中に「保育士・児童福祉士」講座がある。この講座は、幼児教育に興味を持つ生徒が選択している。昨年度の利用者は17名で、利用者は県内の短大、四年生の大学を中心に進路希望を持っている。週一回2時間連続の授業になっているので、近隣の市立図書館へ絵本の読み聞かせに出向くなど、いろいろな取り組みをしている。その中で、4時間を1クールにして、「昔話絵本を読みくらべる」ことを目的として、実施した。

(1) 1時間目＝昔話絵本について以下の点に焦点をあてて説明した。(司書と私)

① 昔話について

ア 口承文芸としての語り口

耳で聞き、伝承されたもので特有の語り口を持つ

イ 普遍的な語りの法則

例) 構造, イメージ, 話型

ウ 再話の重要性

例) 同じ言葉の繰り返し

心地よいリズム

切り絵細工のように語る

説明後、福音館書店の小澤俊夫再話の「日本の昔話」より実際に語った。それを受けて、司書より昔話絵本について説明した。

② 昔話絵本について

ア 大人と子どもでは絵本の読み方が違う

子どもはまず絵をじっくり“読む”

イ 語りと昔話絵本の違い

語りのほうが自由に想像できるし、主人公になりきってお話を味わえる

ウ 昔話絵本の利点

絵本になったからこそ出会える昔話がある、昔の風景やものをイメージする助けになる など

エ 読みくらべる際の留意点

重要な要素である繰り返しが省かれていないか、子どもが見たいと思う場面が省かれずきちんと描かれているかなど

(2) 2時間目＝調べ学習「絵本の読みくらべ」
(担当者)

うらしまたろう

3びきのこぶた

ももたろう

(3) 3時間目＝発表「絵本の読みくらべ」
生徒による発表 (担当者)

(4) 4時間目＝まとめ (担当者)

語りを聞く生徒



絵本について学習する生徒



読み比べた絵本について発表する生徒



3 語りの生徒の感想より

「耳で聴くっていうのは色々なイメージ，想像がふくらんでいった。びっくり，こんなに楽しく聴けるのかと思った。（中略）小さいころ見たり，聞いたりしたことはまた違ったふうに見ることができて純粋に楽しんで絵本を見ることができた。」「すごく集中してきけた。」「昔話は本来口で語り継がれるものだからときいて納得しました。」「絵がない分，頭の中で，どんな場面なのかと想像しながら聞けるので，面白いなと思いました。」

以上の感想より，語りには何がしかの力があると分かる。お話を聞くととき，聞き手は，耳からの情報だけでイメージを作ってストーリーを楽しむ。どんな幼い子でも，お話を聞いている時は，頭のなかはフル回転して情景を描いているはずである。想像力はお話を存在させる大きな力になりはしないか。

想像の材料は，これまでの人生で見たものや体験したことがらであるので，実体験が豊かであればあるほど，描かれる像も豊かになる。一方，テレビなどのメディアには，画像があり，効果音やBGMまでである。情報が多いだけに，受け身で楽しむことができ，集中して想像力を働かせる必要はあまりない。もちろん，ストーリーがどう展開していくんだろうと考えたり，登場人物に感情移入して感動したりすることもあるが，作り手の決めた方向に流されていく傾向は否定できない。

以上のように考えると，語りを楽しめるというのは，ひとつの能力であると思われる。そしてその能力は，特別のことをしなくても，楽しんで聞くというだけで十分に育つと考える。

日常的に語りを聞くことは，自分が他の人間になって感じたり考えたりするという体験に繋がる。ストーリーは，通常，ある事件を受けて次の事件が起こるといふうに，因果関係に沿って展開する。子どもは，次はどうなるのか，その展開を予想しながら主人公になりきって聞くことになる。

これから昔話を送り届ける彼ら自身に，語り本来の喜びを体験してもらえたらと思って実践したが，語り手の思いは届いたように思う。

4 まとめ

昔話絵本が巷に溢れている。絵があることで，お話の助けとなることはもちろんある。しかしながら，耳で聞いて心地よいかどうかという視点も入れて，昔話絵本を選書してもらいたい。大人も含め囲炉裏でお話を聞く体験が少なくない今，子どもたちとの関わりの中で，昔話絵本だけでなく一歩進んで語りを楽しんでもらいたい。

「分科会 D 心をつなぐ絵本」研究協議の概略

発表者	篠 崇敏	(岡山市立鹿田幼稚園)	教諭
	岡部 香	(岡山県立倉敷商業高校)	教諭
指導助言者	大河原 信子	(津山市立図書館)	副館長
運営責任者	唐木 美穂	(真庭市立草加部小学校)	教頭
司会者	難波 真	(倉敷市立南中学校)	教諭
記録者	日野 麻美	(美咲町立加美小学校)	教諭
	野呂 直子	(久米南町立神目小学校)	教諭

■ 質疑応答

(篠先生への質問)

Q: 読み聞かせの本の選定として、「かぐや姫」は失敗だったと発表の中でお話しされていましたが、その後、「かぐや姫」の読み聞かせは最後までされたのでしょうか。

A: はい、しました。最後まで読み終わると、一人だけでしたが、拍手をしてくれた子どもがいました。

(岡部先生への質問)

Q: 英語で書かれた図書の中で、良かったものがあれば、教えてください。

A: 今回の実践では、生徒が子どもの頃に読んだ本を和訳する活動を楽しみました。昔話については、特有のリズムを大切にされたため、取り扱ってはいません。したがって、もともと英語で書かれた本を生徒がリサーチして選びました。実際子どもたちが選んだ本は、「マドレーヌ」「がらがらどん」「スイミー」などがあります。懐かしさを感じながら読み、活動することができました。

Q: 英語で書かれた本の読み聞かせは、発音が難しいのでは？

A: CDが付いた本もあるので、活用できます。

■ 感想のまとめ

○ 昔話の読み聞かせについて

- ・知っていると思っても、ざっくりとした内容しかわかっていないところもあると感じた。
- ・昔話には、言葉の難しさなどもあり、苦手意識をもっていましたが、自分でもよく読んで、子どもたちに読み聞かせたい。
- ・お話の中には、けがをしたり、痛い思いをしたりなどの残酷な場面があったりもする

が、子どもたちにも読み聞かせていきたい。

- ・小、中それぞれに、昔話を語っていくことは大切だと感じた。

○ 昔話の本の選定について

- ・同じ題名のもので、出版社さんによって絵や内容の表現に違いがある。自分の好みだけではなく、細かなところまでよく見比べて選びたい。
- ・読み比べの実践をしたことを思い出した。また、してみたいと感じた。

○ 絵本を使った授業について

- ・高校でも絵本を使って授業を行っていることや、絵本そのものへの理解を深める授業実践を行っていることに驚かされた。
- ・定番の本の力を感じた。
- ・絵をよく見ることが大事。
- ・自分自身もしっかり絵本を見た上で、ほんの楽しさを伝えたい。

○ 英語の本の活用について

- ・洋書の選定や取組が参考になった。
- ・同じ本の英語版と日本語版を並べての紹介の仕方がよかった。

<指導助言>

学校現場での実践を聞いて、公共図書館も連携して一緒に取り組みをしていけたらよいと思った。公共図書館では、中高生の利用が減ってきており、高齢者の利用は増えている。読み聞かせの取り組みをボランティアの方に協力していただいている。ストーリーテリングなどを取り入れて行っている。司書は6ヶ月から2才くらいの乳幼児向けの読み聞かせを行っている。ストーリー性のある物語を理解することは難しいが、小さいうちから本に親しむことができるようにしている。

昔話を選ぶポイントとしては、昔から言い伝

えられたシンプルな文体であること、独特の語り口や繰り返しの言葉が心地よいものを選ぶようにしている。物語の最後は主人公が完全に救済される安心できる内容のものがよい。また、子どもの成長を語っていく内容のものもよい。

「人生でいろんなことがあってもくじけることはないよ、大丈夫」というメッセージが込められている。その時は意識しなくても大人になって思い出して心を支えてくれることもある。伝承された文芸として昔話を伝えていくことが大切である。

学校図書館と公共図書館がこれからも連携して子ども達の生きる力を育んでいきたい。



第63回読書感想文岡山県コンクール

I 日程

- 6月22日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 10月2日(木) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立妹尾中学校
仁科 恵子
*高校・・・岡山県立総社高等学校
中尾 慎一
- 10月10日(火) 第1回合同審査会
《審査期間》
- 10月26日(木) 第2回合同審査会(小学校)
- 10月30日(月) 第2回合同審査会(中学校・高等学校)
(最終審査)
- 12月14日(木) 表彰式

II 県審査委員

- 県SLA会長 福田 邦男 (岡山県立倉敷古城池高等学校校長)
- 副会長 高田 恵子 (岡山市立馬屋下小学校校長)
- 〃 門田 正充 (岡山市立岡輝中学校校長)
- 前田 幹夫 (毎日新聞社岡山支局長)
- 審査委員 黒田 和子 (岡山市立福渡小学校)
- 〃 矢尾 香奈枝 (岡山市立福渡小学校)
- 〃 山本 恭祐 (岡山市立三門小学校)
- 〃 長畑 由美 (岡山市立操明小学校)
- 〃 太田 淑子 (岡山市立千種小学校)
- 〃 福永 紘子 (岡山市立千種小学校)
- 〃 曾川 雄一 (岡山市立浮田小学校)
- 〃 山田 佳奈子 (岡山市立浦安小学校)
- 〃 難波 佳子 (和気町立本荘小学校)
- 〃 波多野 みゆき (瀬戸内立裳掛小学校)
- 〃 武内 麻里 (瀬戸内市立裳掛小学校)
- 〃 深見 理絵 (瀬戸内市立行幸小学校)
- 〃 梶原 理恵 (吉備中央町立津賀小学校)

- 審査委員 秋 久 優子 (倉敷市立万寿東小学校)
- 〃 出 宮 弓子 (倉敷市立西阿知小学校)
- 〃 吉 井 舞子 (倉敷市立第三福田小学校)
- 〃 徳 山 麻衣子 (倉敷市立下津井東小学校)
- 〃 川 上 美 紗 (倉敷市立柏島小学校)
- 〃 河 村 由美恵 (倉敷市立富田小学校)
- 〃 中 原 洋 子 (倉敷市立菌小学校)
- 〃 松 野 哲 也 (総社市立維新小学校)
- 〃 妹 尾 敦 子 (矢掛町立三谷小学校)
- 〃 杉 田 智 恵 (高梁市立津川小学校)
- 〃 岡 崎 明 子 (新見市立井倉小学校)
- 〃 竹 久 真寿美 (津山市立一宮小学校)
- 〃 出 井 桂 治 (鏡野町立奥津小学校)
- 〃 古 南 陽 子 (美咲町立旭小学校)
- 〃 河 野 好 (美作市立勝田東小学校)
- 〃 原 清 行 (岡山市立光南台中学校)
- 〃 横 山 留美子 (岡山中学校)
- 〃 中 河 舞 (玉野市立荘内中学校)
- 〃 藤 本 久 美 (倉敷市立東中学校)
- 〃 兒 玉 多 江 (高梁市立高梁東中学校)
- 〃 實 盛 知 義 (赤磐市立桜が丘中学校)
- 〃 廣 江 典 子 (津山市立鶴山中学校)
- 〃 仁 科 恵 子 (岡山市立妹尾中学校)
- 〃 佐 伯 詩 帆 (岡山市立福田中学校)
- 〃 若 狭 真 司 (倉敷市立倉敷翔南高等学校)
- 〃 堀 田 昌 一 (岡山学芸館高等学校)
- 〃 畝 岡 睦 実 (県立岡山南高等学校)
- 〃 四十塚 照 実 (県立岡山芳泉高等学校)
- 〃 橋 本 育 視 (県立鳥城高等学校)
- 〃 妹 尾 樹代子 (倉敷高等学校)
- 〃 唐 井 悦 子 (県立鴨方高等学校)
- 〃 岡 田 伸 彦 (金光学園高等学校)
- 〃 水 川 加寿美 (県立笠岡高等学校)
- 〃 塩 月 陽 菜 (おかやま山陽高等学校)

III 岡山県指定図書

	書名(シリーズ) 著者名	発行所
小 (低)	『しゅくだい大なわとび』 福田 岩緒	PHP 研究所
	『じてんしゃのほねやすみ』 村上 しいこ	PHP 研究所
	『100円たんけん』 中川 ひろたか	くもん 出版
小 (中)	『三年一組、春野先生!』 くすのき しげのり	講談社
	『世界一の三人きょうだい』 グードルン・メプス	徳間書店
	『警察犬になったアンズ』 鈴木 博房	岩崎書店
小 (高)	『未来のクルマができるまで』 岩貞 るみこ	講談社
	『紅のトキの空』 ジン・ルイス	評論社
	『「水辺の学校」の所くん』 本田 有明	PHP 研究所
中 学 校	『夜間中学へようこそ』 山本 悦子	岩崎書店
	『モンスーンの贈りもの』 ミタリ・パーキンス	鈴木出版
	『手をつなごうよ フィリピン・ミンダ ナオ図書館』 松居 友	彩流社

IV 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校低学年	6,362編	6,678編	6,737編
小学校中学年	10,313編	10,657編	11,384編
小学校高学年	11,653編	11,518編	12,085編
中学校	28,734編	27,233編	26,954編
高等学校	15,800編	16,024編	16,117編
計	72,862編	72,128編	73,277編
応募校数	598校	605校	603校

2) 特別賞受賞者(最優秀賞受賞者)

岡山県知事賞

岡山市立宇野小学校 6年 田野辺創

岡山県議会議長賞

岡山大学教育学部附属中学校 2年 小野媛乃

岡山県教育委員会教育長賞

岡山県立天城高等学校 2年 秋山恵里

岡山商工会議所会頭賞

就実小学校 2年 藤原一希

岡山市長賞

備前市立伊部小学校 3年 岡野日向子

岡山県読書推進運動協議会会長賞

岡山県立岡山操山中学校 3年 廣尾和希

美作市立美作第一小学校 5年 井上雅功

岡山市立宇野小学校 5年 佐藤叶望

毎日新聞社岡山支局長賞

岡山県立岡山城東高等学校 1年 岡田朋夏

新見市立神代小学校 2年 池田真人流

就実小学校 1年 藤田崇弘

岡山県学校図書館協議会会長賞

玉野市立八浜中学校 2年 岡本実々

岡山市立甲浦小学校 3年 藤原芽生

井原市立木之子小学校 3年 熊原和香

第62回青少年読書感想文コンクール入賞者

全国学校図書館協議会会長賞

岡山県立天城高等学校 2年 秋山恵里

サントリー奨励賞

岡山市立甲浦小学校 3年 藤原芽生

備前市立伊部小学校 3年 岡野日向子

審査概評

小学校低学年の部

●自由読書

今年度、自由読書の部で県審査対象となった作品は、一年生が四十編、二年生が四十四編、計八十四編であった。

感想文に取り上げられた内容は、家族や友だちとの関わりをテーマにしたもの、動物が主人公になっているもの、戦争や平和について訴えたもの、命や体のことを取り上げたもの、伝記や物のでき方を知るものと、多岐にわたっていた。

本との出会いについては、本の題名や絵に興味をひかれた、一度読んでもらったことのあるものを今度は自分で読んでみた、自分の興味から本を選んだなどであった。本とのよい出会いが、感性を豊かにさせていることを感じた。

物語の主人公が、動物や自分たちと同年齢の子どもであったりするものが多く、主人公と自分の姿を重ね合わせ、共感したり比較したりしながら、物語を読み進めていることが感じられる作品であった。主人公の言動から、日頃の自分の思いや行動をふり返り、今後の自分をより成長させようとする意欲が伝わってくる作品が多かった。

また、読書が、家族との関わり合いを見つめ直すきっかけになり、兄弟や家族に対する感謝の気持ちを表す内容のものもあった。

図鑑などの絵・写真の多い本を読み、作り方やでき方を知るだけでなく、自分の興味に合わせて読み取っている。知識を得るだけのものにせず、そのあり方から、自分の生き方にまで考えを及ぼしている作品となっていた。

伝記を読んで、書かれた作品もあった。低学年の児童にとっては、感想を書くことが少し難しいと感じたが、人物の素晴らしさに感動した気持ちが伝わってくるものであった。挑戦する心が強く述べられていた。

文章表現においては、登場人物に対して、手紙形式で書かれたものが目を引いた。自分の思いを素直な気持ちで表現することができていて、読みやすかった。また、本を選んだ理由から始まるのではなく、一番心に残ったり印象的であったりしたことを、自分の体験と重ね合わせながら表現することから始めるというものもあった。

今回の審査を終えて、低学年の児童が八百字の枠の中で、自分の思いを素直な気持ちで表現することができていたこ

とに感動した。どの作品も、自分の暮らしと結びつけた素直な思いが込められた作品であった。自分の生活をふり返り、悪かったことを反省し、より成長するためにはどうすればよいか、よりよい友だち関係を作るためにすることなど、低学年児童としての思いが、最初から最後までしっかり表現できている作品が多かった。読書を通じて物の見方や考え方が変わり、これからの生き方をよりよいものにしていくことができることを感じ、読書の素晴らしさを痛感した。読書の量ばかりでなく、自分にあった本に出会ってほしいと願うばかりである。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、一年生二十二編、二年生二十一編、合計四十三編であった。

課題図書別では、

『ばあばは、だいじょうぶ』 十九編

『アランの歯はでっかいぞこわーいぞ』 十三編

『なにがあってもずっといっしょ』 七編

『すばこ』 四編

となっている。どの本も、表紙やさし絵が子どもの関心をひくものであり、内容も子ども達にとって身近で親しみやすく、作品の世界に入りやすかったようである。自分と主人公との共通点が多いという視点で本を選んでいる児童が多いようで、応募数には偏りが見られた。

それぞれの課題図書について、感想の傾向をまとめてみると、次のようになる。

『ばあばは、だいじょうぶ』

いつも「だいじょうぶ。」とつばさの頭をなでてくれていた優しいばあばが、忘れてしまう病気にかかってしまう。どんどん病気の進むばあばに戸惑うつばさ。ばあばが突然いなくなった日、いろいろなことを忘れても家族のことを思っているばあばの優しさにふれ、つばさは帰ってきたばあばに靴下をはかせる。そんなつばさの姿に、自分と祖父母との関係を重ね合わせて読み、自分の中にある家族を大切に思う気持ちや家族のすばらしさに気付き、自分もできることをしたいという思いを素直に表現している作品が多かった。

『アランの歯はでっかいぞこわーいぞ』

ジャングルみんなを怖がらせる努力を怠らないアラン。そんなアランの秘密は、入れ歯だったこと。ある日、アランの歯が入れ歯だったことがジャングルの仲間知れ渡り、

誰もアランのことを怖がらなくなった。怖がらせること以外何もできないと戸惑うアランの気持ちに共感したり、いつも怖がらせていたアランを受け入れる森のみんなの優しさに触れたりしながら感想を書いていた作品が多く見られた。嘘のない本当の自分の姿や周りの友達との関係を考えるきっかけとなったようだ。

『なにがあってもずっといっしょ』

主人公は犬のサスケ。飼い主であるサチコさんと強い絆で結ばれている。ある日、外出したサチコさんが帰ってこない。そんなサスケに周りの人は優しくする。今まで気付かなかったサチコさん以外の人間や動物たちの優しさを知り、心を開いていくサスケの心情の変化に寄り添い、自分の体験を想起しながら感想を書くことができていた。そして、周りの人々との関係をみんなの気持ちを考えて行動したいなど、前向きに考えている作品が多かった。

『すばこ』

すばこは人が作った鳥の家。百年前、ドイツのベルレプシュ男爵が作り、世界中に広がっていったことが、美しい絵で紹介されている。すばこが、初めは鳥を捕まえるための罠だったことに驚き、すばこが世界に広がっていく様子やいろいろなすばこがあることをわくわくしながら読み進めることができていた。最後は、自分の身の回りの自然にも目を向け、人間と動物と一緒に暮らしていくことの難しさを考えている作品が多かった。

全体として、本の内容と自分の生活を重ね合わせながら読み進め、自分の思いを素直に表現している作品が多く見られた。一冊の本との出会いから、自分のこと、友達や家族のこと、生き物とのかかわりなどについて見直したり、よりよい自分になりたいと願ったりすることはすてきなことだと感じた。

これからも、本との出会いを楽しんで、心豊かに成長して行ってほしい。

●指定読書

今年度の県審査対象作品は、一年生十四編、二年生十九編、合計三十三編であった。

これを図書別にみると、次の通りである。

『100円たんけん』 二十編

『しゅくだい大なわとび』 八編

『じてんしゃのほねやすみ』 五編

「100円」と「たんけん」、「しゅくだい」と「大なわとび」、「じてんしゃ」と「ほねやすみ」、どの作品の

題名も、違う言葉の組み合わせで、子ども達の興味を引き、手にとって中を見てみたいと思わせるものであった。それぞれの作品の楽しさにふれながら、登場人物の行動や思いに自分の生活や体験を重ねながら読み進めることができたようである。

図書別に、感想の傾向を見ると次のようになる。

『100円たんけん』

一〇〇円ショップでは、いろいろなものが一〇〇円で買える。大きい物から小さい物、生活用品からパーティーグッズまで、すべてが一〇〇円である。一〇〇円という身近なお金から、ものの価値に目を向け主人公の「一〇〇円たんけん」が始まる。大きなスーパーでの買い物と違い、商店街の専門店を回っての買い物は、並べられた物をただ買い物かごに入れてレジで支払う行動と違い、「一〇〇円ありき」でお店の人、一人一人と直接話をする楽しさがある。また、商品によって、いつもはしない買い方ができることに驚き、様々な物の価値に気づくことができる。そういう買い方の楽しさに気づき、自分でも実際に出かけて行って話を聞いたり、他の商品について調べたりしながら、しっかりと自分の感想が表現できている作品が多かった。作品の終末には主人公が自分のお小遣いで母親への感謝を表す行動から、物の価値だけでなく、物に込められた人の思いにまで目を向け、周囲の人たちに感謝の気持ちを抱くことができていた作品もあり、素晴らしいと感じた。

『しゅくだい大なわとび』

なかなか大なわとびがとべないそうたはクラス対抗の大なわとび大会の練習で同級生から笑われたり、リーダー的な存在のたいちから叱責されたりする。親友だと思っていたのぼるとも話さなくなり、どんどんと孤独感を感じるようになる。そんな主人公の心の思いに寄り添い、共感しながら読み進めることができていた。自分自身の経験からできなかった時のつらさ、逆にできたときの喜びの大きさなど、実感として思いを表現している言葉に心が惹かれた。また、そうたに関わってくれた父の優しさや自分と同じようにとべないがあきらめず努力する田中くん、それを応援する姉の姿にふれ、努力を続けることの大切さに気づくそうたを応援する言葉も多く見受けられた。なわとびを握りしめ、無言でたいちに立ち向かう親友ののぼるの勇気にふれた時、のぼるとそうたの大きな友情に感動し、友だちの力の大きさを感じたことも伝わってきた。自分を支えてくれた人々の思いを受け、何度も何度もジャンプができるようになったそうたと一生懸命アドバイスしながらなわを回

すのぼる。そんなラストシーンから自分も負けないでがんばろうとする強い気持ちを表現することもできていた。

『じてんしゃのほねやすみ』

子ども達にとって、自転車との出会いは、今までの自分の世界が大きく広がることになる。初めて自転車を買ってもらった時、初めて自転車に乗れた時、その喜びに大きく胸が膨らむ。自転車は新しい経験をする時間をともに見守ってくれる自分のパートナーのようである。その自転車が実際に自分の意思をもち動き出す。そんな楽しい展開に親しみをもちながら読み進めることができていたようだ。けんいちとけんいちの家族にとって自転車も家族の一員。その家族の願いをみんなで応援し、共に頑張っていこうとする姿にこの家族のぬくもりを感じ取り、自分の家族と重ね合わせながら、誰かを支えようとする家族の素晴らしさと大切さを素直に表現することができていた。また、ひたむきに努力する自転車と共に少しずつ成長していくけんいちの姿に、自分もあきらめず何事にもチャレンジしていこうという思いを強くする表現も印象的であった。

全体として、登場人物の思いに寄り添いながら、自分の体験を重ね合わせ、感じたことを自分の言葉で素直に表現することができていた。一冊の本との出会いから、読書の楽しさを感じ取り、本の世界がその子その子の世界を広げていた。低学年の時期に良い本と出会うことは、心の中に自分の考えの土台を作り、知識を蓄え、感性を磨き、考える力を養ってくれる。これからはいろいろな本との出会いから自分を見つめ、思いや考えを広げて、心豊かな人に成長してほしいと願う。

自由読書の審査概評

河野 好

課題読書の審査概評

岡崎 明子

指定読書の審査概評

出井 桂治

小学校中学年の部

●自由読書

今年度の県審査対象作品は、三年生四十九編、四年生三十九編 計八十八編であった。

感想文に取り上げられた内容については、家族、友達、目標や夢、生き物、自然、命、環境問題、平和・戦争、など多岐にわたっていた。中学年が読み進めやすい内容の本から高学年向きの本まで幅広く読まれていて、中学年として読書に対する興味や関心の広がりを感じられた。

本との出会いについては、家族や先生の薦め、本の題名や表紙に心をひかれて、ニュースやテレビ番組の特集を見て興味をもった、疑問を解決したいなどであった。何かを考えるきっかけになる一冊に出会えた喜びが伝わってきた。

内容としては、登場人物と自分の性格や考え方、生活経験を比べて共感したり疑問に感じたりしたことを表現している作品や家族や友達との関わりについて見つめ直した作品などが見られた。読書を通して、自分を振り返り、気持ちの変化について具体的に自分の言葉で素直に表現されている心温まる作品が多かった。また、新たな目標や夢、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちをもつなど自分自身の成長につなげることができていた。また、言葉や心について深く考えている作品も目立った。

ノンフィクション類の作品も多くあった。戦争・平和を取り上げたものでは、戦争の悲惨さや平和の尊さはもちろんのこと、平和のために自分ができることは何か、戦争についてもっと知り後世に語り継いでいきたいという思いを綴った作品が多かった。生命や環境問題を取り上げたものでは、生態系が崩れていることや動物の命が失われることには人間の身勝手な行動や人間の生活が深く関わっていることを捉えて、生命の大切さや自分にできることを中学年なりに表現することができていた。自分が生きている環境や社会を見つめ、今後あるべき姿について中学年なりの自分の考えをもつことはとても意義深い。

文章表現においては、選書の理由、あらすじ、読後の感想というしっかりとした基本的な流れの構成が多かった。本との出会いの導入、心に残る言葉の引用など、感想文の読み手を作品の世界に引き込む表現も見られた。本を読んで、何を考えたのか、自分はどう変わったのか、自分の思いを言葉や文章にすることは容易ではない。また、一つの作品として形にすることも難しい。本を通じて心を動かされたり、自分を見つめ直したり、分からなかったことを解決できたりしたことなど、書こうとする感動の中心が明確である作品は、より書き手の感想が伝わり好感もてた。そして、難しい言葉でまとめようとするのではなく、自分自身の考えをしっかりと表現できている作品については、本人の思いが伝わり印象に残った。

読書感想文を書くことは、本に出会い、読書の楽しさを知るチャンスである。どの作品からも、読書を通しての心の成長を感じることができた。読書は人の心を豊かにする。これからも、本に親しみ、読書のすばらしさを体験しながら、感動を文章に表現することを続けてほしい。そして、

豊かな人間性や考える力を育てほしい。

●課題読書

今回の県審査対象作品は、三年生十五編、四年生二十九編、計四十四編であった。これを課題図書別に見ると次の通りである。

『くろねこのどん』	一編
『空にむかってともだち宣言』	十二編
『耳の聞こえないメジャーリーガーウィリアム・ホイ』	二十編
『干したから…』	十一編

作品全体として、自分の経験や生活と重ね合わせながら、素直な感動や感想を書いている作品が多かった。図書別にまとめると、次のようであった。

『くろねこのどん』

主人公が一人で留守番をしていると、いつの間にかやって来る、黒猫のどん。一匹で来たり、猫仲間を連れてを遊びに来たりと、自由なねこと女の子のおはなし。主人公は、季節ごとの猫との交流や遊びを通して、心優しく成長して行く。猫がしゃべったり、猫と雲に乗ったり、不思議な出来事もいろいろ起こるなど、ファンタジー要素あふれる物語となっている。

児童の感想では、「どん」と同じように、いつの間にか祖母の家にやって来る猫と比較したり、主人公と猫たちが仲よく遊んでいる場面を自分の兄弟の様子と重ね合わせたりしていた。自分の生活に振り返り、家族の大切さに気付いているように感じられた。

『空にむかってともだち宣言』

転校生がミャンマーからやって来た。主人公はすぐに打ち解けて仲良くなるが、クラスで起きたトラブルかをきっかけに、難民について学び、言葉やダンスを教えてもらいながら友情を深めていく。小学生にも、紛争や難民問題などが分かりやすく描かれている。

感想では、「難民」というキーワードが心にのこったというものが多く、民族や宗教による国際紛争について調べ、今の自分の生活がいかに安全で快適である事かを再認識し、平和を大切にしたいという考えが多かった。また、いじめや差別と結びつけて、相手に対する理解の必要性であり、外国の人とのふれあう機会を持ちたいとか、外国について学んで生きたいという前向きな姿勢が感じられた。

『耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ』

耳の聞こえないメジャーリーガーの活躍を描いた伝記。

夢をあきらめない気持ちが「ストライク」や「セーフ」のジェスチャーやサインプレーを生み、野球をもっと楽しかった。野球ファンの男の子はもちろん、野球を知らない女の子も楽しめる、読むと勇気と元気がわいてくる。

感想では、耳が聞こえないという障害にを乗り越える心の強さや、ひたむきに努力する姿を見習いたいというものが多かった。また、野球に関心がある児童が、審判のジェスチャーやサインプレーの始まりを知るきっかけになったという意見や、聴覚障害に関する理解を深めることができたという意見、自身が障害を持っているからこそ読んでみたいと本を手にとったという声もあった。

『干したから…』

しわしわになった干しトマトにカチカチなスルなど、普段食べられている干した食べ物。なぜ干すのか、干したらどうなるか。食卓のなかの身近な不思議を、写真で楽しく伝えてくれる。また、世界各地の干した食べ物が紹介され、それらを作る人、食べる人たちの様子から、「干す」という食文化を、わかりやすく楽しく見ることができる。

感想では、昔の人が自然の力を利用した知恵の素晴らしさに気付かされたという意見や、身近にはたくさんの干した食べ物がある事に驚いたという意見が多かった。梅干しや干し柿を作っている祖母や祖父への思いを述べたり、実際にいろいろな物を干して実験に取り組んで考えた児童もいた。

●指定読書

県審査対象作品は、三年生十九編、四年生二十一編、計四十編であった。これを図書別に見ると、次の通りである。

『三年一組春野先生！』	二十四編
『世界の三人きょうだい』	五編
『警察犬になったアンズ』	十一編

作品数には偏りが見られたが、どの図書も中学年の児童にとって読みやすく、興味を引く内容であったと思われる。

それぞれの指定図書について感想の傾向をまとめてみると次のようになる。

『三年一組春野先生！』

けがをした担任の先生に代わって三年一組にやってきた春野先生。自分がいいことをしたり、がんばったりした時、友だちのいいところを見つけた時にペットボトルに入れていく「よい子の石」、「自分が本当にやりたいことは絶対にあきらめちゃだめ」という言葉、先生がくり返し練習してひいてくれた「春の小川」、決まりを守らなかった六年

生と対決して先生がきめた「ミラクルシュート」・・・先生の前向きな言動から次第にがんばる心をとりもどしていく俊輔。

身近な学校生活が舞台となっていることもあって、三年一組の子どもたちに共感しながら読み進めている児童が多かった。今ががんばっていること、あきらめそうになったこと、その時の気持ちなど、自分自身の生活をふり返り、自分もあきらめずに努力を続け、夢をかなえたいという前向きな気持ちを素直に表現した作品が多かった。

『世界一の三人きょうだい』

マキシは小学三年生の女の子。パパとママが留守にする一週間、弟のレオンと一緒に大学生のトミーお兄ちゃんのアパートに泊まることになった。きょうだい三人だけの毎日ほだきどきの連続。でも三人で力を合わせて生活するうちに、今までできなかったことがどんどんできるようになってくる。

自分のきょうだいのことを重ねて読む中で、家庭での自分の役割やきょうだいのよさに目を向け、家族の温かさに触れている作品が見られた。

『警察犬になったアンズ』

もう少しで殺処分になりそうだったトイプードルのアンズ。そんなアンズを引き取って警察犬になるための訓練をしたのが警察犬指導士の鈴木さん。「小型犬には無理だろう。」という声にも負けず、訓練を続け、警察犬の試験に合格していくアンズ。鈴木さんとアンズのあきらめない心、人間と動物という関係を越えた温かい交流が描かれている。

ここでは、犬の虐待に焦点を当てている作品、アンズのがんばりに共感している作品、鈴木さんの粘り強さに思いをよせる作品などが見られ、様々な読み方がなされていた。

これからも本との出会いを大切に、読書の楽しさを味わってほしいと願っている。

自由読書の審査概評

川上 美紗

課題読書の審査概評

松野 哲也

指定読書の審査概評

難波 佳子

小学校高学年の部

●自由読書

今回、自由図書で審査の対象となった作品は八十四編であった。学年別にみると、五年生が三十四編、六年生が五十編であった。

読書感想文に取り上げられた内容は、戦争、環境、動物、

生命、友情、家族、スポーツ、夢など、幅広く多岐にわたっていた。図書の分類としては、物語やドキュメンタリーなど多様であったが、相対的にノンフィクションを読んだ作品が多く選出されていたことを指摘できる。これは、昨年度と同様の傾向であり、生命尊重や世界平和など、高学年らしく人類の普遍的な主題と向き合う作品が多かった。

表現の方法では、導入にそれぞれの個性が見受けられた。その本との出会いから書き始める作品を例にとっても、登場人物の言葉を引用したり、体言止めやオノマトペなどの修辞技法を活用したりと、読み手を引き込むような工夫が印象的であった。また、自分自身の学校生活や習い事、旅行といった生活場面を、読書経験と結びつけていくような構成をしている作品もあり、図書の内容と自分の感想のバランスを考えた論理展開は審査のポイントになったといえる。

審査を通じて特に印象的だったことは、図書と自分自身の生き方をつなげて考えた作品が数多く見受けられたことである。先述のとおり、生命尊重や世界平和など、人間としての生き方や社会のあり方といった普遍的な主題と向き合う作品が多かった。もし自分が主人公だったら。自分ができることは何かを考えると。自分の身の回りだけでなく、日本、世界、そして地球規模の広い視点から、あるいは、今この瞬間だけでなく、過去から学ぶ、遠い未来を見据えるものまでであった。子どもたちが人間としての生き方をまっすぐに考え、自分自身の生き方について、自分自身の言葉で素直に表現した作品は、読んでいるだけで私たちの未来に希望を見出すことができるものであった。

作品の内容、表現、ともに創意工夫がうかがえ、一人一人にとって望ましい読書経験につながっていることが期待されるのであるが、特に表現に関わる課題もある。それは、文章全体の構成を考えることである。出品された作品の多くは、その本を読もうと思った理由に始まり、次に内容の紹介があり、印象に残ったところと、それに対する自分の感想を述べるという構成になっている。読書感想文は、書くこと自体に「考えを深められる」という意味もあるが、それを読み返すことに「感動した自分に出会える」という意味もある。それを踏まえれば、どう書けば自分の心の動きにぴったりあてはまるか、そして、人によりよく伝えることができるか、という観点から全体の構成を整えることが肝要である。つまり、組み立て方の順番を入れ替えたり、「はじめ」と「おわり」で繰り返したり、あえて繰り返さずに一つの言葉、文を洗練したりすることなど、自分の読

書の感動が一番伝わるような表現を求めていくことが望ましい。

読書感想文を通じて、自分の生き方について考える子どもたちは、これから先の人生も、本と共によりよく生きていくことができると信じている。書架からその本を手を取ったとき、友達からすすめられたとき、一冊の本との出会いはケースバイケースである。本との出会いを大切に、読書は「人間が生きる上で大切な営み」であると思う人間であってほしいと願っている。

●課題読書

今回、課題図書部の県審査対象となった作品は四十九編で、学年別では五年生が二十編、六年生が二十九編であった。これを図書別に見ると、

『チキン!』 十八編

『ぼくたちのリアル』 十編

『霧の中の白い犬』 二編

『転んでも、大丈夫—ぼくが義足を作る理由—』

十九編

であった。作品の多かった図書は、同年代の主人公を中心とした友情や人間関係を描いていたり、スポーツ義足づくりの第一人者白井さんの著書であったりと、高学年の児童が関心を持ちやすい本であった。

四編の課題図書について、それぞれの感想をまとめると次のようになる。

『チキン!』

面倒なトラブルをできるだけ避けて過ごしてきた六年生の日色拓。ところが、言いたいことはなんでもはっきり言う真中凜が転校してきてから、拓の毎日はすっかり変わってしまう。少年を取り巻く登場人物の成長とともに、「正しさ」「価値観」についても考えさせられる物語である。作品の中には、拓や凜と自分を比べながら、感想を書いているものが多くあった。拓の気持ちに共感し、凜の強さに触れ、これからは、少しでも自分も言いにくいことを伝えていかなければならない、と拓少年の成長とともに、自分の考えの変化を書いていた。また、凜の心の変化にも共感し、勇気づけられ、自分の普段の生活を見つめ直す感想もあった。

『ぼくたちのリアル』

勉強も運動もでき、クラスみんなの人気者リアルと、リアルに憧れながら、彼と比べられるのが嫌な幼なじみの渡。転校生のサジ。この三人を中心に様々な経験や思いを

共有する中で、友情が深まっていく。人の心の複雑さやそれぞれの個性を認め合うことの大切さに加えて、人の死とどう向き合うかも考えさせられる物語だ。

強く見える人でも弱さや悩みがあることを本を通して知り、物事をいろいろな面から見ることの大切さに気が付いた感想や、人との出会いをこれからも大切にしたいという自分のこれからの生活や生き方へのヒントにした感想も見られた。

『霧の中の白い犬』

この本は、白い犬をきっかけとして、差別や戦争問題・家族の関係・友情・認知症の問題等、様々なテーマについて提起している。

物語では難しい問題がいくつも絡み合っている。作品では、この中の特に関心をもったテーマについて深く考えて書かれていた。おばあさんたちが、過去の戦争により、今でも心に深い傷を持っていることに触れ、戦争の怖さや平和の大切さを訴え、自分の将来について考えているものもあった。また、差別について深く考えた感想もあり、読む人により、いろいろなテーマについて考えることができる本だと感じた。

『転んでも大丈夫—ぼくが義足を作る理由—』

この本では、義手や義足を作る「技師装具士」の仕事や白井二美男さんの半生、パラリンピックで活躍する選手との深い関わりについて紹介されている。「新しい人生を前向きにふみだすきっかけ作りがしたい。」という白井さんの言葉や行動に心を打たれる。また、たとえ自分の足を失っても、義足で厳しいレースに挑戦するアスリートたちの努力と情熱に心を動かされる。

今まであまり知らなかった世界を知ることと、そこで情熱を傾ける人々に心を動かされ、今、そしてこれからの自分を見つめた感想が多かった。二千二十年の東京パラリンピックに向けても、障がい者スポーツへ関心をもつきっかけともなる本だった。

全体として、どの作品も登場人物や出来事に心を寄せて、自分の体験と比べて読むことができていた。また、本の主題を自分なりにとらえ、自分のこれからの考え方や生き方を見直すきっかけにしている作品もあり、本との出会いの大切さをあらためて感じた。

●指定読書

今回、指定読書の部の県審査対象となった作品は三十二編で、学年別では五年生十七編、六年生十五編であった。

これを図書別に見てみると、

『紅のトキの空』 二編

『「水辺の楽校」の所くん』 十六編

『未来のクルマができるまで』 十四編

であり、作品数には偏りが見られた。作品が多かった図書は、児童の身近にあり、自分に置き換えて捉えやすいことや高学年の児童が興味深く読み進められる内容であったと思われる。三冊の指定図書について感想をまとめると、次のようになる。

『紅のトキの空』

母と弟と三人家族の十二歳のスカーレットは、病気の母を支え、弟の面倒をみるけなげな少女。住んでいる家が火事になり、家族が離ればなれになってしまう。そんなスカーレットと自分の生活を比べながら、自分はとても恵まれていることに気づき、家族に対して感謝の心が必要だと感じると共に、家族とは何だろうと深く家族を見つめるきっかけになった。また、スカーレットに対して、つらい境遇の中でよく頑張ったと寄り添う気持ちが素直に表現されていた。

『「水辺の楽校」の所くん』

大きな体の所くんは、算数が苦手でいつも居眠りをしている。運動会で青組が負けたのも所くんのせいになる。いじられキャラの所くん。ある日、新也は所くんに「水辺の楽校」に誘われて、自然を楽しみ、自然を大切にすることを育んでいく。所くんには誰にも負けない得意なことがあり、新也はその魅力に引き込まれていく。自分と同じくらいの男子の話なので、登場人物の気持ちに共感しながら読み進めていった作品が多くあった。所くんの居場所である「水辺の楽校」での生き生きとした様子から、自分の居場所が見つければ立ち直ることができると感じて書いた児童もいた。自分は意識していなかったが、知らないことで自然を壊していたかもしれないと自分の行動を振り返り、自然を守るために自分にできることから行動に移したいという姿勢に好感がもてた。

『未来のクルマができるまで』

世界初の燃料電池自動車ができるまでを綴ったドキュメント小説。燃料電池自動車の問題を担当するたくさんの人たちが悩んだり、迷ったり、ぶつかり合ったりしながら解決していく。その挑戦ぶりは、児童の心をつかみ、次はどのようなのだろうと先を読み進めたい衝動にかられる様子が作品から伝わってきた。児童は、今までにないゼロからつくることの大変さが想像を超えていたことに驚き、信念を

もって仲間を信じて頑張り、夢を実現した喜びを共に味わっていた。自分の体験と重ね合わせ、仲間と協力してやり遂げて、達成感を得られたことに共感したという感想もった児童もいた。これから、新しい目標に粘り強く挑戦していきたいと決意を新たにしたり、将来、研究の道に進み、人に喜ばれるような存在になりたいと夢を語ったりした感想が多く見られた。

本は、自分にはできないようなことが迫体験でき、登場人物の生き方や考え方にふれて自分の考えを広げたり、深めたりすることができる素敵な宝物。今後も様々なジャンルの本を読み、心を耕してほしい。

自由読書の審査概評

曾川 雄一

課題読書の審査概評

山崎真理子

指定読書の審査概評

波多野みゆき

中学校の部

●自由読書

本年度、県審査に出品された作品は九十五編であった。その内訳は、一年生十七編、二年生三十一編、三年生四十七編。男女別では、男子十二編、女子八十三編であった。

自由図書では、様々なテーマの作品がそろった。それぞれが本との出会いの中で、自分自身と向き合ったり、家族や社会、人権、平和などについて考え、思いを巡らしたりすることができていた。将来の夢であったり、部活動のことであったりと、中学生だからこそその悩みを書いていた。悩みの多い時期での本との出会いは、彼らに大きな自信と豊かな考え方を与えてくれている。

最優秀の小野媛乃さんの「『こころの耳 伝えたい。だからあきらめない。』を読んで」は、とても高い文章能力で読む人を引き付ける。昔は聾者のことを考えた社会的な態勢が整っておらず、聾者が健常者に合わすべきだという考え方だったようだ。小野さんの言うように、「相手のことを理解しようとする気持ち」を持つことの大切さを考えさせられた。相手のことを理解しようとしないうり、心を開くことはできない。互いを分かろうとすることで、初めて心が通い、人との関係ができてくるのだと思う。そんなことを改めて気づかせてくれた作品である。

吉川優望さんの「私の中のきよしこへー『きよしこ』を読んで」では、本の内容に自分自身の経験を重ねながら書くことができていた。吉川さんと同じように「自分の気

持ちを相手に伝えることが苦手」と思っている人は少なくないだろう。『きよしこ』との出会いが吉川さんに勇気と自信を与えてくれたに違いない。

川島孝太さんの「『凡々たる非凡 松下幸之助とは何か』を読んで」は、部活動で部長を務めている川島さんにとって学びたいと思えることが多くあったようだ。松下幸之助はパナソニックを一代で築いた人で、社員に対し感謝、思いやりの気持ちを持ち、何事も真面目に誠実に取り組む人であったことは有名な話だ。尊敬できる人物に関するものをぜひこれからも読んでほしい。

恒川香花さんの「『あん』を読んで」は、この本からハンセン病について考え、さらに実際に長島愛生園を訪れている。本を読むだけでなく、自分の目で見ることで、かつてあった悲しい現実だけでなく、希望も見つけることができた力強い文章であった。

稲田知陽さんの「『八月の光』を忘れない」では、広島平和学習や核兵器禁止条約などと結びつけながら作品を読んでいた。今世界情勢が緊迫している中で、戦争の悲惨さを日本だけでなく世界に発信していくことが、世界で唯一の被爆国である日本の役目であると実感させられた。自分が実際に見聞きしたことを盛り込んだ説得力のある文章だ。

文章の表現については、作者の意見をうまく引用して、自分の生活や経験したことをふまえながら考えを素直に書くことができていた。よりよい作品にしていけるため、指定されている文字数をうまく使いながら、終わりが急ぎ足にならないよう、しっかり推敲して欲しい。

彼ら彼女らのように、自分にとってかけがえのない一冊ができることは大変すばらしいことである。本の出会い方として、気に入った著者に関係のあるものを選んだら、その本がまた自分に新たな学びを与えてくれる本になった、という人もいた。本との出会いが、また新たな本との出会いに繋がっていることがなんとも喜ばしい。本との出会いは、受賞者の言葉を借りれば、「知らなかった」、「知ろうとしなかった」ことを「知る」ことでもある。自分自身の考えを豊かにしてくれる。自信や勇気も与えてくれる。そんな自分の心の助けとなる本が増えていくことを期待している。

●課題読書

今年度の課題図書は、『円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦』『ホイッパーウィル川の伝説』『月はぼくらの宇宙港』の三作品である。県の審査対象となっ

た感想文は全部で四十四編であった。出品数の内訳は、『円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦』が二十四編、『ホイッパーウィル川の伝説』が十四編、『月はぼくらの宇宙港』が六編であった。また、学年別では、一年生が十三編、二年生が十二編、三年生が十九編であった。

『円周率の謎を追う 江戸の天才数学者・関孝和の挑戦』は、今から三百年前の江戸の数学者関孝和が、様々な苦難を乗り越えながら、西洋より二百年も早く円周率の正確な計算方法を発見し、後に「算聖」と呼ばれるまでになる生涯が描かれている。

感想文では出品数の半数以上を占め、「御用」と「数学」の狭間でどちらに力を注ぎ込めばよいのか迷う孝和の姿に、勉強や部活動・習い事など自分の身の回りの生活を重ね合わせ、その上で可能性を信じ全力で取り組んでいこうとする前向きな意見が多かった。また、自由な発想が道を切り開くことや、違う分野の学びも将来必ず自分の専門分野に結びつき糧となること、学びを導き支えてくれる師や仲間など、人とのつながりの大切さについて考えたものも多かった。

『ホイッパーウィル川の伝説』は、父親から行くことを禁じられていた「奈落の淵」に、姉シルヴィはなぜ行って亡くなってしまったのか、ケネンと呼ばれる不思議な力によってキツネのセナとつながり妹ジュールズを導くことで、妹や周りの人に「切なる願い」を伝えるという、悲しくも心温まるファンタジーを帯びた作品である。

感想文では、亡くなった身近な人を思い出し後悔や伝えたかった思いを考えたり、今、自分を取り巻く人への思いを見つめ直したりする意見が多かった。また、自分にとっての「切なる願い」とは何かを考え、大切な人を愛し守っていく決意を述べているものもあった。ただ、全体としてはあら筋に感想を交えたものであったり、言いたいことを絞り切れず観念的な捉え方が多かったりと、何をどう表現するのか難しい面も感じられた。

『月はぼくらの宇宙港』は、月という惑星と人類との関わりや、宇宙開発における月探査の重要性、最新のデータに基づいた月の特徴や地球との関わりなどが語られている。

感想としては、宇宙開発や月と地球の関わり、月の最新情報に素直に驚き、興味を感じたり、宇宙へのあこがれを述べたりしているものが多かった。また、探究心の大切さや経験の蓄積が可能性を広げること、鋭い観察力が生活をより魅力的なものにすることなど、身近な生活の中で生かそうとする姿勢も見られた。

三作品とも、場面の中から自分の体験やこれまでの考え方を振り返り、比較したり別の見方に気づいたりすることで、自身の考えを深めていこうとする気持ちが感じられる感想が多かった。これからさらに、自分の表現したいことを的確に絞り、それが伝わるよう、構成を工夫し、表現を磨き、自分の気持ちが伝わる文章を書いていくことを期待したい。

●指定読書

今年度の指定図書は『夜間中学へようこそ』『フィリピン・ミンダナオ子ども図書館 手をつなごうよ 日本にいちばん近いイスラム紛争地域での活動』『モンスーンの贈りもの』の三冊である。県の審査対象になった作品は四十五編で、出品数の内訳は『夜間中学へようこそ』二十六編、『フィリピン・ミンダナオ子ども図書館 手をつなごうよ 日本にいちばん近いイスラム紛争地域での活動』十三編、『モンスーンの贈りもの』六編であった。学年別では、一年生が十六編、二年生が九編、三年生が二十編であった。『夜間中学へようこそ』

この作品は、「わたしも四月から学校だから」と、ある日突然、主人公優菜の祖母が宣言するところから始まる。しかも、祖母が通おうとしているのは夜間中学校。中学一年生の優菜は、あることをきっかけに祖母の付き添いとして、祖母と共に夜間中学校へ通うことになり、様々な経験をしていくという話である。主人公が中学生であったこともあるからか、応募作品の大半を占めた。

感想文の内容としては、自分は何のために勉強をするのかを改めて考えたり、学校が何のためにあるのかを考えたりしたものだった。特別賞受賞作品においては、自分と違う人たちが、世界にはたくさんいるのだと知るためではないかということに、気付いていく自分自身を表現していた。「空の入れ物に中身を入れる」という表現が光った。

『フィリピン・ミンダナオ子ども図書館 手をつなごうよ 日本にいちばん近いイスラム紛争地域での活動』

この作品には、イスラム紛争地域のミンダナオで十五年間、子ども達のために様々な活動をしてきた作者の思いが綴られている。

ミンダナオ子ども図書館で過ごす子ども達にとっては、「学ぶ」チャンスはあたりまえに用意されているものではない。そのことから、あたりまえのように学校に通い学んでいる自分を振り返る内容の感想文が多くあった。受賞作品は、ミンダナオの子ども達の言葉に、未来を創り出すヒ

ントを見出したものであった。

『モンスーンの贈りもの』

この作品は、勉強もスポーツも得意な十五歳の女の子が主人公である。高校一年生のジャズは自分の体格に劣等感を抱いていた。また、思いを寄せるスティーブと立ち上げたビジネスでの失敗から心を閉じている。そのジャズが心を開いていく物語である。

自分に自信を持ってない主人公が、出会いを通して成長していく様子は、中学生にとって自分自身と重ね合わせて読んでいきやすいようでもあるが、応募作品としてはあまり選ばれてはいなかった。その中であって、受賞作品は、殻の中に閉じこもっているジャズの状況を、わかりやすく描写していた。人の役に立てる大人になりたいという思いを抱き、今できる小さなことを積み重ねて、少しずつ成長していきたいという素直な思いも、ジャズの生き方に共感して、自然にわき出た思いなのであろう。

どの感想文においても、自分の置かれている状況と重ね合わせ、自分自身を振り返っての思いがしっかり書かれていた。読み手を惹きつける表現力や語彙力を感じさせるものが多かった。

高等学校の部

●自由読書

自由読書の部は、課題図書以外の作品を読んだ感想文すべてを扱う。そのジャンルは、小説や詩、短歌・俳句、評論文やノンフィクションなどあらゆる分野にわたる。自由読書の部には、県審査へ四十五校から二百七十五編の応募があった。応募数は昨年とほぼ同数で学校数はやや増加した。各校とも日々の授業や行事などで忙しいであろうが、読書指導の一環としてぜひとも読書感想文に取り組んでもらいたい。

今年も生徒は多種多様な作品を読んで、感想文を応募してくれた。今年目についたのは、昨年に続いて話題となった『君の膵臓をたべたい』の感想文がたくさんあったことだ。また例年通り、重松清氏の作品も多く取り上げられていた。ともに学生にとって共感しやすい作品だからであろう。一方、戦争を取り上げた作品は年々減少しており、ヒット作『永遠の0』の感想文いくつかと『夜と霧』『出口のない海』『検証沖縄集団自決』がかろうじて見られた。戦争が遠くなっていくのと同様、東日本大震災も風化しつつある中、『16歳の語り部』という小学生の時に被災した

生徒が、高校生になって自らの体験を語る本を読んだ感想文が二作ほどあったことは、喜ばしく思った。

昨年書いたが、ノンフィクションジャンル、特に新書本を対象とした感想文が少なく、多くの感想文が小説を読んだものであった。読書感想文が小論文対策になってしまうことは避けたいが、高校生の若い知性が現代社会の問題や自然科学の世界に真正面から立ち向かう感想文を読みたいと思う。

ここ何年もこの審査概評に書いていることだが、今一度書いておく。

○規定の文字数を十分に生かし、自分の思いを表現しているか

全国の審査規定にこの項目があるので、やはり二千字をできるだけいっぱい使ってもらいたい。四～五行少ないというだけで、どれほど内容が良くても、優秀候補にさえ選ばれない。四枚目まで読んでその出来栄えに感心していたのに、最後の数行で低い点数をつけなければならないことは残念でならない。ぜひ各校で、ご指導をお願いしたい。

本年度の最優秀に選ばれたのは岡田朋夏さんの「痛みを抱えて～『骨を彩る』を読んで～」である。誰もが持っている自分と他人の当たり前が違うことの苦しみを真正面から考え、その「私」の痛みを抱えることが他者とつながることになるとの結論に導いている。生きていく苦しみにしっかりと寄り添った重みのある感想文をしっかりとまとめしており、高く評価された。

優秀作品の森文音さんの「凜然～『山椒魚』を読んで～」は、山椒魚と蛙の内面にまで踏み込んで作品を解釈しようとしており、文章力も高かった。武原菜々花さんの「『家と庭』を読んで」は、登場人物それぞれの悩みと決断を見つめ、それを自分自身の進路決定へと結びつけていくという構成がたいへん優れていた。有村海さんの「笑うべきもの」は、古典的な作品を整形手術やインターネットなど現代の観点から捉え直し、笑う・笑われることをきちんと考察できていた。平川真衣さんの「親子になる」は、SF作品ではあるが、優生学や児童虐待、家族の問題にきちんと向き合い、読み進むにつれ自身の考えが変化していく過程も読み取れる感想文になっている。藤田英里さんの「臍臓のような存在～『君の臍臓をたべたい』を読んで～」は、健康な人と余命宣告をされた人との時間の価値や人との出会いという作品の主題となる点をきちんと論じ、文章も巧みであった。守安美乃さんの「『生き方上手』が教えてくれたこと」は、先日亡くなった日野原医師の思いとその生

涯を祖母の死や部活動、勉強など、自らに引き付けて考えられている点が優れていた。小原采莉さんの「『見えないから見えたもの』を読んで」は、強い心を持った前向きな竹内氏の講演と本から受けた感動を素直に表現するとともに、障がい者に対する気づきができていない点が素晴らしい点であった。

来年も高校時代に出会うべき本と出会って、素晴らしい感想文が多数応募されることを祈っている。

●課題読書

最近一年以内に発行された新しい本から、SLAが選んだ三作品の課題図書を読んで書くもので、自由読書とは別に審査される。今年は三十二校から八十二編の応募があった。（昨年は二十六校から八十二編の応募であった。）

応募作品の内訳は、『フラダン』が二十五編、『ストロベリーライフ』が二十七編、『犬が来る病院 命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと』が三十編であった。昨年、一昨年は書籍毎の応募数に偏りがあったが、今年については概ね同数である。三冊の課題図書がそれぞれに高校生の興味を惹くものであったためであろう。

本年の最優秀作品に輝いたのは、『ストロベリーライフ』を読んだ秋山恵里さんの作品である。主人公恵介の行動を的確に解釈しながら、自分自身は日々の生活において最初の一步を踏み出すことができていなかったと振り返る。苦勞することなしにやりがいを得ることはできないという気づきには健全な価値観が表れていた。昨年も課題読書で優秀賞を受賞しただけあって、巧みな文章表現とユーモア、練られた構成によって読み応えのある作品に仕上がっている。

優秀賞四編のうち二編は同じく『ストロベリーライフ』を読んだものである。堀内樹己さんの作品は、恵介と自分の考え方の違いを軸に書かれている点に独自性が見られた。一方で、周囲の人と繋がることでさまざまなものを手に入れていく恵介の姿と、努力してコミュニケーション能力を身につけた自身の過去を重ねながら、頑張り次第で不可能なことなどないのだと結んでいる。前向きで力強い主張の込められた作品であった。

講元幸祈さんの作品では、恵介の言葉をきっかけに日本の農業の在り方について分析、考察がなされている。自分を含めた大多数の人間が農業は重要だと口では言いながら、他人任せにしている現実に鋭く言及し、みんなで少しずつできることを担えばよいと提案するところが面白い。高校

生らしい視点で、建設的な意見が述べられていた。

優秀賞の残り二編はいずれも『犬が来る病院』を読んだものであった。井上優奈さんの作品からは、人間の誕生と死が周囲の人に認められることによって成立するという事象を見出していることがわかる。本当の幸せは、健康かそうでないかにかかわらず、他者との温かな絆から生まれるのだという結論には説得力があった。一冊の本と出会ったことによる成長が伝わる作品である。

藤原寧々さんの作品には、白血病を患い闘病以外に選択肢がなかったちいちゃんと、複数の選択肢の中から一番楽な「逃げ道」を選びがちな自分との比較が綴られていた。ちいちゃんの強さに触れ、自身を顧みた結果、何事にも正面から向き合うことの大切さを学び取っている。いかに生きるかという命題を真摯に捉えた作品であった。

以上、最優秀賞、優秀賞を受賞した五人の書き手は、いずれも一冊の本を通して己を見つめ、そこから得られた発見や内面の成長を自身の言葉で記している。課題読書では三冊の中から書籍を選ぶため、感想もどうしても似通ったものになりがちである。なぜその一冊を選んだのか。どこに惹かれ、どのような点に感銘を受けたのか。読みながら何を考えたのか。内容の中心に自分を据え、一読するだけで書き手の人物像が浮かび上がってくるような独創性のある感想文を書くように心掛けてほしい。

自由読書の審査概評

倉敷市立倉敷翔南高等学校教諭 若狭 真司

課題読書の審査概評

金光学園高等学校教諭 岡田 伸彦

第29回読書感想画岡山県コンクール

I 日程

- 6月22日(木) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議席上
- 12月20日(水) 応募締め切り 小・中学校(必着)
- 1月9日(火) 応募締め切り 高等学校(必着)
- 応募先・事務局 *小学校…岡山市立三勲小学校
清廣 玲子
*中学校…岡山市立石井中学校
川阪 理智
*高校…岡山県立総社高等学校
志手 裕幸
- 1月11日(木) 小学校の部審査(岡山市立三勲小学校)
中学校の部審査(岡山市立石井中学校)
- 1月12日(金) 高等学校の部審査(岡山県立総社高等学校)

II 県審査員

- 県SLA会長 福田 邦男 岡山県立倉敷古城池高等学校校長
- 副会長 高田 恵子 岡山市立馬屋下小学校長
- 〃 門田 正充 岡山市立岡輝中学校長
- 審査委員 田中 満史 岡山市立馬屋下小学校
- 〃 難波 学 岡山市立甲浦小学校
- 〃 木下 舞 岡山市立千種小学校
- 〃 田村 敬子 岡山市立豊小学校
- 〃 山下 真季 岡山市立大野小学校
- 〃 平坂多恵子 岡大教育学部附属小学校
- 〃 大倉 佳子 岡山市立東疇小学校
- 〃 難波 伊津美 岡山市立福島小学校
- 〃 上岡 弘明 岡山市立庄内小学校
- 〃 稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校
- 〃 岩井 佑樹 岡山市立操山中学校
- 〃 三宅 綾子 倉敷市立福田南中学校
- 〃 川井 益美 倉敷市立多津美中学校
- 〃 眞賀 芳郎 岡山市立瀬戸中学校
- 〃 川阪 理智 岡山市立石井中学校
- 〃 井口 敬 倉敷市立庄中学校
- 〃 藤井 弓子 倉敷市立北中学校
- 〃 澁谷 奈津子 岡山市立高松中学校
- 〃 河本 昭政 岡山県立岡山朝日高等学校
- 〃 高取 亨一 岡山県立瀬戸高等学校
- 〃 佐々木 優 岡山県立高梁城南高等学校
- 〃 小野 恭子 岡山県立倉敷天城高等学校

III 結果

1) 応募作品数・応募学校数

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	1,461点/28校	901点/28校	821点/26校
中学校	92点/13校	101点/10校	93点/17校
高等学校	108点/7校	33点/8校	30点/8校
計	1,143点/49校	1,035点/41校	944点/51校

2) 最優秀賞受賞者

小学校低学年の部・自由

- 岡山市立南輝小学校 1年 増田 絢心
岡山市立南輝小学校 2年 松浦 あむ

小学校低学年の部・指定

- 岡山市立南輝小学校 1年 友杉 駿希
岡山市立南輝小学校 3年 小林 一葉

小学校高学年の部・自由

- 倉敷市立連島西浦小学校 4年 沖 メイ子
岡山市立福田小学校 4年 石岡 春佳

小学校高学年の部・指定

- 岡山万南輝小学校 6年 田窪 亜美
岡山万福田小学校 4年 浅野 菜採

中学校の部・自由

- 倉敷市立北中学校 2年 片岡 愛心
岡山市立石井中学校 3年 山本 麻里愛

中学校の部・指定

- 倉敷市立庄中学校 2年 碓井 麻木
倉敷市立北中学校 3年 野上 真希

高等学校の部・自由

- 岡山県立倉敷南高等学校 1年 高佐 遥香
岡山県立総社南高等学校 1年 久一 倫子

高等学校の部・指定

- 岡山県立高梁城南高等学校 3年 岡本 咲奈
岡山県立岡山朝日高等学校 2年 増田 百香

3) 第29回読書感想画中央コンクール入賞者

該当なし

IV 審査の結果

【小学校の部】

岡山市立三勲小学校 清廣 玲子

○ 審査事務の流れ

第29回読書感想画岡山県コンクールへの応募校は26校と前年度より3校増え、応募作品総数は少し減って821点であった。そのうち、応募要項にもとづいて各校の校内審査を経た作品80点が県コンクールに出品された。

審査会は、1月11日（木）に岡山市立三勲小学校で行った。図画工作・国語等に造詣の深い9名の先生方にお集まりいただき、厳正かつ慎重に審査をしていただいた。3学期はじめのご多用の中、快くご協力くださった審査員の先生方に心より感謝申し上げる。

○ 審査概評・今後の課題等

- ・今年度、応募が少なくなっているのではないかと心配していたが、応募校が増えていることに安心した。今後も本コンクールに取り組む学校が増えていくことを望んでいる。
- ・学校によって応募作品数が大きく違っており、1点の学校もあれば、学校をあげて取り組んでいる学校もあった。多くの子どもたちが取り組んでいても、各学校から審査会に出品できる数には限りがある。そのことが少し残念な気がした。
- ・工夫しながら作品を仕上げていくことも楽しい活動だと思うが、審査に当たっては、それだけでなく、読んだ本に対する思いが反映されているかどうかを大切に見るようにした。
- ・審査の基準で「自分の力量で描いているかどうか」という項目について判断するのが難しかったが、審査員で発達段階などを考慮しながら丁寧に審査していった。
- ・作品と本の挿絵を見比べながら審査をしていった。挿絵に似ているものもあり、挿絵を参考にしているかどうかをどこまで見取ればよいのかという点が難しく感じた。しかし、挿絵から自分の思いを膨らませている作品も多く、楽しく審査をすることができた。
- ・毎年、子どもたちの想像力、表現力に感動している。今回は特に、本を読んで共感した内容を表現したり、「自分だったら…」と思いながら描いている子どもが多いように感じた。低学年では、作品の中に自分を登場させているものもあり、楽しく取り組んでいることがよく分かった。高学年では、構図や色づかいを工夫した見ごたえのある作品が多かった。
- ・学年全体で指導する場合には、構図や色づかいなどを工夫しやすい定番の本を選ぶこともあるのではない

かと思う。その場合も、一人一人の思いを大切にしたい指導を行わなくてはならないと感じた。

・パスや絵の具、貼り絵など、子どもの実態や思いに合わせて様々な画材や技法を用いて表現されている作品が多くあった。技能的にはやや拙い印象を受ける作品もあったが、子どもたちが感じた、お話の魅力やお話を読んで想像したことなどがしっかりと表現されていると感じる作品が多くあった。

・絵を描くのが得意でなくても、一人一人の思いに合わせて作品づくりを経験していくことが、子どもたちのこれからの制作への意欲につながっていくのだと感じた。

・自分で自由に想像したり、何度も味わったりすることに加えて、それを他の人に伝えることもまた読書の楽しさの一つである。自分の感じたことがその本を読んでいない人にもよく伝わるように、構図や色づかい、表現技法を工夫する中で、子どもたちは感性を豊かにし、自分の「読み」と再度向き合っていく。授業で取り組む際には、「読んだことのない人が読みたくなるような作品にしよう。」と呼びかけるなど、相手を意識させることも指導していくとよいのではないかと感じた。

・作品の題名や「作画感想」にも子どもたちの思いが感じられた。審査会では授業と違って、制作途中の子どもたちの様子を見たり、作品についてやりとりをしたりすることはできないが、題名や「作画感想」を読むと、子どもの姿が浮かんできて、作品を深く見ながら審査することができた。「作画感想」には、本の内容についての感想だけでなく絵画に表現する際の思いが含まれているものがあり、審査する際の参考になった。

・応募校は増えたが、応募点数が減ったことが気になる場所である。夏休みの自由課題にしてもなかなか取り組む子どもが増えていかないのが現状であろう。夏休みは、指定図書や好きな本を読んで、時間を気にしないで制作できる絶好の機会である。司書の先生とも連携して、読み聞かせやお便りによる本の紹介やコンクールの紹介など、子どもたちが進んで取り組むことができるような手立てを工夫していく必要があると考える。

・読書感想画に取り組むことにより、伝え合う力、想像力、表現力、読書に親しむ態度など今後一層求められる様々な能力や態度の育成が期待できる。各地区の学校図書館協議会や小教研図書館部会・司書部会などの集まりでこのコンクールの趣旨やよさを一層啓発し、各学校で積極的に取り組み、本コンクールが一層、発展・充実していくことを期待している。

【中学校の部】

岡山市立石井中学校 川阪 理智

○ 審査事務の流れ

募集要項に基づき、各校で応募作品を募り、校内審査を経た作品が、コンクールに出品されました。

本年度は応募締め切りが例年より早まり、2学期末の締め切りとなりましたが、参加校17校に増え、全応募作品数93点、県コンクールへは70点の作品が応募されました。

審査会は1月11日（木）午後2時から、岡山市立石井中学校図書館にて行いました。県内の国語科・美術科担当の9名の先生方に審査をお願いし、厳正な審査の結果、最優秀作品4点を中央コンクールへ出品しました。審査を担当して下さった先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

○審査概評・作品について

- ・画力は昨年度と変わらず描き込まれているが、独創性に物足りなさを感じた。発想力の高い作品が欲しいと思った。
- ・読書後作品にしていくため、画力だけでは難しい所もあるが、時間をかけて描き込まれている作品が素晴らしい。乱雑に描かれている作品との差が激しい。
- ・今年指定図書の作品数が少なく、描き込まれた作品も少なくなってきた気がする。また、自由図書ではイラスト風の作品が多く、独創性が少ないように感じた。
- ・指定図書の発表時期が遅いためか、作品の出品点数が少なく残念である。写真のプリントアウトやコラージュの作品が増えたのも印象的である。どこまで許容されるものか、審査基準に明記されることが望ましい。
- ・表現したい主題にそって、色調や構成が考えられ、よく描き込まれていた。四つ切り八つ切りに関わらず、よく描き込まれていた作品が多かった。
- ・やや暗めの作風のものも多く、時代の変化を感じた。それに反して、審査員は明るく中学生らしい作品に心動かされる傾向があり、審査員と生徒とのギャップをどう埋めていくかも課題である。
- ・選ばれた作品は、本の内容を読み込み、自分なりの解釈を絵の中に表現することができている。また、自分のイメージに近づけるために、画材の特性を生かしたり描画技法を使用したりして、密度の高い作品になっていた。
- ・指定図書の作品が少ないのが残念である、指定図書の発表がもっと早ければ、と思う。感想文についても、原稿用紙の使い方について、気になるものがあった。
- ・自由図書について、生徒の皆さんの読書傾向の偏りが顕著になっているのを感じる。感性を育む大切な時期であり、広く他分野に渡る読書や、普遍的な価値のある良書に手を伸ばすことも心がけてもらいたい。

◇ 作品総数は昨年度に比べて、30点ほど少なくなりましたが、県コンクールへの応募数は10点近く増えました。また、参加校は7校増加しております。参加作品が1点のみであっても参加して下さる学校がいくつかあり、今後そういった学校より、作品数が増えていくことを期待しております。

また、今年度は応募締め切りが2学期末となりました。そのためか、指定図書の応募数が10点を切ってしまったのが残念です。一方で応募用紙の不備等はほぼ無くなりました。また、昨年度は県コンクールに応募が間に合わず涙を飲んだ学校があったのですが、本年度は県コンクールに間に合わなかった学校はなく、全ての作品を審査できたことは良かったことでした。

今年度もコンクールに応募・参加して下さった多くの学校の先生方に御礼申し上げます。来年度も、さらに多くの学校や生徒の皆様が、このコンクールに取り組んでいただけるよう、ご協力よろしく願いいたします。

【高等学校の部】

岡山県立総社高等学校 志手 裕幸

○審査事務の流れ

読書感想画岡山県コンクールは、2004年度から小学校・中学校・高等学校の部に分かれて事務局を置き、県SLA事務局と連携して審査事務を行っている。

本年度は支部事務局長会議で岡山県コンクールの募集要項を配布し、支部内の各校への要項配布と説明を支部事務局に依頼した。9月末には中央コンクールの募集要項が配布され、指定図書が発表された。『駅鈴（はゆまのすず）』（久保田香里・作、坂本ヒメミ・画）、『スピニー通りの秘密の絵』（L・M・フィッツジェラルド・著）、『青い目の人形物語 2：希望の人形 日本編』（シャーリー・パレント・作、河野万里子・訳）、『スマイル！：笑顔と出会った自転車地球一周』（小口良平・著）、『人はなぜ星を見上げるのか：星と人をつなぐ仕事』（高橋真理子・著）の5冊が今年度の中学校・高等学校の部の指定図書であった。

1月9日（火）に締め切られた県コンクールへの応募数は以下の通りである。

県コンクール応募総数

応募校数	自由読書	指定読書	作品合計
8校	24点	2点	26点

岡山県コンクール審査会は、1月12日（金）岡山県立総社高等学校の図書室で行われた。国語・美術の担当教諭で、特に学校図書館に造詣の深い4名（備前支部2名、備中支部2名）に審査をお願いした。

事務局から応募点数・審査基準などの説明・確認をし

た後、指定読書・自由読書の順に審査を行った。応募作品の対象図書を手に用意し、作品と参照しながら対象図書の表紙や挿絵の引き写しなどが無いかなど、対象図書が「募集要項」に適合しているかなどを確認した。自由読書の応募作品については、インターネットで手に入る画像を可能な限り入手して厳正かつ慎重に審査を行った。

その結果、自由読書2点、指定読書2点、計4点の最優秀作品を決定し、中央コンクールに出品することができた。

入賞作品数

	自由読書	指定読書
最優秀	2点	2点
優 秀	0点	2点
入 選	11点	0点

○審査概評・今後の課題

審査の先生方から以下の講評をいただいた。

- ・応募数は減少しているが、上位者の作品レベルは例年通りと感じた
- ・様々な材料（水彩・色鉛筆等の画材）を使用しており、バラエティに富んでいる
- ・サイズの大きい作品が入賞する傾向があるが、今回は小さいサイズでも力がある作品もあった
- ・絵を描くには動機が必要である。これからも読書で感動する、という体験をしてほしい。感動の度合いで絵の迫力も変わってくると思う。
- ・応募数減少については、校内でのさらなる呼びかけが必要だと思う
- ・応募数減少が非常に残念。参加学校数も減っているので、さらなる呼びかけを。
- ・応募の時期が厳しい。他のコンクールや大学入試との兼ね合い、校内選考の時間など、難しい。
- ・一人ずつでも各校から出品があれば、生徒を褒めてやる機会になってよいのだが…。
- ・「一場面」を取り上げたものより、本・物語に持ったイメージを自分なりに表現するものが入賞している。この点も各学校に案内すれば、生徒も取り組みやすいのでは。
- ・指定図書作品が少ない。応募すれば入賞のチャンスがある。
- ・男子の応募が少ない。呼びかけを！
- ・県南の学校の応募が多い。県北の学校にも応募してほしい。
- ・言葉で説明できるものではなく、感情を表現することが求められている。



指定最優秀『スマイル』



指定最優秀『救済』



自由最優秀『時間』



自由最優秀『時』

絵 本 研 究 部 会

1. 平成 29 年度の活動状況

本年度は 22 年度から続けている「心をつなぐ絵本」というテーマで特に「昔話絵本」を中心に研究を進めました。

研究部会では新刊絵本を中心に幼稚園から高等学校までの実践報告を持ち寄り、報告し合いました。

また、1 つのお話に対する昔話絵本の読み比べを行い、昔話の魅力について考え、話し合いました。

紹介文研究も引き続き進めており、毎年発行している「読み聞かせたい絵本」は No34 を発行・配布しました。

2. 研究部会絵本研究部会設置要綱

(1) 設置について

岡山県学校図書館協議会規約第 4 条 2 項により、絵本研究部会を設置する。

(2) 目 的

この部会は、絵本の指導のあり方を研究し、児童・生徒・父母の読書活動を促進する。

(3) 活 動

①毎月に関く部会で、研究する内容

- ア. 絵本の見せ方・選び方
- イ. 絵本の読ませ方・読み聞かせのあり方
- ウ. 絵本作りのあり方
- エ. その他 絵本研究のための必要な活動

②研究成果の発表

- ア. 各郡市地区事務局を通じての内容紹介
- イ. 研究収録への収録
- ウ. 研究大会での発表
- エ. その他 絵本実践を推進するための発表

(4) 構 成

① (部員の委嘱)

部員は、地区組織を通して募集し、会長が委嘱する。

② (部員数)

部員の人数は約 10 名とし、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭・司書を含める。

3. 平成 29 年度絵本研究部会委員

(敬称略 順不同)

部会長	高田 恵子	岡山市立馬屋下小学校長
事務局長	勝浦 由子	岡山市立加茂小学校教諭
研究員	六車 美加	岡山大学教育学部附属幼稚園教諭
〃	篠 崇敏	岡山市立吉備西幼稚園教諭
〃	枝松 尚美	岡山市立高島小学校教諭
〃	難波 真	倉敷市立南中学校教諭
〃	遠藤 裕美	倉敷市立南中学校教諭
〃	山本 泉	岡山市立後楽館高等学校教諭
〃	高槻 美保	岡山県立総社南高等学校教諭
〃	岡部 香	岡山県立倉敷商業高等学校

4. 今年の取り組み

今年度は「昔話絵本」を中心に研究してきました。

そして、県大会に向けた 1 年として、「わたしたちのおすすめの昔話ベスト 10」というテーマの元実践を重ねていきました。子どもたちがよりよい絵本と出会えるよう、得られた情報をより多くの教育現場で実践にかけていただくために、今後も紹介文研究も引き続き進めていきます。

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会

岡山県学校図書館協議会絵本研究部会では、「心をつなぐ絵本」という研究テーマのもと「昔話絵本」を中心に研究と実践を続けてきました。研究を通して確認された絵本と新しく出会った絵本の中から、読み聞かせたい絵本をお知らせします。

書名	著者	出版者	価格	出版年	実践学年
----	----	-----	----	-----	------



へたなんよ

ひこ・田中文 光村教育図書 ¥1,300 2017 幼～中
はまのゆか 絵

「おばあちゃんは みみがとおくて、でんわできくのがへたなんよ。」ワタルくんは走るのが、アスミちゃんは歌が、わたしはクレヨンにぎるのが、へたなんよ。でも、ワタルくんはボールをとるのが上手、アスミちゃんはクレヨンにぎるのが上手。へただったり、上手だったり、いろいろだよ。だから、みんな大好きだよ。心がほっこり温まるお話です。



わたしには夢がある

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア文 光村教育図書
カディール・ネルソン絵 ¥1,500 2013 小高～高
さくまゆみこ訳

1963年キング牧師は、20万人以上の群衆を前に民族や出身を問わず、全ての人々に自由を求めた歴史に残る名演説を行いました。象徴性に富んだ言葉をみごとな絵で彩っています。キング牧師のこの演説は、中学3年生の英語の教科書にも載っています。



おいしいそうなしろくま

柴田ケイコ 作・絵 PHP研究所 ¥1,300 2017 幼～中

食べるのが大好きな食いしん坊のしろくまは、「食べ物の中に入れてみたら、どんな感じかな？」と想像してみました。たまごやき、コロッケ、うどん……幸せそうなしろくまの表情と楽しい文、子供たちの想像を膨らませます。読み終わると、おなかもぺこぺこになります。



たべもんどう

鈴木のりたけ 作 ブロンズ新社 ¥980 2015 幼～中

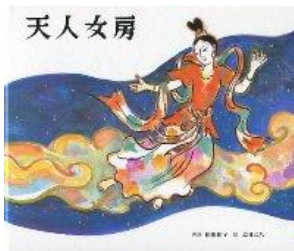
リアルな絵の野菜たちが、いろいろな言葉遊びを繰り広げます。早口ことばに、ダジャレに回文。『がぶり ぶり がぶり』なんて誰が思いつくでしょう。ブリにかぶりつくカブのシュールな表情に思わずゾクッ！各ページにひっそり登場しているきゅうりくん探しなど、隅々までじっくり楽しめる絵本です。クイズの答えは最終ページに載っていますので、ご安心を！



さんまいのおふだ

松谷みよ子 文 童心社 ¥1,100 2008 幼～小高
遠藤てるよ 絵

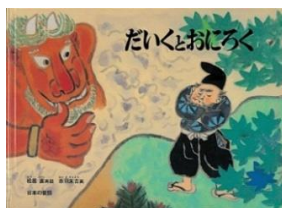
「みたか、みたな、こぞう。」小僧はやまんばにだまされて、あやうく食べられてしまいそうになりました。そこで、小僧は和尚さんからもらった三枚のお札で、やまんばから必死でにげようとしています。お札はいろんなものに姿を変えて、やまんばから小僧を守ります。そして、和尚が智恵を使いやまんばを食べってしまう最後の場面も楽しいですよ。



天人女房

稲田和子 再話 童話館出版 ¥1,500 2007 小高～高
太田大八 絵

やや不純なきっかけで天女を妻に迎えた人間の男。二人のその後にどんなできごとがあったのでしょうか……。天の羽衣伝説が、七夕と結びついたこの話は、鹿児島県の昔話です。空を見上げ、月や星を眺めながら天上世界を想像するのは楽しいことです。七夕の夜にはきっとこの話を思い出すでしょう。



だいくとおにろく

松居直 再話 福音館書店 ¥900 1967 幼～小低
赤羽末吉 画

流れの速い大きな川。そこへ橋をかけることになった村一番の大工。うまくいかず困っているところに現れたのはおおきな鬼。大工の目玉と交換に、鬼が橋をかけてくれるとのこと。いい加減に返事をしてしまった大工。橋は出来上がり、鬼は大工に目玉をよこせと言ってくる。さあ困った。ハラハラドキドキの一冊です。



いなばのしろうさぎ

赤羽末吉 絵 あかね書房 ￥2,000 1995 小～高
舟崎克彦 文

さめをだまして海を渡ろうとしたうさぎは、おこったさめたちに皮をはぎとられ、あかはだかにされてしまいます。通りかかった大国主命（おおくにぬしのみこと）に助けられて……。しろうさぎの「しろ」は「素（しろ）」、あかはだかのこと。語り伝えられた神々の物語。ことばのしらべが心地よい神話絵本です。



王さまと九人のきょうだい

君島久子 訳 岩波書店 ￥1,200 1969 小～中
赤羽末吉 絵

中国のイ族に伝わる民話です。一緒に生まれた、そっくりな九人兄弟がいて、彼らの名前は「ちからもち」「はらいっぱい」「ぶってくれ」など九人とも、とっても愉快的な名前です。兄弟九人が、それぞれの特技をいかして、悪い王様に勝ち、みんな幸せになるというお話です。痛快で、はらはらして、最後は「やったあ。」という気持ちになれる楽しい民話です。



白い池 黒い池 ～イランのおはなし～

リタ・ジャハーン＝フォルーズ再話 光村教育図書 ￥1,500
ヴァリ・ミンツイ絵 もたいなつう訳 2015 小中～高

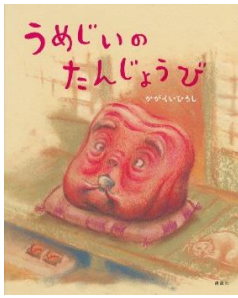
イランの昔話を、独特の色遣いの躍動感あふれる絵で表しています。選択した行動の違いにより、全く異なる結末を迎える義理の姉（妹）と主人公のシラーズ。「人は、思ったことを素直に言うとは限らない。人の心に寄り添って、心の声に耳をすまし、その人がほんとうに望んでいることができた、やさしい少女がいた。」という文章が印象的です。



まほうのえのぐ

林明子 作 福音館書店 ￥900 1997 幼～高

やっとお兄ちゃんから貸してもらえた絵の具。でも、思うようにはうまく描けません。そんな時へびが絵の具をくわえて逃げて行ってしまいます。追いかけて森の中に入ると、動物たちが思い思いに絵を描き出し……。絵を描くワクワク感が思い起こされる絵本です。



うめじいのたんじょうび

作 かがくいひろし 講談社 ¥1,400 2016 幼～小高

うめじいの誕生日をお祝いしようとする漬け物の仲間たち。浅漬けきゅうりやたくあん、らっきょうに千枚漬も集まって、「200歳?」「1000歳?」うめじいはいったい何歳になったのかワイワイガヤガヤ。うめじいの「うめことば」も不思議でユーモラス。読んでいる人みんなが、ほっこり癒される温かさいっぱいの絵本です。



ネコヅメのよる

町田尚子 作 WAVE出版 ¥1,400 2016 幼～高

「間違いない…今夜だ!」夜中にそっと出掛けていくネコたち。どこに向かうのか、何があるのか、ページをめくるたびに期待や緊張が高まります。ネコの瞳や毛の色と夜の色彩の対比も美しく、ネコの描き方も見事です。ネコの表情や仕草、そして瞳に引き込まれていきます。

優良図書研究会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、8月、10月、11月、2月の年6回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低学年・中学年・高学年）と中学校の4グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでもたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでおいてもらいたいなどという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすみたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが・・・）

これらの本は、岡山県青少年保護育成条例に基づく推薦図書の中にも入れられ、「岡山県公報」に載せられて広く紹介されています。

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本の中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいものです。

2 選定基準

1 内容事項

- (1) 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- (2) 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか
- (3) 分かりやすく、正確で、現代の進歩に応じてい

るかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、実際的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

(4) 主題を単に解説したものはとりあげない。

2 編集・出版事項

(1) 短編集は採用しない。

(2) 多くの合さんのものは採用しない。

(3) 新刊書であること。

(4) 辞典、事典類は採用しない。

(5) シリーズ全巻を対象としない。

3 図書群の構成事項

(1) 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに片寄り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。

(2) 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

4 装丁・体裁事項

(1) 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。

(2) 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長 高田 恵子 岡山市立馬屋下小学校校長
部会事務局長 勝浦 由子 岡山市立加茂小学校教諭
<部会員>

小学校の部

木下 由布子 岡山市立興除小学校教諭
大谷 彰子 岡山市立豊小学校司書
小川 薫 岡山市立芳田小学校教諭
松本 由美 岡山県立図書館主事
酒本 薫 岡山市立江西小学校教諭

中学校の部

稲田 智恵 岡山市立岡山中央中学校教諭
村上 詩織 岡山市立灘崎中学校司書
片岡 史昭 岡山市立福浜中学校教諭
虫明 涼子 倉敷市立水島中学校教諭
川井 益美 倉敷市立多津美央中学校教諭

平成29年 7月
岡山市教育委員会
岡山県学校図書館協議会

みなさんにすすめたい本

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方に選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることとなります。

小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	宮下 すずか	いち、に、さんすう ときあかしましょうがっこう すきなじかん きらいなじかん	くもん出版	64ページ ・1080円

時間ってふしぎですね。すきな時間はあっというま、きれいな時間はとてもながくかんじます。きゅうたくんは、さんきちくんをまっている時間がきれいです。いつもまたされてばかりのきゅうたくんは、とうとうおこってしまいました。きゅうた君といっしょに時間のふしぎについて考えてみましょう。



E	山田 マチ／作 北山 裕花／絵	てのりにんじゃ	ひさかた チャイルド	32 1404
---	--------------------	---------	---------------	------------



てのりにんじゃは、毎日しんけんにしゅぎょうをつんでいるまじめなにんじゃです。でも、とてもちいさいからちょっとかわいくかんじますよ。もし、てのりにんじゃがあなたの家にやって来たら、シャボン玉をふいてみてください。シャボン玉でしゅぎょうするてのりにんじゃを見て、あなたはきっと大好きになりますよ。

913	あしはら 葦原 かも	うみのとしょかん	講談社	78 1188
-----	---------------	----------	-----	------------

うみのとしょかんは、ヒラメがせわをしています。毎日、たくさんの生き物が本のそうだんにやってきます。アオザメ、タコ、マンボウ…。みなさんと同じようにどの生き物も本を楽しんだり、新しい本をまちどおしく思っていたりしています。この本を読んで、みなさんもうみのとしょかんに出かけてみましょう。



小学校中学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
943	トーマス・クリストス	宿題ロボット、 ひろったんですけど	あかね書房	151ページ 1404円

宇宙調査のために開発された、高性能ロボット「オルビー」は、おもしろくない宇宙空間を一生飛び続けるのがいやになり、研究所をにげ出してしまう。そして、出会ったリヌスにかくまわれ、一緒に生活することに。ロボットが活躍する楽しい物語です！



913	くまざわ あかね	七福神の大阪ツアー	ひさかた チャイルド	112 1404
-----	----------	-----------	---------------	-------------

七福神ってどんな神様か知ってる？みなさんに色々な福を授けてくださる、ありがたい神様です。そんな神様の年に一度の楽しみが、7人集まったの慰安旅行。ポケあり、ツッコミありの珍道中。とっても楽しい本ですよ。

E	濱 美由紀	羽田空港	小学館	32 1620
---	-------	------	-----	------------

かみなりくんと小おにちゃんが空港スタッフのお姉さんと一緒に羽田空港を探検します。最新型の飛行機や空港にしかない車やはたらく人もたくさん見つけました。楽しい旅が始まる空港のヒミツやすごさに感動するはずです。



913	野村 一秋	4年2組がやってきた	くもん出版	96 1404
-----	-------	------------	-------	------------



しゃべれないし、歩けないし、手もうまく動かせない。マー君は脳性マヒです。だけど、みんなみたいにしゃべったり、外で遊んだり、したいことはたくさんあります。マー君と4年2組の子どもたちの心の交流を通して、マー君の気持ちによりそってみてください。

小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
375	下村 健一	想像力のスイッチを入れよう	講談社	176ページ 1296円

想像力とはみんながこれから生きていくうえで、とても必要な力になります。全国3カ所の小学校が行った授業が、きっと君の想像力のスイッチを入れるコツを教えてくださいますよ。この夏にためしてみてはいかがでしょうか。新しい世界が広がるかもしれませんよ。



913	吉橋 通夫	はっけよい！雷電	講談社	255・1512
-----	-------	----------	-----	----------



両国国技館で相撲を観戦していた太郎は、力士とぶつかったことがきっかけで、江戸時代にタイムスリップしてしまう。そこで、伝説の大力士雷電と知り合い、その人柄にほれこむ。江戸の生活や風俗が生き生きと描かれた一冊。

933	アレックス・ジーノ	ジョージと秘密のメリッサ	偕成社	222・1512
-----	-----------	--------------	-----	----------

主人公のジョージ（10歳）は、体は男の子ですが、自分は女の子だと感じています。トランスジェンダーの子の気持ちを、家族や親友が受け入れる様子を温かくユーモアをまじえて描いています。メリッサの感動的なラストをぜひ読んでみてください。



中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	椎野 直弥	僕は上手にしゃべれない	ポプラ社	328ページ 1620円

言葉がつかえる吃音をもつ悠太は、人前で話すことが苦手でした。伝えたい言葉はあるのに、うまく口にして話すことができない苦しみを抱え、それでも家族や部活の仲間を支えられながら、彼は悩みつつも努力していきます。



289	宮田 律	ナビラとマララ	講談社	172・1296
-----	------	---------	-----	----------



アメリカのドローン攻撃によって負傷し、肉親を失ったナビラ。だが、アメリカは事実を認めず、謝罪すらしない。一方、マララはホワイトハウスにまで招かれたのに…。異なる事件に巻き込まれた二人のパキスタンの少女の境遇を比較することで、現代のイスラム社会が受けた悲劇について考えさせられる一冊。

93 3	パム・ムニョス・ライアン	メキシコへわたしをさがして	偕成社	252 1620
---------	--------------	---------------	-----	-------------

ナオミは、ネズミのように臆病な女の子。トレーラーハウスあちゃんと体に障害のある弟と暮らしている。母から逃げたルーツであるメキシコを訪れ、ライオンのような勇気を手に入る成長の物語。



平成29年 12月

みなさんにすすめたい本

岡山市教育委員会
岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。新しく発行されたたくさんの本の中から、みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方を選んでいただきました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

小学校低学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格(税込)
913	井上 よう子	カラスだんなのはりがねごてん	文研出版	72 ページ ・1296 円

カンタたち、わかいカラスのあこがれ「カラスだんな」。そのカラスだんなのはりがねごてんは、とてもきれいとひょうばんでした。ある日、ごてんの中を見せてもらえることになったカンタたちが、わくわくして見たものはいったいなんだったのでしょうか。



913	トビイ ルツ	どうぶつがっこう とくべつじゅぎょう	PHP 研究所	95 1188
-----	--------	-----------------------	---------	------------



「どうぶつがっこう」は、どうぶつたちが先生で、にんげんの子どもたちがせいとの学校です。その中にしまうまの子どもが1とう。にがてなことやきらいなことばかりで、つかれてしまったしまうまくん。どうやって元気になっていくのでしょうか。読んでみましょう。

E	アンドレア・ ベイティ	しっばい なんか こわくない!	絵本塾出版	32 1512
---	----------------	-----------------	-------	------------

ロージーは、せかいいちのエンジニアになりたいというゆめも、つくったメカも、しっばいをこわがってひっそりとしまいこんでいます。しかし、チーズコプターをつくったとき、本当はしっばいじゃないと気づいたのです。ゆめにむかって明るくすすんでいける絵本です。



小学校中学年向き

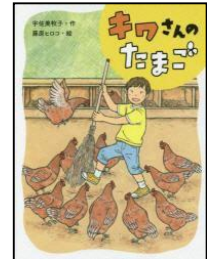
分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
933	ジュディス・カー	アルバートさんと 赤ちゃんアザラシ	徳間書店	144 ページ 1512 円



アルバートさんは、海で母親を亡くした野生のアザラシの赤ちゃんを拾います。連れて帰って、地元の動物園に引き取ってもらはずでしたが…。赤ちゃんアザラシのために、アルバートさんがいろんな困難を乗り越えていきます。

913	宇佐美 牧子	キワさんのたまご	ポプラ社	167・1296
-----	--------	----------	------	----------

夏休みに何の予定もないサトシは、養鶏を営むキワさんのまぼろしの卵の話を知る。そこでこの夏は「弁当屋アサヒ」をやって、忙しく働いている両親のために、まぼろしの卵で卵焼き作りを計画する。しかし、キワさんが卵をもらうためには、いろいろと大変なことが…。



489	横山 亜未	こんにちはふたごのカワウソあかちゃん ツメナシカワウソの成長物語	学研プラス	123 1512
-----	-------	-------------------------------------	-------	-------------



日本では珍しいツメナシカワウソ。伊勢シーパラダイスで、全国3例目となるツメナシカワウソの出産がありました。赤ちゃんはすくすく育っていましたが…。小さな命を守るために、お母さんのかわりにスタッフが大切に育てていく成長物語です。

371	ローズマリー・マカーニー	すごいね！みんなの通学路	西村書店	34 1620
-----	--------------	--------------	------	------------

みんなが毎日、学校に通う通学路。川の中を渡ったり、自分で船をこいだりしている人はいないね。でも世界の子もたちの通学路の中には、すごい通学路があるよ。この本は世界中の子もたちが通学する姿をとらえた写真絵本です。



小学校高学年向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
913	いとう みく	唐木田さんち物語	毎日新聞出版	167 ページ 1512 円



小5の志朗は、8人兄弟の10人家族で、いろいろ面倒なことも多いのです。お姉ちゃんが結婚したり、父ちゃんがよその子を預かってきたり…。この物語には、少しずつ変わっていくけれど、変わらない家族の絆が描き出されています。

369	小山 朝子	介護というお仕事	講談社	173・1404
-----	-------	----------	-----	----------

日本は急速に高齢者の割合が増え、介護という仕事は社会から強く求められています。この本には小学生から身につけられる介護の基本技術と心構えが書いてあります。介護に関わる仕事に関心がある人にとって参考になる本です。



949	オーサ・ストルク	わたしも水着をきてみたい	さ・え・ら書房	41 1296
-----	----------	--------------	---------	------------



ソマリアからスウェーデンに引っ越ししてきたファドマは、学校でプールの授業を見学。そして、わたしも水着を着て泳いでみたいと思うようになりました。文化や慣習は違っていても、新しい何かに挑戦したいという気持ちは同じですね。さあ、ファドマの挑戦はどうなるのでしょうか。

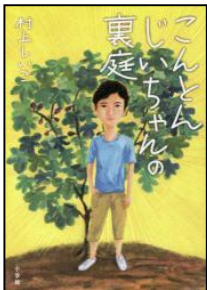
中学生向き

分類	著者名	書名	発行所	ページ 価格 (税込)
933	フィリップ・ロイ	ぼくとベルさん 友だちは発明王	PHP 研究所	222 ページ 1512 円

ディスレクシアという学習障がいをもつ、読み書きが不自由な少年エディは、発明王ベルと出会い、努力し続けることの大切さを学んでいく。年の離れた二人の友情や難しい数学の本から知識を得て、大事なものを守ったエディの姿が胸を打つ。



913	村上 しいこ	こんとんじいちゃんの裏庭	小学館	252・1512
-----	--------	--------------	-----	----------



コンビニで自分の進路を邪魔した店員をけってしまった悠。どうしてそんなことを…と思う間もなく認知症の祖父が車にはねられ、意識は「こんとん」としたままに。悠は学校に行くよりも大切なことを学んでいく。三世代クロスオーバーをテーマにした物語。

913	八束 澄子	明日のひこうき雲	ポプラ社	286・1512
-----	-------	----------	------	----------

遊の晴れない心に変化をもたらした一人の少年。彼がサッカー部と知った遊は、マネージャーを希望してサッカー部を訪れる。その日から遊の生活は変わり始めた…。うまくいかないことに落ち込んだ時、読んでほしい一冊。



指定図書選定委員会

平成30年3月2日(金)、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、平成30年度第64回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。

指定図書選定委員

県SLA会長	福田 邦男	岡山県立倉敷古城池高等学校校長
副会長	高田 恵子	岡山市立馬屋下小学校校長
〃	門田 正充	岡山市立岡輝中学校校長
小教研事務局長	勝浦 由子	岡山市立加茂小学校
小教研事務局長	山根和佳子	岡山市立馬屋下小学校
中教研事務局長	仁科 恵子	岡山市立妹尾中学校
中教研事務局補佐	佐伯 詩帆	岡山市立福田中学校
県SLA事務局長	末吉美加子	岡山県立倉敷古城池高等学校
アドバイザー	三宅 健夫	県教育庁義務教育課指導主事(主幹)
選定委員	木下 由布子	岡山市立興除小学校
〃	大谷 彰子	岡山市立豊小学校
〃	小川 薫	岡山市立芳田小学校
〃	酒本 薫	岡山市立江西小学校
〃	松本 由美	岡山県立図書館
〃	村上 詩織	岡山市立瀬崎中学校
〃	川井 益美	倉敷市立多津美中学校
〃	片岡 史昭	岡山市立福浜中学校
〃	虫明 涼子	倉敷市立水島中学校
〃	稲田 智恵	岡山市立岡山中央中学校

岡山県指定図書について

- 内容
読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。
- 目的
 - 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
 - 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
 - よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
 - 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。
- 方法
 - 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
 - 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。

- 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、小学校高学年3点、中学校3点とする。

4 その他

- 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- 岡山県指定図書は、昭和55年度(第26回)から設けている。

平成29年度岡山県指定図書(県指定)

小学校 低学年	『しゅくだい大なわとび』 福田 岩緒 (PHP研究所) 『じてんしゃのほねやすみ』 村上 しいこ (PHP研究所) 『100円たんけん』 中川 ひろたか (くもん出版)
小学校 中学年	『三年一組、春野先生!』 くすのき しげのり (講談社) 『世界一の三人きょうだい』 グードルン・メプス (徳間書店) 『警察犬になったアンズ』 鈴木 博房 (岩崎書店)
小学校 高学年	『未来のクルマができるまで』 岩貞 るみこ (講談社) 『紅のトキの空』 ジン・ルイス (評論社) 『「水辺の学校」の所くん』 本田 有明 (PHP研究所)
中学校	『夜間中学へようこそ』 山本 悦子 (岩崎書店) 『モンスーンの贈りもの』 ミタリ・パーキンス (鈴木出版) 『手をつなごうよ フィリピン・ミンダナオ図書館』 松居 友 (彩流社)

平成29年度 岡山県学校図書館協議会事業報告

	実施事項	期日	会場	内容
5月	新旧代表役員会及び研修会	5/11(木)	倉敷古城池高等学校	・役員の確認 ・総会提出議案の協議
	第1回司書部会理事会及び研修会	5/25(木)	倉敷古城池高等学校	・学校司書実態調査について ・学校司書研修会について ・津山大会について、各地区情勢報告
6月	第68回総会及び研修会	6/8(木)	ライフパーク倉敷	・平成28年度事業・決算報告 ・平成29年度事業計画・予算案
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/22(木)	倉敷古城池高等学校	・総会議決事項報告 ・事務連絡 他
7月	平成29年度岡山県学校司書研修会	7/26(水)	水島愛あいサロン	・全体会、交流会 その他
8月	第52回岡山県学校図書館研究大会 (津山大会)	8/22(火)	勝北文化センター 勝北公民館他	・講演、分科会
10月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/4(水)	妹尾中学校	・審査会準備
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/10(火)	倉敷古城池高等学校	・審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/26(木)	馬屋下小学校	・小中高別の審査
		10/30(月)	妹尾中学校	
11月	読書感想文コンクール最終校正会議	11/30(木)	倉敷古城池高等学校	・「読書感想文集2017」最終校正
	第2回司書部会理事会及び研修会	11/29(水)	倉敷古城池高等学校	・学校司書研修会(倉敷大会)報告について ・平成30年度研究協議会について
12月	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/14(木)	岡山県立図書館	・表彰式
1月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/11(木)	倉敷古城池高等学校	・平成29年度事業中間報告 ・事務連絡 他
	読書感想文コンクール審査会	1/11(木)	三勲小学校	・小中高別の審査
		1/11(木)	石井中学校	
		1/12(金)	総社高等学校	
2月	代表理事会及び研修会	2/15(木)	倉敷古城池高等学校	・平成30年度総会提出議案の協議
3月	指定図書選定委員会	3/2(金)	岡山県立図書館	・平成30年度青少年読書感想文岡山県 コンクールの県指定図書の選定
	第3回司書部会理事会及び研修会	3/5(月)	倉敷古城池高等学校	・平成30年度研究協議会について ・学校司書実態調査について ・各地区情勢報告 他

平成29年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
岡山	第1回 正・副会長研修会	5月23日(火)	芳田公民館	・平成28年度事業報告・決算報告 平成29年度事業計画・予算案等	10
	総会並びに第1回区別研修会	5月30日(火)	御津公民館	【総会】 ・平成28年度事業報告・決算報告 平成29年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)	198
	第1回 理事研修会	7月4日(火)	西大寺公民館	・第63回読書感想文コンクール 岡山市一次審査に向けて	17
	全体研修会並びに第2回区別研修会	7月31日(月)	御津公民館	【全体研修会】 ・「新学習指導要領の求める学校図書館 ー主体的・対話的で深い学びを求めるとはー」 ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科 准教授 赤木 雅宜 先生 ・第2回区別研修会(読書感想文一次審査会に向けて)	197
	第62回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査会(区)	9月8日(金)	北1区 福渡小学校	【第63回読書感想文コンクール 岡山市一次審査会】 ・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦	36
		9月7日(木)	北2区 足守中学校		26
		9月7日(木)	中区 操明小学校		30
		9月7日(木)	東区 浮田ふれあいプラザ		27
		9月14日(木)	南区 浦安小学校		36
	第62回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査会(市)	9月21日(木)	西大寺公民館	【第63回読書感想文コンクール 岡山市二次審査会】 ・岡山市学校図書館協議会会長賞(県出品)・協議会賞・入選作品の選考	33
		10月24日(火)	百花プラザ	平成29年度 小教研・中教研・岡山支部学校図書館部会 研究発表会 発表者 旭東中学校 安東 美香先生、長瀬 幸子先生	58
	第2回理事会研修会	12月7日(木)	上道公民館	・第2回区別研修会について ・研究部について	29
		12月21日(木)	西大寺公民館	・研究部会 研究テーマについて	15
	第3回区別研修会	1月25日(木)	北1区 大元小学校	・研修会(岡山市立灘崎小学校 校長 長瀬 尚樹先生) ・実践報告 ・研修会(岡山市立灘崎小学校 校長 長瀬 尚樹先生) ・研修会(岡山市立灘崎小学校 校長 長瀬 尚樹先生) ※東区、中区合同開催 ・情報交換	39
		1月25日(木)	北2区 足守中学校		34
1月25日(木)		中区 操明小学校	32		
1月25日(木)		東区 操明小学校	39		
2月1日(木)		南区 浦安小学校	49		
第3回 理事会研修会	2月13日(木)	岡 輝 公 民 館	・読書感想文集代金集金 ・各区別研修会の反省	23	
第2回 正・副会長会	3月1日(木)	岡 輝 公 民 館	・平成29年度事業報告・平成30年度事業計画案	10	
反省と課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・各区別研修会では、研究に向けて実践報告をしたり、研修をしたりすることができた。また、事前に各区で会員の要望を聞いてから研修内容を計画するなど、ニーズに合わせた研修ができた。 ・研究については、研究部員が少なく今後増やしていく必要がある。また、計画的に研究部会を開催することができなかった。 ・全体研修会の時間を十分に確保するため、総会とは別日に開催してよかった。 ・読書感想文の出品について、書き方や文字数など細かい点も各校へ周知徹底ができていないことがあった。全体の場合、細かいところまで伝えていく必要がある。 ・読書感想文集の注文ミスがあったので、確認していく必要がある。 					
赤磐	赤磐市小中教研情報(図書館)部会総会	5月2日(火)	磐梨中学校	前年度の事業報告・決算報告、今年度の事業計画・予算計画、役割分担など	19
	読書感想文審査会	9月12日(火)	軽部小学校	審査について、審査会、県佳作・入選作品について、読書感想文集の注文について など	19
	反省と課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の研究実践、2年後の研究発表について計画を立てていかないといけない。 ・学級担任や教科担任の読書感想文への指導力をどのように高めていくか。 					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
和 気	第1回和気郡学校図書館協議会研修会	4月28日(金)	本荘小学校	○平成28年度の事業報告と平成29年度の事業計画について話し合った。	4
	和気郡読書感想文審査会ならびに研修会	9月12日(火)	本荘小学校	○読書感想文の審査を行い、読書感想文への取り組み状況と課題について、各校の実態をもとに話し合い、研修を深めた。	7
	反省と課題 ・読書感想文審査会においては、あらずじが大半を占めている作品も多かった。また、指定図書の出品数が少なかった。夏季休業中前に校内で課題・指定図書の読み聞かせや紹介をする機会を設けたい。 ・読書については、学校で「朝読書」を実施したり、読書週間を利用して「家読」を実施したりして、本に親しむ場や機会を増やす取り組みを続けている。今後も続けていきたい。				
備 前	第1回備前市学校図書館部会研修会	5月1日(月)	伊里中学校	○平成28年度の事業報告、平成29年度の組織作り・事業計画作成 ○各校の情報交換	15
	第1回 司書部会研修会	5月1日(月)	片上小学校	○平成28年度の活動報告、平成29年度の計画立案	15
	第2回 司書部会研修会	6月28日(水)	東鶴山小学校	○おすすめの本の紹介 ○展示コーナーの作成事例について	15
	第2回 研修会並びに読書感想文審査 小学校の部	9月12日(火)	片上小学校	○各校の読書指導情報交換	13
	第3回 研修会並びに読書感想文審査 中学校の部	9月12日(火)	吉永中学校	○読書感想文の審査と反省	5
	第3回 司書部会研修会	9月28日(木)	吉永中学校	○おすすめの本の紹介 ○小・中学校各部会研修会	15
	第4回 司書部会研修会	12月26日(火)	三石小学校	○おすすめの本の紹介 ○小・中学校各部会研修会	15
	第5回 司書部会研修会	3月2日(金)	備前中学校	○おすすめの本の紹介 ○小・中学校各部会研修会	15
	反省と課題 〈読書感想文審査会より〉 自分の体験と結びつけ、掘り下げている点で突出した作品が少なかった。また、体験は書けているが最後のまとめが弱く、まとまりのない作品が多かった。選書によって感想文の深まりが変わってくるので、選書にもアドバイスをすることが必要だと感じた。 〈司書部会研修会より〉 小学校・中学校の2部会にわかれ、校種別の研修を進め、専門的な学びができた。共通理解事項や司書資質の向上のために必要な研修事項が増えているので、これまで以上に研修内容や研修方法の精選を図り、研鑽を積んで、児童生徒及び教職員に還元していきたい。				
瀬 戸 内	第63回岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内市審査会・研修会	9月14日(木)	瀬戸内市中央公民館	読書感想文の審査と審査に係る研修等	18
	反省と課題 特になし				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
玉野	玉野市学校図書館協議会代表者会	6月26日(月)	日の出ふれあい会館	・平成28年度支部事業・決算等報告 ・平成29年度支部事業・予算等計画 ・読書感想文コンクール実施計画	24
	第63回青少年読書感想文コンクール支部審査会(小学校)	9月14日(木)	日の出ふれあい会館	・小学校低・中・高学年で各類型ごとに審査	27
	第63回青少年読書感想文コンクール支部審査会(中学校)	9月22日(金)	日の出ふれあい会館	・中学校各類型ごとに審査	16
	司書研修会	毎月1回	各小中学校輪番	・各学校情報交換と「おすすめの本」の紹介 ・学校図書館に関する調査についての研修 ・小学校部会・中学校部会に分かれての研修 他	24
反省と課題 ・読書感想文コンクールの審査や、読書感想文集の取りまとめについては先を見通して取り組むことができた。事務局が交代する際に、きちんと引継ぎができる体制を整えたい。また、学校司書研修会については、司書の資質能力の向上には寄与しているが、司書教諭との連携等に課題がある					
加賀	・第1回研修会	5月10日(水)	加賀中学校	・本年度の計画立案	14
	・第2回研修会	9月12日(火)	吉備中央町農振センター	・読書感想文加賀支部出品作品の審査 ・読書感想文の書き方の指導等についての研修	11
反省と課題 ・今年度も、読書感想文の出品数や審査の方法について情報交換を行うことで、審査会をスムーズに行うことができた。 ・読書感想文の出品数は、昨年度より少し減ってはいるが、町全体では200点以上の応募があった。今後も、学校図書館司書と協力しながら、児童生徒への読書推進や感想文の書き方の指導等を進めていくことで共通理解している。					
倉敷	倉敷市学校図書館協議会第1回研修会	8月8日(水)	くらしき健康福祉プラザプラザホール	○講演 講師 赤木 雅宣 先生 (ノートルダム清心女子大学 人間生活学部児童学科 准教授) 演題 「学校図書館からはじめる 新学習指導要領が求める学校図書館」	約150
	倉敷市学校図書館協議会第2回研修会	2月15日(木)	くらしき健康福祉プラザプラザホール	○発表 英語の絵本の読み聞かせ Merry Bus Ride-Kurashiki 英語の絵本を楽しく読もう！ ○実践報告 『子どもたちの主体的な「学び」のために「学校図書館だから」できることを追及して』 岡山市立第一藤田小学校 教諭 片岡 香織 先生 岡山市立大野小学校 学校司書 武田 江美子 先生	約130
	司書部会	年7回	ライフパーク倉敷 水島愛あいサロン	8つの研究テーマに分かれて研修を実施 (調べ学習・読書支援・授業関連・選書・環境整備・資料作成・マニュアル・学校図書館自己評価)	約90
反省と課題 ・今年度も研修会を2回計画した。第1回研修会では、新学習指導要領が求めている子どもの姿についての話からアクティブラーニングの視点からの理想的な学校図書館像の話まで、2学期からすぐに取り組みそうな話題を提供してくださった。第2回研修会では、岡山県学校図書研究協議会での発表から実践報告を伺うとともに、英語の絵本の読み聞かせをボランティアで行っている団体を招いて、目の前で英語での絵本の読み聞かせを披露してもらった予定である。1回目の研修会は夏休みに行くことができ、参加者も多数であったが、2回目の研修会は平日でしかも学校行事と重なり、やむを得ず欠席する教師も少なくなく、開催日時は今後の課題である。 ・司書部会では、平成29年度の研修は、昨年度に引き続き8つの研究テーマに分かれ研修をおこなってきた。そして、平成30年2月1日に行われた「第7回学校図書館司書部会」でこれまでの研修成果を発表した。新年度からは新たな班編成を組んで研修し、各校での職務に有効に活かして、倉敷の司書のスキルアップ、図書館の充実を目指す。					
浅口	中教研浅口支部学校図書館研究部運営委員会	5月1日(月)	鴨方中学校	事業計画決定	5
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部運営委員会	5月2日(火)	寄島小学校	主任選出、研究テーマ・事業計画立案	4
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部会	5月9日(火)	寄島小学校	研究テーマ・事業計画決定	16
	小教研浅口支会学校図書館教育研究部夏季研修会	8月22日(火)	勝北文化センター	岡山県学校図書研究大会(津山大会)への参加…寄島小学校司書教諭藤原恭子先生の発表「子どもと本をつなぐ学校図書館をめざして」を聴く。	14
	読書感想文浅口支部審査会	9月14日(木)	六条院小学校	読書感想文支部審査	24
反省と課題 特になし					

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
笠岡	笠岡市教育研修所 図書館教育部会 (小学校)	5月2日 (火)	笠岡市立中央小学校	○正副委員長の互選, 研修テーマ, 研修計画の決定 テーマ「読書意欲を高める指導と環境づくり」	25
	笠岡市教育研修所 図書館教育部会 (中学校)	5月2日 (火)	笠岡市立中央小学校	○研修テーマと研修計画の決定 テーマ「豊かな心を育む学校図書館づくり」	15
	笠岡市教育研修所 図書館教育部会 (小学校)	7月28日 (金)	笠岡市立中央小学校	○講話「読書意欲を高める指導と学校図書館活動」 講師 山陽学園大学 特任准教授 永井 悦重 先生	28
	笠岡市教育研修所 図書館教育部会 (中学校)	7月28日 (金)	笠岡市民会館 研修室	○「実になる本探し」 本・資料を持ち寄り、紹介、資料交換、話し合い	14
	岡山県学校図書館研究大会 津山大会	8月22日 (火)	勝北文化センター	○研修参加 テーマ「豊かな心を育み、言語活動を充実させる学校図書館」	6
	読書感想文コンクール支部審査会	9月19日 (火)	笠岡市立城見小学校	○読書感想文岡山県コンクールの支部審査	28
反省と課題 ・講話では、豊富な経験の中から、読書意欲を高めるための具体的な取り組みをお話していただき、大変参考になった。特に、子どもに無理に本を読ませようとするのではなく、『読む気にさせる環境作り』が大切だということが特に印象に残った。授業の中で、また日常的な図書館活動の中で、子どもの目線に立って環境作りを工夫し、「読みたい」「知りたい」気持ちを触発する活動を作っていきたいと感じた。 ・「実になる本探し」では、それぞれが本や資料を持ち寄り、資料交換と話し合いを行った。絵本を用いた道徳の授業展開や多分野の本を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができた。 ・岡山県学校図書館研究大会津山大会への参加により、子どもと本をつなぐ学校図書館を目指した取り組みや、図書館を活用した授業などについて学ぶことができた。					
小田	小田郡学校図書館協議会総会並びに研修会	7月10日(月)	矢掛町立小田小学校	・28年度事業報告, 決算報告 ・役員選出 ・29年度事業計画, 予算 ・情報交換	12
	感想文審査会	9月21日(木)	矢掛町立小田小学校	・読書感想文の支部審査会	11
	郡読書感想文集作成	11月6日(月)	矢掛町立小田小学校	・郡内優秀作品を印刷・製本して各校へ配布し、指導に役立てるようにした。	2
	反省と課題 ・各校に司書が週2日間来校するとき、学年ごとにブックトークや読み聞かせ等を学校ごとに工夫して取り組み、児童に好評であった。 ・学年相応の読書をすすめる指導の工夫が、今後も必要である。(特に保護者の協力を得ながら、家庭での読書の推進をいかに進めていくべきか) ・読書感想文の書き方の指導については、各校で学年に応じた指導をしたい。県に送付する作品の表記については、指導者の共通理解が必要である。				
井原	読書感想文支部審査会	9月22日(金)	芳井生涯学習センター	・平成29年度の活動計画 ・平成29年度の活動計画井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校の部 ・支部審査会 中学校の部	19 12 5
	感想文の表彰	10月 10月	各校	・支部作品の表彰 ・読書感想文集の注文とりまとめ	
	搬送分の配布	1月15日(月)		・読書感想文集の配布	
	感想文の表彰	1月	各校	・県出品作品の表彰	
	反省と課題 読書感想文集の学校用合本の注文について、小学校では中学生以上の感想文を読むことがない。小学生の作品を読むことが主である。小学校には、学校用を合本ではなく、小学校用で各校にお願いする方が快く引き受けてもらえる。学校用を、小学校用でも合本でもよいように検討してもらえないか。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
総社	図書館教育班会				
	第1回図書館教育班会(総社市教育研修所総会)	5月12日(金)	総社中学校	研修計画立案等	15
	第2回図書館教育班会	7月4日(火)	総社市図書館	総社市図書館との連携・情報交換	15
	第3回図書館教育班会(研修会)	8月4日(金)	高梁市立図書館	高梁市立図書館視察	14
	第63回岡山県青少年読書感想文コンクール総社支部審査会	9月7日(木)	中央公民館	読書感想文コンクール審査	23
	第41回岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会) 学校司書部会	7月26日(木)	水島愛あいサロン	研究会参加	12
	第1回学校司書部会	7月20日(木)	神在小学校	司書部会研修計画 実演の計画と準備	12
	第2回学校司書部会	7月27日(木)	阿曾小学校	お話の会実演と反省 相互貸借に役立つ選書について等	12
	第3回学校司書部会	12月14日(木)	維新小学校	読書週間の報告 相互貸借に役立つ選書について等	11
	第4回学校司書部会	2月2日(金)	新本小学校	今年度の反省 学校図書館システム研修 来年度の計画等	12
反省と課題					
<p>(班会)今年度も総社市図書館と情報交換の場をもち、連携しながら様々な活動を推進することができた。総社市図書館教育班会の研修として、高梁市立図書館を視察したことも大変有意義であった。</p> <p>(司書部会)今後の小・中学校間での相互貸借を促進するため、より需要の高い資料についての情報交換・選定を進めている。また、図書館運営システムの研修も継続しており、有効な活用につなげられている。来年度も引き続き有意義な研修を行っていきたい。</p>					
高梁	研修会	7月7日(金)	高梁市立高梁中学校	○年間計画の作成・配布物の説明	17
	読書感想文コンクール審査会	9月14日(木)	高梁総合文化会館	○読書感想文審査	21
	研修会(学校図書館司書部会との合同研修会)	3月1日(木)	高梁市立高梁中学校	○講話(講師 岡山県立図書館 東根 さやか 司書(主任)(内容)学校図書館の利用促進につながる取組について) ○協議 ・部会ごとの情報交換等 ・読書感想文への指導のあり方について ・今年度の取り組みの反省	25名予定 内：学校図書館司書部会12名参加
	反省と課題				
<p>・第1回研修会は県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼を行った。県の事務局会議の後の開催になるため、中体連等の行事との関係で、研修会の開催が遅くなり、学期末が慌ただしくなりました。各校への配布文書がデータで渡せたことは今回も好評だった。</p> <p>・感想文コンクール審査会では、小学校低学年と中学校では、出品数や内容等により審査にかかる時間が大きく異なり、審査後の反省や今後に向けて十分な協議時間がとれなかった。第1回研修会において感想文コンクールについての確認事項を連絡したが、徹底が十分できなかった面があり、今後気をつけたい。</p> <p>・3月1日に実施する学校図書館司書部会との合同研修会は、学校図書館をより有効活用するための取組について、岡山県立図書館東根さやか先生の講話を予定している。また、来年度に向けて読書感想文への指導のあり方について協議を行う予定である。</p>					
新見	理事会	6月1日(木)	阿新教育会館	事業計画	3
	学校図書館担当者会	6月27日(火)	阿新教育会館	昨年度の事業報告及び連絡	23
	読書感想文コンクール支部審査会	9月19日(火)	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査	21
	理事会	3月15日(木)	阿新教育会館	事業反省と来年度に向けての話し合い	4
反省と課題					
津山	津山市学校図書館協議会 第1回総会・研修会	6月6日(火)	津山市役所 東庁舎	組織体制や活動計画についての協議 岡山県学校図書館研究大会(津山大会)について	35
	理事会	7月4日(火)	津山市役所	支部事務局長会議の報告 読書感想文コンクールについて	10
	岡山県学校図書館研究大会(津山大会)事前準備会	8月21日(月)	勝北文化センター等	会場準備	22
	岡山県学校図書館研究大会(津山大会)	8月22日(火)	勝北文化センター等	講演・分科会の運営の手伝い	38
	図書選定会	8月24日(木)	津山ブックセンター	児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	26
	津山市読書感想文コンクール審査会	9月21日(木)	津山市役所	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	38
	図書選定会	2月1日(木)	津山ブックセンター	児童・生徒にすすめる本の選定と紹介文の作成	17
	津山市学校図書館協議会 第2回総会・研修会	3月6日(火)	津山市役所 東庁舎	活動の総括 来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議 研究集録「あゆみ」編集作業	38(予定)
反省と課題					
<p>・市の読書感想文コンクール審査会から県への提出締め切りまで10日間しかなかった。余裕を持った日程になるように、計画をしたい。</p> <p>・支部内の提出物回収が締め切りに間に合わないことがあった。分かりやすい文章で、各校の担当者に伝わるようにしたい。</p> <p>・県立中ができて3年目で、会への参加や配布物についてどうするかが明確になってきた。</p> <p>・事務局の負担が大きい。理事会を開催して、作業を手伝ってもらったが、分担や負担軽減に努めたい。負担が減るように引き継ぎをしっかり行いたい。</p>					

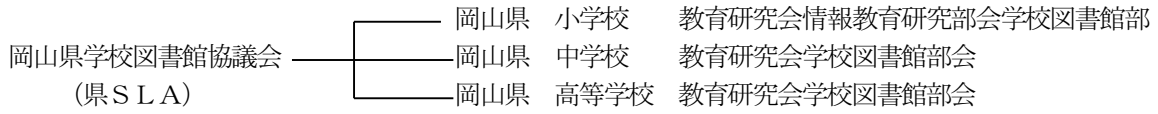
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
苫田	苫田郡学校図書館協議会総会並びに研修会	7月7日(金)	鏡野町立奥津小学校	今年度の活動計画 読書感想文への取組の確認 事務局総会の報告 等	10
	読書感想文審査会並びに研修会	9月12日(火)	ベスタロッヂ館	小中合同の審査会 低・中・高・中学校の4部会での審査	13
	苫田郡学校図書館協議会研修会	3月5日(月)	鏡野町立奥津小学校	本年度の活動についてのまとめ 情報交換	10
	反省と課題 ・各校で読書活動への取組を工夫し、子ども達が本に親しむ機会を充実させている。 ・今年度から支部の読書感想文審査を小中合同で行ったのは、小中連携の点からも良かった。 ・小規模の学校が多いため、支部から同じ者を県の読書感想文審査会に派遣するのが難しい面がある。				
勝田	勝田郡学校図書館協議会総会・研修会	7月10日(月)	奈義小学校	平成28年度事業報告・決算報告 平成29年度事業計画・予算案 読書感想文コンクールについて	6
	勝田郡読書感想文審査会(中学校の部)	9月19日(木)	奈義中学校	読書感想文審査	6
	勝田郡読書感想文審査会(小学校の部)	9月21日(木)	奈義小学校	読書感想文審査	4
	勝田郡学校図書館協議会研修会	2月5日(月)	奈義小学校	岡山県学校図書館協議会運営について 勝田郡学校図書館協議会活動反省	6
	反省と課題 ○勝田支部は小学校3校、中学校2校である。読書感想文審査会は少数校での実施であるため、作品の質的向上、審査員の確保の上から、他支部(例えば美作市)との合同審査を検討していただきたい。 ○学校図書館司書、町図書館司書を交えた、学校図書館運営のありかた、読書活動充実に向けての研修会を持ちたい。				
久米	第1回久米郡学校図書館協議会総会および研修会	7月10日(月)	美咲町立旭中学校	①平成28年度 事業報告ならびに決算報告 ②平成29年度 事業計画ならびに予算案 ③平成29年度 役員について ④読書感想文応募ならびに審査について	13
	第2回 久米郡学校図書館協議会研修会	9月21日(木)	美咲町役場第2分庁舎	読書感想文郡審査会	12
	反省と課題 事務局として不慣れで締め切りに遅れることやメールを見ていないことがあり、ご迷惑をおかけしました。				
真庭	真庭支部図書館協議会総会・研修会	6月27日(火)	落合総合センター	H28年度事業報告・H29役員選出・事業計画	31
	真庭支部読書感想文 審査会	9月14日(木)	久世公民館	読書感想文の審査	31
	反省と課題 ・例年通り、総会と審査会の2回の事業を行うことができた。 ・読書感想文の審査では、中学校7校の教員が1人ずつしか参加できないので、作品の審査に時間がかかった。 ・各校3冊の購入を呼びかけたが、なかなか難しかった。特に今年度は学校の合併に関わり、購入を控える学校が多かった。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
美作西栗倉	支部総会・研修会	6月29日(木)	英田小学校	28年度事業・会計決算報告 29年度役員選出、事業計画、予算案、読感文コンクール等について	15
	支部読書感想文審査会・研修会	9月15日(金)	美作中学校	読書感想文審査	7
	支部読書感想文審査会・研修会	9月22日(金)	作東農業改善センター	読書感想文審査	11
	反省と課題 ・支部総会の開催日を第1回事務局会の後6月中に実施できてよかった。(夏季休業中の課題準備に向けて早めに各校で取り組めた。) ・支部読書感想文審査会の日程調整を爽快の日に設けたのがよかった。(地区総体との関連に配慮) ・読書感想画についての再度呼びかけや支部提出締め切りの徹底が必要であった。				
備前	役員会	5月19日(金)	関西高校	平成28年度事業報告・決算報告 / 平成29年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	18
	総会	6月16日(金)	東岡山工業高校	平成28年度事業報告・決算報告 / 平成29年度役員案・活動方針・事業計画・予算案・事務局校・役員校のローテーション・研究発表校のローテーション等	30
	第1回研究会	8月9日(水)	関西高校	講演「学校図書館における教育支援」 講師：岡山大学大学院教育学研究科 教授 佐藤 暁 先生	37
	第2回研究会	12月8日(金)	関西高校	研究発表 題名「主体的で深い学びを目指す図書委員会の活動―H29文化祭展示(絵本研究)での取組―」 発表者：西大寺高校教諭 遠藤 撰夫 先生 講演 題名「学校図書館における司書と司書教諭の連携の在り方」 講師：岡山県立倉敷古城池高校司書 加茂 清太郎 氏	25
	第1回司書部会	4月27日(木)	岡山県立図書館	平成28年度活動報告・決算報告 平成29年度役員確認・活動予定・予算案 次回おすすめ本テーマ、次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校、新理事の決定・H30年度倉敷大会の役割分担 研修A(初任者研修) / 研修B(初任者研修参加者以外の司書による合同研修) テーマ：「図書館と司書ができること」 講演 「高校図書館の可能性」 講師：高見 京子先生 (以上備中・美作支部と合同)	午前 29 午後 29
	第2回司書部会	6月15日(木)	岡山白陵中学校・高等学校	資料に関する研修「なぜ本を読まないといけないの？」に答える名言・格言100 / 学校プチ紹介・おすすめ本の紹介 / 協議：理事会より平成29年度役員分担・次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校、平成28年度第4半期職員提案の審査結果について	午前 28 午後 28
	第3回司書部会	8月9日(水)	関西高校	講演「学校図書館における教育支援」 講師：岡山大学大学院教育学研究科 教授 佐藤 暁 先生(備前支部第1回研究会と合同) 協議：次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校 学校プチ紹介 / 人に関する研修「生徒への対応」・グループでおすすめの本の紹介	午前 37 午後 23
	第4回司書部会	12月6日(木)	岡山朝日高校	協議：ネットワーク研究会より 研修「図書館を使った授業」の紹介 「先生向けの広報物」の紹介(以上備中・美作支部と合同) 学校プチ紹介 / 協議：次回おすすめ本テーマ・次回開催校と内容・「プチ紹介」担当校 情報に関する研修「読書格言・名言を、使ってみた。～各校の取り組み事例より～」	午前 26 午後 26
	第5回司書部会(予定)	2月21日(木)	就実中学校・高等学校	プチ紹介(岡山芳泉・岡山御津・倉敷翔南) / 平成29年度・30年度の研修について / 読書格言・名言を使った取り組み紹介 / 就実中学校・高等学校図書館見学 / 場所に関する研修「今年度一番の図書館活動紹介」 / おすすめ本の紹介(料理・外国の言語) / 退任者挨拶	
	生徒図書委員会交流会	6月4日(日)	山陽女子中学校・高等学校	研修「読書診断を作る」 図書委員会活動の情報交換	15校 62名
	生徒図書委員会交流会	12月17日(日)	倉敷工業高等学校	研修「読書の楽しさや意義を効果的に伝える工夫を考えてみよう！」 図書委員会活動の情報交換	9校 25名
	反省と課題 岡山県のシステム変更に伴い、事務局(関西高校)から送信したメールが届かなかった学校や、上手く受信できなかった学校が複数あった。 送信するメールに開封確認の措置をするなどして対応したが、本校の側で根本的な対策を行うことは不可能であった。 今後も市立高校や私立高校が事務局を担当することになっているため、同様の事態が生じる可能性があることを念頭に置いておく必要があるだろう。				

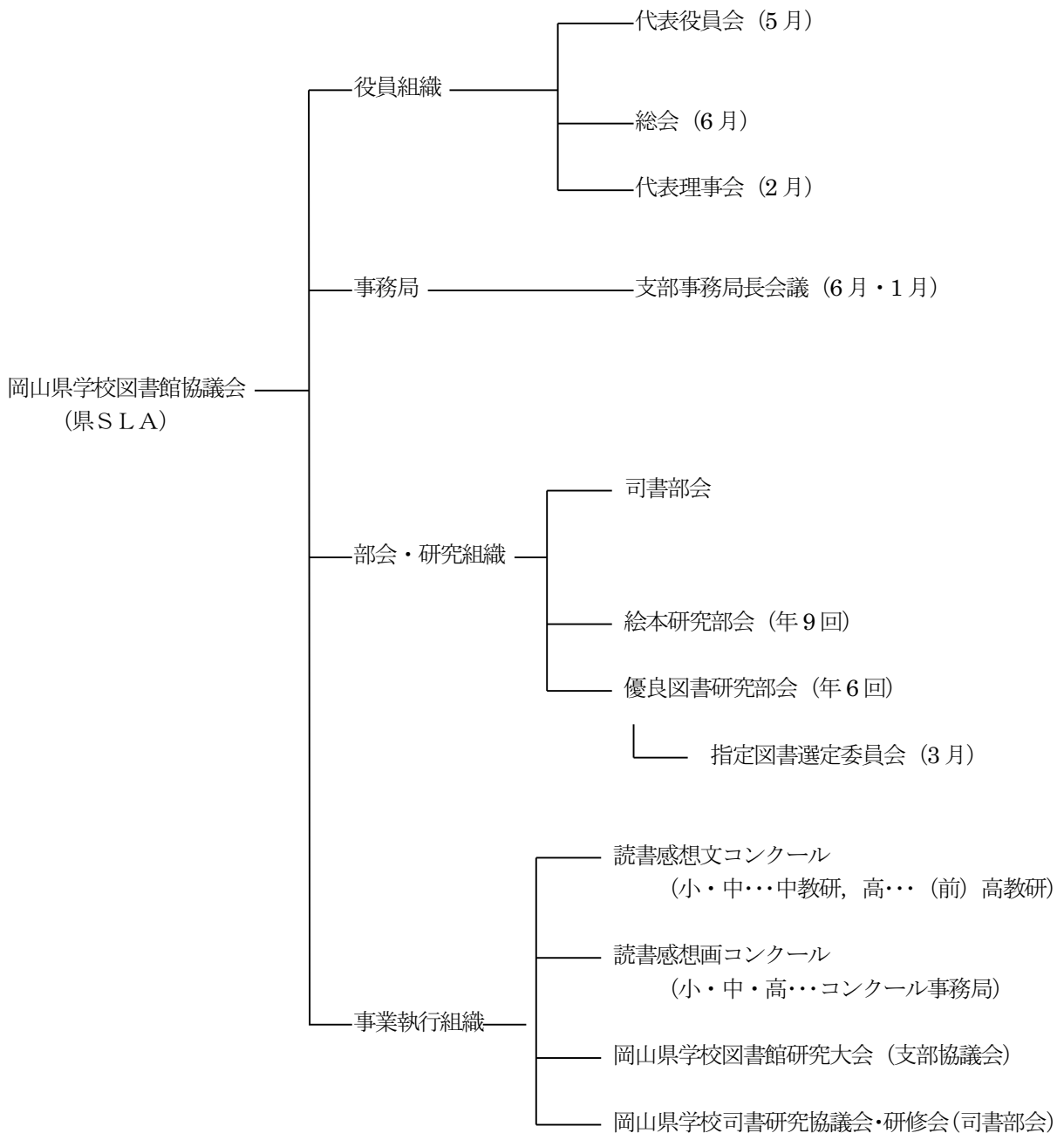
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加数
備中	1 役員会 第1回 役員会	6月28日 (木)	倉敷中央高校	(1) 平成28年度事業報告及び会計報告 (2) 平成29年度事業計画及び予算(案) (3) 支部総会・研究協議について	8
	第2回 役員会	2月23日 (水)	倉敷中央高校	(1) 平成29年度事業報告及び会計報告 (2) 平成30年度支部総会・研究協議について	11 (予定)
	2 総会・研究協議会	6月28日 (水)	倉敷中央高校	(1)報告事項・平成28年度事業報告及び会計報告・平成29年度役員紹介 (2)協議事項・平成29年度事業計画(案)及び予算(案)・申し合わせ事項について・発行負担金の徴収について (3)実践報告「生徒が活用しやすい図書室にするために」岡山龍谷高校 教諭 貴名峰江氏 (4)研究協議についての情報交換	28
	3 司書部会 第1回(第225回)	4月27日(水)	岡山県立図書館	(1)各支部研修 平成28年度司書部会会計報告・活動報告 平成29年度司書部会役員確認・活動予定・予算案 資料研究 (2)合同研修 初任者研修/合同研修①「授業・学習での活用 図書館と司書ができること」 合同研修② 講演「高校図書館の可能性」講師 高見京子氏(全国SLA学校図書館スーパーバイザー) サポート校グループによるフリートーク	25
	第2回(第226回)	6月28日(水)	倉敷中央高校	(1)研修: 明るい図書館作りのための環境整備《心構え編》・環境整備実習館・図書館見学 資料研究(配色・リメイク・インテリアに関する本) (2)高教研究学校図書館部会備中支部研究協議会に出席 実践報告「生徒が活用しやすい図書室にするために」岡山龍谷高校 教諭 貴名峰江氏	25
	第3回(第227回)	10月12日(木)	総社高校	(1)プレ発表: 高教研究学校図書館部会研究協議発表に向けて (2)研修 明るい図書館づくりのための環境整備《棚づくり編》 資料研究(ネット上での本、とつきにくい主題の書架で面出しすると「棚が映える」)	24
	第4回(第228回)	12月6日(水)	岡山朝日高校	(1)3支部合同研修「図書館を使った授業」の紹介 岡山芳泉・倉敷中央・玉野・倉敷商業「先生向けの広報物」の紹介 岡山東 大安寺 (2)支部研修 資料研究(年中行事の本、フリーテーマ) 研修 図書館配置について考えるグループワーク	25 (備中)
	第5回(第229回)	2月20日(火)	倉敷古城池高校	(1)研修 明るい図書館作りのための環境整備《総括》・新年度に向けて図書館案内等の検討 資料研究(「オススメない?」と聞かれた時のとっさの一冊、部活動関連の小説)	
	4 図書委員会交流会	12月17日(土)	倉敷工業高校	(1)交流会・研修「読書の楽しさや意義を効果的に伝える工夫を考えてみよう!」 (2)図書委員会活動の情報交換など	参加校9校 生徒25 教職員19
	反省と課題 ①司書部会での研修は、すぐに役立つ内容ばかりです。是非、多くの学校に参加していただきたいです。そのためには、参加者全員が発言しやすい方法を考えつつ、さらに研修を発展させて行く必要があります。 ②総会に参加されていない学校への資料や書類の発送を参加している学校に協力してもらったり、事務局で直接持つて行くことにより、通信費を抑えることができました。				
美作	第1回司書部会研修会(3支部合同)	4月27日(木)	岡山県立図書館	平成28年度活動報告・平成29年度活動予定、おすすめ本の紹介、初任者研修・合同研修、全支部合同研修	10
	第1回支部役員会・研究協議会	5月10日(火)	津山高校	平成28年度事業報告、平成28年度会計決算報告、平成29年度事業計画案、平成29年度予算案、平成29年度美作地区図書委員会交流会案、第52回岡山県学校図書館研究大会津山大会について、津山市相互協力協定締結10周年記念事業について	7 (役員会) 12名(協議会)
	第2回支部役員会	7月12日 (火)	津山高校	第2回研究協議会の研修内容について、津山市相互協力協定締結10周年記念事業について、読書感想文コンクール及び読書感想画コンクール案内等、第7回美作地区高校生読後感想文コンクールについて、第52回岡山県学校図書館研究大会津山大会について、平成29年度美作地区図書委員会交流会について	7
	第2回司書部会研修会	7月14日 (金)	真庭高校久世校地	おすすめ本の紹介、研修(環境整備、展示)	9
	平成29年度図書委員会交流会	8月4日 (金)	津山商業高校	聖地MAPを作ろう!	生徒20 教職員7
	美作地区高校生読後感想文コンクール	7月~12月	津山高校	美作地区高等学校対象	
	第3回司書部会研修会	10月19日 (木)	津山商業高校	おすすめ本の紹介、研修(展示、新聞作り)	9
	第4回司書部会研修会	12月6日 (水)	朝日高校	全支部合同研修(「図書館を使った授業」「先生向けの広報物」の紹介)、各支部研修(おすすめ本の紹介、「ボクの考える一番かっこいい図書館」)等	5
	第2回支部研究協議会	12月8日 (金)	津山高校	美作地区高校生読後感想文表彰式、平成29年度美作地区図書委員会交流会アンケート集計結果、第7回美作地区高校生読後感想文コンクールについて、平成30年度事業計画案、第8回美作地区高校生読後感想文コンクール等の連絡報告事項、研修「各校の学校図書館及び図書委員の取組について」	11
	第5回司書部会研修会	3月14日 (水)	勝間田高校	おすすめ本の紹介、図書館担当教員との取組等について、平成30年度活動計画	10
反省と課題					

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

(1) 会長は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長の中から選出される。

(2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。

(3) 代表理事は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副副会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

(4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。

(5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副副会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

(1) 会長は、会を代表し会務を総括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは

会務を代理する。

- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。
また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。
- (4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成8年6月4日一部改正

平成11年6月3日一部改正

平成14年5月30日一部改正

平成17年6月2日一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学区図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会会長の在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確率のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員

によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする

- ① 会則の改正
- ② 役員を選出
- ③ 事業計画並びに事業報告
- ④ 予算案並びに決算の承認
- ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。

- ① 役員の補充
- ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 67年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和25		(1) 東京				県 S L A 発足	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京 都					尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	「岡山学校図書館」 創刊9月20日付	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大 分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙 台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (操山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (宍井中)
1955	30		(6) 徳 島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館法施行	尾野作次郎 (操山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	
1957	32		(8) 札 幌		(3) 岡 山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (操山)	
1958	33		(9) 岡 山		(4) 岡 山	深川 恒喜		内藤 一人 (操山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	白井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (操山)	
1960	35		(11) 大 阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津 一)
1961	36		(12) 新 潟	(2) 広 島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	高祖 忠直 (深 柁) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松 山		(8) 岡 山	裏田 武夫		内藤 一人 (操山)	
1963	38			(3) 松 江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成 田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (操山)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉 吉	(11) 児島, 新見, 阿倍, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (操山)	
1966	41	3号	(15) 鹿兒島		(12) 津 山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津 山	(13) 津 山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢 掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 梶原良太郎 (岡 北)
1969	44	6号		(6) 防 府	(15) 岡 山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山 形		(16) 成 羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大 竹	(17) 津 山	岩田 齊		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵 庫		(18) 玉 野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出 雲	(19) 邑 久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北 房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥 取	(21) 苫 田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐 阜		(22) 倉 敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉 敷	(23) 倉 敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	梶原良太郎 未平 雅夫	川端 清稔 佐藤		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 藤原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 未平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21)佐賀		(24)瀬戸	三木 卓	表章式(感想文)	村井 董直(芳泉)	赤木 庚(妹尾小) 松本 猛(京山中)
1979	54	16号		(11)下関	(25)岡山	金田一春彦	30周年	村井 董直(芳泉)	新井 正志(敦石小) 森安 萌(旭中)
1980	55	17号	(22)盛岡		(26)新見	松島 栄一		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1981	56	18号		(12)広島	(27)久米	斉藤 実		宮脇 律(芳泉)	石井 汎(芳泉小) 森安 萌(旭中)
1982	57	19号	(23)伊勢		(28)和気	灰谷健次郎		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(旭中)
1983	58	20号		(13)浜田	(29)総社	松谷みよ子		宮脇 律(芳泉)	野上 賢二(竜之口小) 森安 萌(福南中)
1984	59	21号	(24)山口		(30)高梁	高木 敏子		宮脇 律(芳泉)	渡辺 武士(柱内小) 森安 萌(福南中)
1985	60	22号		(14)高梁	(31)高梁(兼中国)	松山 善三		横野 昭輝(芳泉)	渡辺 武士(柱内小) 黒住 郁雄(足守中)
1986	61	23号	(25)那覇		(32)真庭	倉本 聡		西田 譲(一宮)	森川 鏡也(馬屋上小) 村田 重臣(石井中)
1987	62	24号		(15)米子	(33)笠岡	宮城まり子		西田 譲(一宮)	古川 正治(加茂小) 岡島 将(興除中)
1988	63	25号	(26)札幌		(34)備前	矢口 高雄		杉山 定雄(一宮)	田代 尚夫(平島小) 岡島 将(興除中)
1989	平成元	26号		(16)宇部	(35)岡山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚(西大寺)	長安早智子(芳泉小) 岡島 将(福南中)
1990	2	27号	(27)松江		(36)新見	柴田 一		幾田 尚(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1991	3	28号		(17)広島	(37)勝田	岩崎 京子	第11回学校司書全国研究集会(於岡山)	坪井 克己(西大寺)	森谷 浩平(野谷小) 岡島 将(福南中)
1992	4	29号	(28)福岡		(38)倉敷	福田襄之介		皆木 徹典(和気郡谷)	森谷 浩平(野谷小) 大月 要(丸之内中)
1993	5	30号		(18)益田	(39)御津	宮地 暢夫		皆木 徹典(和気郡谷)	長崎 幡子(加茂小) 平田嬉世子(中山中)
1994	6	31号	(29)秋田		(40)川上	富永 一朗		中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 白神 幸世(京山中)
1995	7	32号		(19)鳥取				中野 宏(倉敷古城池)	瀬戸川 宏(宇野小) 赤木 久児(藤田中)
1996	8	33号	(30)埼玉		(41)英田	あさのあつこ		中野 宏(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1997	9	34号		(20)岡山	(42)総社, 真備(兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右(倉敷古城池)	亀高 嘉彦(深砥小) 赤木 久児(藤田中)
1998	10	35号	(31)金沢					鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
1999	11	36号		(21)岩国	(43)岡山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩(倉敷青陵)	菱川 成雄(高島小) 香川 璋子(高松中)
2000	12	37号	(32)奈良		(44)新見・阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 香川 璋子(高松中)
2001	13	38号		(22)広島				山根 健(倉敷南)	菱川 成雄(城東台小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2002	14	39号	(33)横浜		(45)津山	後藤 竜二		大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(灘崎中)
2003	15	40号		(23)出雲				大嶋 俊宣(倉敷天城)	料治 育子(伊島小) 綿谷 佳男(福南中)
2004	16	41号	(34)ひこくさ		(46)井原, 後月	佐々木正美		高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)
2005	17	42号		(24)倉吉				高槻 健(倉敷古城池)	坪井由紀子(政田小) 綿谷 佳男(福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中教研	高教研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚徳則 山名 徳則	森安 萌道男 相谷 道男	村井 董直博 岡 博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌道男 相谷 道男	村井 董直博 岡 博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌道男 相谷 道男	宮脇 律博 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌道男 相谷 道男	宮脇 律博 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌宏 瀬川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌宏 瀬川 宏	宮脇 律博 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	白井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌宏 瀬川 宏	宮脇 律博 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 郁雄 瀬川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鐵也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 讓亮 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 讓亮 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原 尚昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚昇 川原 尚昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畝岡 睦美	瀬川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏謙 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬川 宏 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充	中野 宏謙 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	中野 宏謙 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 脩篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩篤 森本 脩篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野かおり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡本信二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋かおり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡本信二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡本信二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会 (倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御津中) 竹内 裕子 (可知小)
2007	19	44号		(25)岡山	(47)岡山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可知小)
2008	20	45号	(36)熊本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下関	(48)鏡野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広島	(49)矢掛	赤木みゆ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東嶽小)
2014	26	51号	(39)甲府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉敷	(51)倉敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神戸					福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米子	(52)津山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷古城地)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅行 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅行 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 裕江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 裕江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 裕江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	坂江 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二部野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二部野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實 利子 利守 雅行	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二部野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰榮 宗實 利子 利守 雅行	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅行	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代

岡山県学校図書館研究集録（第 54 号）

発行日 2018年3月31日

発行所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒712-8046
岡山県倉敷市福田町古新田 116-1
岡山県立倉敷古城池高等学校内
TEL (086) 455 - 5811

発行責任者 福田 邦男
岡山県学校図書館協議会会長